

大阪大学総合学術博物館 年報 2008

大阪大学総合学術博物館
The Museum of Osaka University

大阪大学総合学術博物館
年報 2008

はじめに

大阪大学総合学術博物館の『年報』2008 を刊行いたします。

平成 20 年度は、博物館として待兼山修学館を 1 年間活用した最初の年度にあたります。

まず、3 階の多目的ルームを会場にした企画展・特別展について簡単にその成果を紹介しましょう。春季(2008 年 5 月 1 日～7 月 5 日)に、経済学研究科との共催で第 8 回企画展「東洋のマンチェスターから大大阪へー経済でたどる近代大阪のあゆみー」を開催しました。経済史研究所蔵の資料ばかりでなく、産業技術史学会が万博公園内に保管していた貴重な小型旋盤なども展示しました。大阪大学に縁の深い大阪府・大阪市は現在、経済の地盤沈下・財政難・人口の減少など様々な難問に直面していますが、私どもの先人たちが叡智を発揮し、経済と文化の繁栄を実現してきた時代を紹介することで、諸問題の解決の糸口になればとの思いからです。会期中の入館者は 3,890 名に達しました。

秋季(2008 年 10 月 31 日～12 月 20 日)には、薬学研究科、くすりの道修町資料館、少彦名神社、21 世紀懷徳堂、適塾記念会、サステイナビリティ・サイエンス研究機構と協力して、第 3 回特別展「21 世紀の薬箱ー新しい医療文化の形成ー」を開催しました。漢方と蘭方がみごとに融合した洪庵の薬箱の内容を詳細に紹介するとともに、くすりの品質維持と向上へのたゆまざる希求の歴史を、貴重な資料をもとにたどり、「21 世紀の薬箱」に詰めるべきくすりを探索している薬学研究科における最新の創薬研究を紹介しました。会期中の入館者は 3,326 名に上ります。

以上の企画展、特別展に加えて、博物館として初めての催し、「サイエンスカフェ@待兼山」の取り組みを、理学研究科、基礎工学研究科、大学教育実践センターの協力を得て開始しました。待兼山修学館のミュージアムカフェ「坂」を会場として、毎回定員 20 名で、前期 13 回、後期 12 回実施し、好評を博しました。

その他、社会との連携に関する事業として、豊中市教育委員会と連携した「夏の小学生科学体験教室」を 4 回、また、千里ライフサイエンス振興財団と連携して、小学 5,6 年生を対象とした「自然体験学習会」も 4 回開催しました。

さらに、いちょう祭、大学祭には待兼山修学館をオープンして、企画展、特別展を公開するばかりでなく、特別展に関連するミュージアムレクチャーも 4 回行いました。特筆すべきは、5 月 3 日のホームカミングデイには OB も含め 1 日で 770 名の方が博物館を訪れたことです。平成 20 年度の入館者は総数で 16,098 名になりました。

待兼山修学館において、企画展示場も自前で準備できることになり、これまで以上に地域交流型ミュージアムとして活発な活動を展開してゆく所存です。今後ともご指導ご鞭撻賜りますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

2009 年 6 月

大阪大学総合学術博物館長
江口太郎

目 次

1. 第8回企画展「東洋のマンチェスター」から「大大阪」へ	
－経済でたどる近大大阪のあゆみ－	3
1.1 展示概要	5
2. 第3回特別展 21世紀の薬箱 新しい医療文化の形成	13
2.1 展示概要	15
3. 平成20年度活動報告	35
3.1 平成20年度の主な活動	37
3.2 関連記事一覧	39
3.3 サイエンスカフェ@待兼山	
“土曜の午後はミュージアム”	41
3.4 夏の小学生科学体験教室	75
3.5 専任教員活動報告	77
3.6 常設展示来館者数及びアンケート集計結果	98
3.7 団体見学等一覧	110
3.8 待兼山修学館3階セミナー室使用状況一覧	112
4. 館内配置図	115
5. 寄贈図書一覧	121

1. 第8回企画展

「東洋のマンチェスター」から「大大阪」へ
ー経済でたどる近大大阪のあゆみー

1.1 展 示 概 要

大阪大学総合学術博物館第8回企画展「『東洋のマンチェスター』から『大大阪』へー経済でたどる近代大阪のあゆみー」を平成20年5月1日（木）から7月5日（土）の約2ヵ月にわたり大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館において開催した。

江戸時代に経済のセンターであった大阪は、幕末から明治維新期には衰退を余儀なくされたものの、明治期には近代産業を発展させ、20世紀末葉の大阪は、産業革命以来のイギリスの世界的工業都市にたとえられて「東洋のマンチェスター」と呼ばれるようになった。さらに1920年代後半（大正末・昭和初年）に「大大阪」を自負するようになった大阪市は全国一の工業都市となった。こうした近代大阪の経済発展のプロセスを、本学大学院経済学研究科の経済史経営史資料室が収集した資史料を中心にして、企業・団体および個人史料を加えて紹介した。待兼山修学館がリニューアルして2回目の企画展であったが、期間中の修学館への入場者数は、3,890名に上り大変好評であった。

大阪大学総合学術博物館 第8回企画展

テーマ：「東洋のマンチェスター」から「大大阪へ」ー経済でたどる近大大阪のあゆみー

期間：平成20年5月1日（木）～7月5日（土）

会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館3階多目的ルーム

主催：大阪大学総合学術博物館

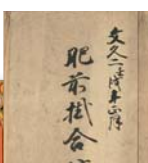
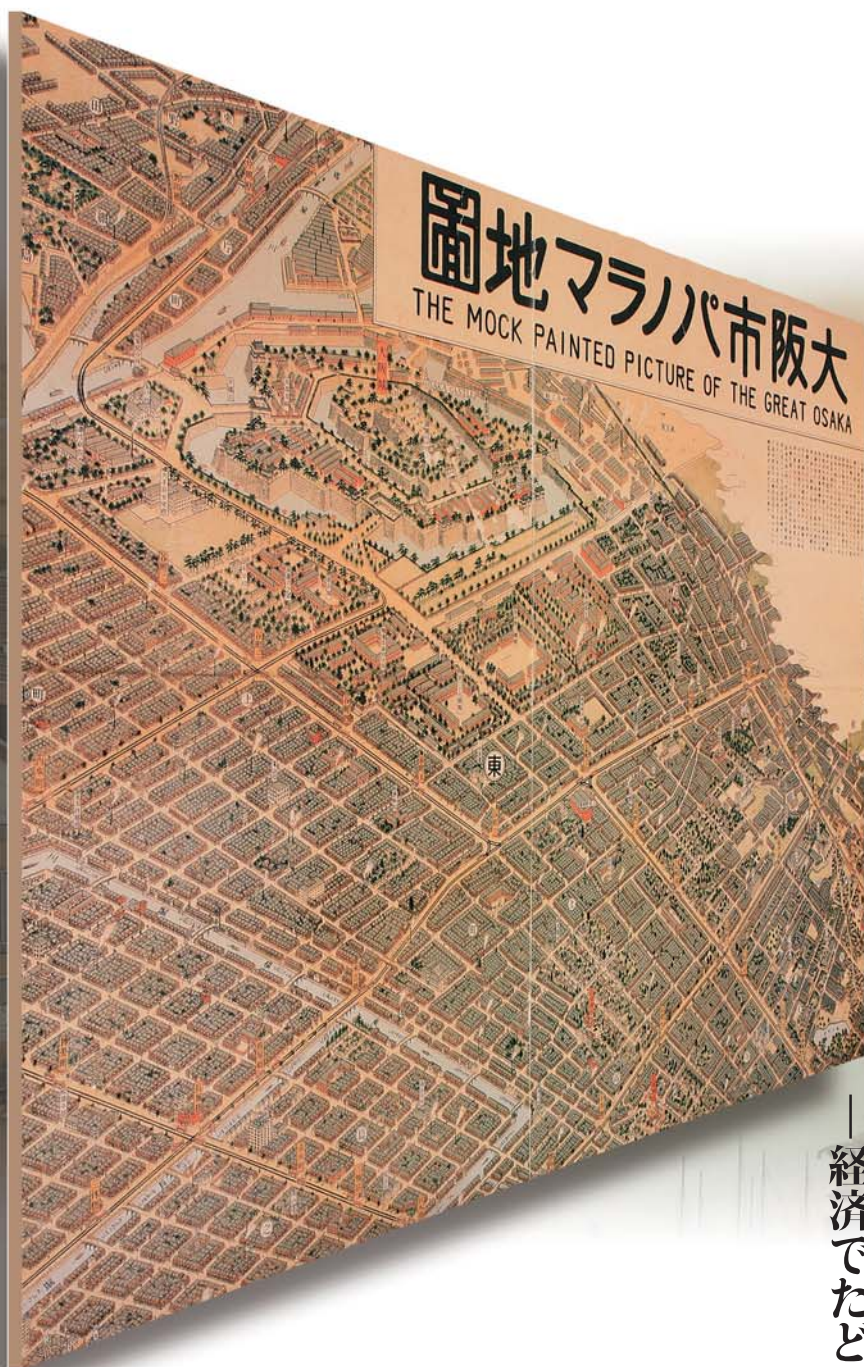
共催：大阪大学大学院経済学研究科

入場者数：3,890人

大阪大学総合学術博物館 第8回企画展

「東洋のマンチェスター」から「大大阪へ」

— 経済でたどる近代大阪のあゆみ —



2008年5月1日(木)～7月5日(土)

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

10時～16時30分(日・祝は休館。ただし、5月3日(祝)は開館) 入場無料

【主催】大阪大学総合学術博物館(共催)大阪大学大学院経済学研究科

【連絡先】大阪大学総合学術博物館・事務室 TEL 06(6850)6284

『東洋のマンチェスター』から『大大阪』へー経済でたどる近代大阪のあゆみー」展を振り返って

経済学研究科教授

沢井 実

大阪大学に関わりが深い大阪は経済の地盤沈下、財政難、人口の減少などさまざまな難問に直面しているが、かつて大阪に住んだ人々は叡知を発揮して苦しい状況を克服し、経済的文化的繁栄を実現してきた。

江戸時代に経済のセンターであった大阪は、幕末から明治維新时期には衰退を余儀なくされたものの、明治期には近代産業を発展させ、日本の工業化の先頭に立った。とくに 1882（明治 15）年創立の大阪紡績会社にリードされて大阪に多数の工場を設立した紡績業をはじめ泉州の産地織物業なども含む綿業は、商社や銀行に支えられてめざましく発展し、日清戦争（1894-95 年）ごろの大阪は、産業革命期以来のイギリスの世界的工業都市にたとえられて「東洋のマンチェスター」と呼ばれるようになった。

1920 年代後半（大正末・昭和初年）には「大大阪」を自負するようになった大阪市は全国一の工業都市となり、周辺も含めて大小様々な製造企業・私鉄各社・電力企業なども躍進した。そのころには労働問題や都市問題といった新たな難問も起こったが、当時の大阪市長・関一は積極的にそれらの解決に取り組んだ。

本企画展は、こうした近代大阪の経済のあゆみを研究している本学大学院経済学研究科の経済史経営史資料室が収集した資史料を中心にして展示することで、かつての活気ある大阪を広く伝え、観覧者が新しい展望を得られる機会になることを願って企画された。

展示の入り口、導入部には、大阪経済の発展が一覧できる経済年表、大阪発の新商品をイラスト化したパネル「おおさかヒット商品絵巻」（大阪商工会議所大阪企業家ミュージアム所蔵）、および実物の大正期の碌々商店製旋盤（国立産業技術史博物館誘致促進協議会所蔵）がおかれた。なおこの旋盤はその後同協議会から大阪大学総合学術博物館に寄贈され、博物館に展示されることになった。

続く展示の中心部分は、時代別に「近世の大坂経済」、「大阪経済の蘇生」、「大阪の工業化」および『大大阪』の時代の 4 パートに分かれた。

江戸幕府成立前後から急速に整備が進められた大坂は 17 世紀中に全国の経済センターとなった。中心地である大坂三郷（現在の大阪市中央区・北区・西区）には天満の青物、雑魚場の魚、堂島の米の 3 大市場ができたほか、本町周辺の繊維、道修町の薬種、西長堀付近の材木などのような問屋・仲買の地域的集積が進んだ。また北浜周辺には住友や鴻池などの両替商が集まり、大坂は日本の金融センターにもなった。「近世の大坂経済」では三井家と並び称され、大坂のみならず日本最大級の豪商であった鴻池家の両替店が大名諸侯に

対して大名貸を行った時の商談記録である「掛合控」、江戸時代における大坂三郷の土地台帳であり、農村における「検地帳」に相当する「水帳」が展示された。

「大阪経済の蘇生」では、衰退した大阪経済の再生に決定的役割を果たした五代友厚（1835-85 年）の生涯を描いた絵（18 枚）の一部（大阪商工会議所所蔵）が展示された。江戸時代に栄えた大阪の金融業は、幕末・明治維新期に衰退を余儀なくされたが、やがて銀行をはじめとする近代的金融機関へと姿を変えて復活する。鴻池善右衛門家の鴻池銀行、山口吉郎兵衛家の山口銀行、大阪市の呉服商たちが設立した三十四銀行は関西の代表的銀行であったが、1933 年末に合併し三和銀行（現、三菱東京 UFJ 銀行）となるが、このコーナーでは鴻池、山口、三十四の 3 銀行の関連資料が展示された。

続く「大阪の工業化」では、大阪紡績三軒家工場俯瞰図（東洋紡績株式会社所蔵）が多くの参観者の目を引いた。木津川近くの西成郡三軒家村（現、大阪市大正区）に設置され、1883 年に操業を開始した大阪紡績会社（現、東洋紡）のこの工場は、それまでの紡績工場が通常紡機 2000 錘であったのに対し、10,500 錘という大規模で出発したが、松方デフレと呼ばれる大不況期にもかかわらず高配当を実現して、景気回復後の大規模紡績工場の勃興のパイオニアとなった。

このコーナーでは戦間期の大阪経済の発展を支えたインフラストラクチャーに関する展示も多数行われた。住友家の有名な社会貢献活動である住友私立職工養成所に関する統計資料、府立の商品陳列所、産業能率研究所、工業奨励館に関する資料・写真、市立の工業研究所、都島工業学校、衛生試験所の写真パネルなどである。

最後の『『大大阪』の時代』では、新商品のレプリカとしてイトーキのホッチキス、森下仁丹の仁丹、さらに中山太陽堂の有名なポスター（株式会社クラブコスメチックス所蔵）などが展示された。また関市政の一端を知るために、大阪市役所産業部が編纂した大阪の主要産業に関する『大阪市産業叢書』の中の『大阪の瑠璃鉄器工業』が展示されたが、本書には瑠璃鉄器の生産、流通、輸出状況だけでなく、「^(ハルビン)哈爾浜」、「奉天」、「大連」、「天津」、「上海」、「印度」などアジア各地での外国品との競争状況、大阪製品の問題点などの情報も記載されている。

また『The Manchester Guardian』日本特集号（1921 年 6 月 9 日）も展示されたが、日本棉花株式会社社長の喜多又蔵（1877-1932 年）が「大阪とマンチェスター：綿業協商への祈り」と題する記事の中で、「偉大なイギリス綿工業は日本綿業の乳母であり」、大阪に機械と技術者を提供することで現在の「東洋のマンチェスター」の成長を助けたとし、最後にイギリスと日本の政治の中心である東京とロンドン同様、大阪とマンチェスターがより緊密な関係を築き上げることで、両国の政治的友好関係がさらに深まると結んでいた。

以上駆け足で展示内容の一端を振り返ったが、今回の企画では大阪商工会議所大阪企業家ミュージアム、東洋紡績株式会社社史室、株式会社クラブコスメチックス文化資料室、産業技術史学会などの企業・団体および個人のご所蔵資料を多数お借りした。この場を借りて衷心より御礼申し上げたい。



2. 第3回特別展
21世紀の薬箱
新しい医療文化の形成

2.1 展 示 概 要

大阪大学総合学術博物館 第3回特別展「21世紀の薬箱 新しい医療文化の形成」を2008年10月31日(金)から12月20日(土)の約50日間に亘り、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館において開催した。

特別展は博物館館員の研究に基づく主題で、年1回の企画である。幕末の蘭学者・緒方洪庵が愛用した薬箱をメインに、薬学研究科との共催で行い、会場を「薬箱が語る世界から」「高品質薬供給への使命」「21世紀の薬箱」の3ゾーンのテーマに分けて展示した。そして、新しい医療文化の形成の鍵となる「洪庵の薬箱」から大阪大学の国際的な薬物探求の歴史をたどり、21世紀の薬箱にふさわしい新たな薬物の探索・薬物治療の開発に関する最先端の研究を紹介した。大阪大学の研究者が求めている究極の治療に対する情熱をビジュアル化したいと考えたからである。期間中3300人以上の来館者があり、4回のミュージアムレクチャーと薬学研究科による公開講座の関連イベントは、多様な職種や年齢層の方々との交流を生み、地域に根付く医療関係者と大学をつなぐ開かれた拠点である博物館の役割と手ごたえを感じる貴重な機会であった。

特別展に関連したイベント	
ミュージアムレクチャー 【定員40名(当日先着順)】	公開講座
第8回ミュージアムレクチャー 日時：11/12(水)・12/13(土) 15:00～16:30 演題：「洪庵の薬箱に秘められた最先端の医療 ～医歯薬系学生のための特別レッスン～」 講師：総合学術博物館(兼)薬学研究科 高橋 京子・高橋 直子	大阪大学公開講座「くすり」と医療」 日時：11/29(土) 13:00～14:30 場所：大阪大学コンベンションセンター 1階研修室 演題：「和漢薬の多様性・品質と作用」 講師：総合学術博物館(兼)薬学研究科 高橋 京子
第9回ミュージアムレクチャー 日時：11/22(土) 15:00～16:30 演題：「タンボボのなぞ」 講師：昭和薬科大学 高野 昭人	事前申込必要・問合せ先・薬学研究科庶務係 TEL.06-6879-8144(直通)
第10回ミュージアムレクチャー 日時：12/6(土) 15:00～16:30 演題：「五感で楽しむ ～ハーブの世界～」 講師：薬学研究科附属薬用植物園 道下 雄大	

大阪大学総合学術博物館 第3回特別展

テーマ：21世紀の薬箱 新しい医療文化の形成

期間：平成20年10月31日(金)～12月20日(土)

会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階多目的ルーム

主催：大阪大学総合学術博物館

共催：大阪大学大学院薬学研究科

協力：大阪大学 21世紀懐徳堂、適塾記念会、くすりの道修町資料館、少彦名神社、
乃村工藝社

入場者数：3,326 人

関連ミュージアムレクチャー参加者数：

第 8 回ミュージアムレクチャー(11 月 12 日開催)

「洪庵の薬箱に秘められた最先端の医療～医歯薬系学生のための特別レッスン～」 21 人

第 9 回ミュージアムレクチャー「タンポポのなぞ」 20 人

第 10 回ミュージアムレクチャー「五感で楽しむ～ハーブの世界～」 20 人

第 8 回ミュージアムレクチャー(12 月 13 日開催)

「洪庵の薬箱に秘められた最先端の医療～医歯薬系学生のための特別レッスン～」 19 人

大阪大学総合学術博物館

第3回特別展

21世紀の薬箱

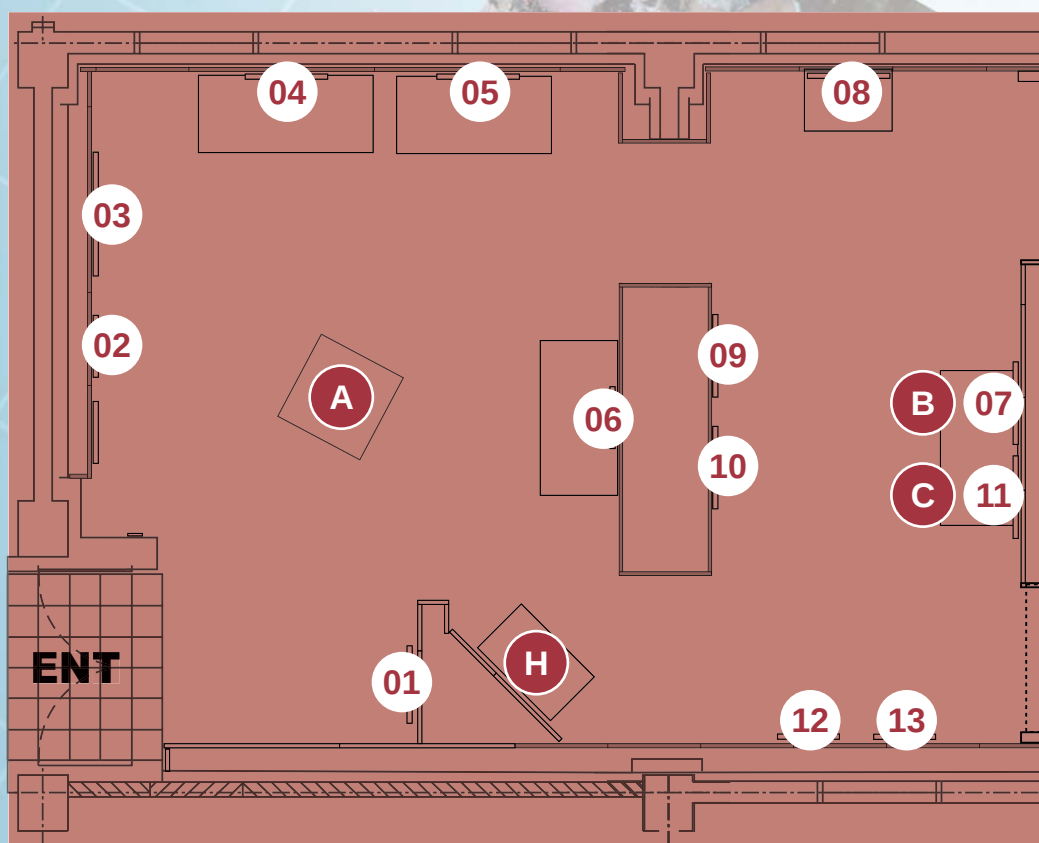
新しい医療文化の形成



Floor Guide



薬物療法は古今東西変わらない治療手段です。大阪大学の源流にあたる「適々斎塾」を主宰した蘭方医、緒方洪庵が愛用した薬箱が今も適塾に残されています。使用されていた薬は当時最先端の蘭方と漢方生薬・製剤で、その当時の新しい医療に対する洪庵の熱き思いと挑戦を雄弁に語っています。また、中国渡来の本草学を日本独自のものへと進化させる過程で、採薬を主とする物産学的研究を薬学者が担い、高品質の国内産薬物の開発や生産に貢献してきました。近世の物産会は知識の流布と技術向上を促進し、製薬業の萌芽へとつながります。さらに、21世紀を迎えた今、創薬をはじめとする医療科学を総合的かつ先端的な手法により進展させることは、人類社会の共通の課題です。本特別展では、新しい医療文化の形成の鍵となる「洪庵の薬箱」から、大阪大学の国際的な薬物探究の歴史をたどります。そして、21世紀の薬箱にふさわしい新たな薬物の探索・薬物治療の開発に関する最先端の研究を紹介します。



1

薬箱が語る世界から

詳しくは、P4へ

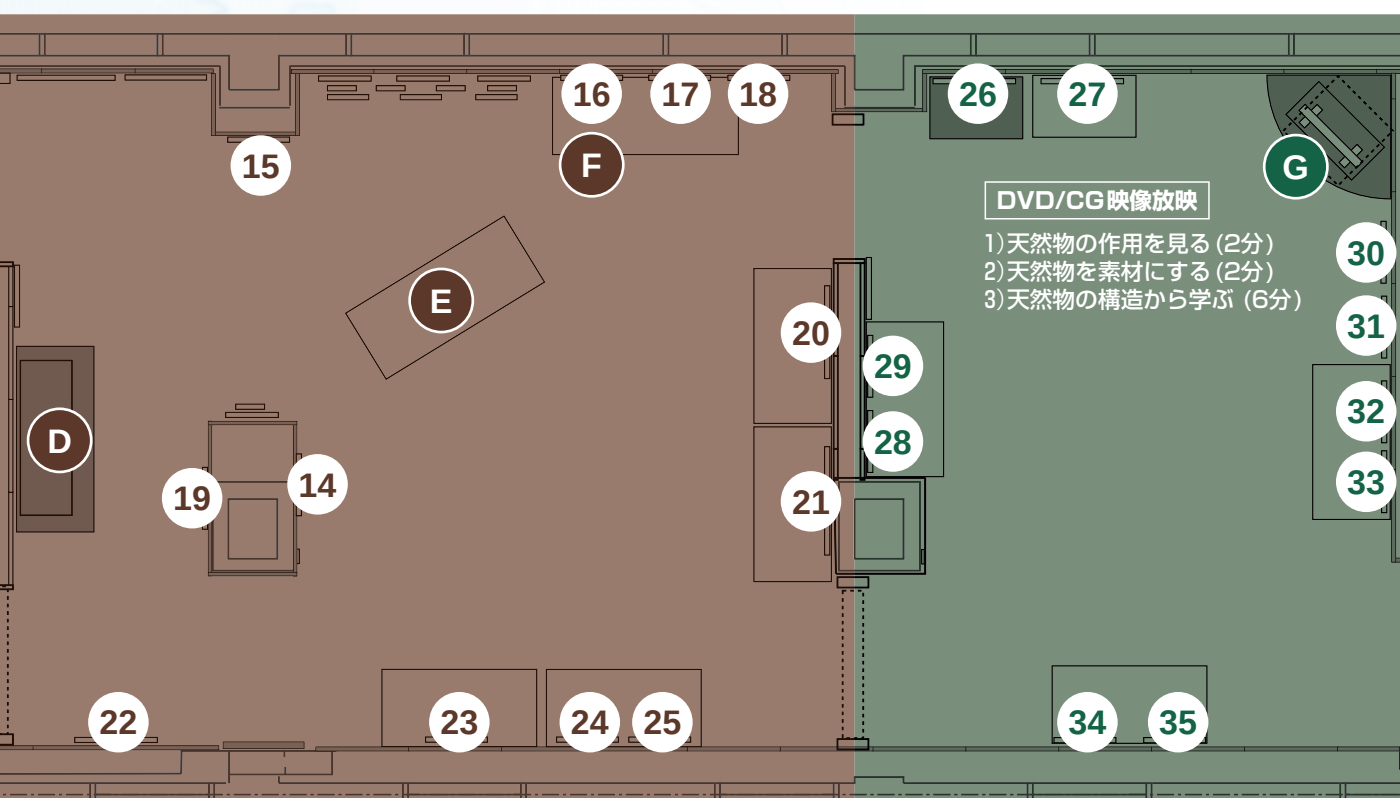


緒方洪庵の薬箱



- 01 ごあいさつ
- 02 洪庵の薬箱が語る新しい医療文化の萌芽
- 03 収められた薬から世界が見える（イメージ図）～蘭方と漢方の融合～
- 04 薬箱3段目に収められた生薬とは
- 05 薬箱4段目に収められた生薬とは
- 06 薬箱5段目に収められた生薬とは
- 07 適々斎薬室膠柱方～薬の匙加減と初心者への手引き～
大阪市立大学学術情報総合センター所蔵（森文庫）
- 08 薬箱2段目に収められた自家製剤とは
- 09 洪庵が晩年に使用した2つめの薬箱とはより有効で使いやすい薬の探索～製剤化への道のり
- 10 適塾に薬室はなかった？
やくしゅうあんあらためさしあげもうすいっさつひかえしょう
- 11 薬種御改指上申一札控帳 道修町資料保存会所蔵（大阪市指定文化財）
- 12 世界の薬は道修町に集まる～全国の薬種流通の中心地
- 13 世界の薬は道修町に集まる～長崎で取り扱っていた薬のリスト（村上文書抜粋）

道修町「神農祭」のくす玉飾り



Chapter 2 高品質薬供給への使命

詳しくは、P6へ



- 14 知識と技能の向上をめさして～物産会の系譜～
正確な知識・情報の発信～啓発事業の試み～
- 15 乃村工藝社 博覧会資料コレクション
元ト昌平坂聖堂二於テ博覧会図 昇嘉一景画 1872年（明治5）
大博覧会物品録（第4回京都博覧会）1875年（明治8）
京都博覧会之図（第6回京都博覧会）櫻井百嶺画 1877年（明治10）
明治期以降・各種引札（広告）・チラシ類①
くすりの道修町資料館所蔵/パネル借用
- 16 漢方エキス剤開発の歴史
- 17 18 漢方エキス剤ができるまで
- 19 道修町が果たした近代薬学教育
- 20 近代の薬学教育～大阪大学薬学部へ～
- 21 大阪大学薬学部生薬標本資料室（1960年代）
- 22 生薬産地地図
- 23 中国産生薬の流通経路
- 24 甘草の産地状況（野生品）～資源保護と安定供給～
- 25 甘草の基原植物と日本輸入量の推移

Chapter 3 21世紀の薬箱 ～最新の創薬研究～

詳しくは、P10へ

- 26 最先端の有機化学を駆使した人工核酸の設計と化学合成
- 27 未来医療の実現を目指した人工核酸の開発
- 28 医薬シーズ探索のための海洋生物の採集
- 29 マナマコが作る水虫治療薬
- 30 PCA-1研究成果に基づく前立腺癌治療創薬
前立腺癌からPCA-1の発見と機能解析
- 31 PCA-1を分子標的とする前立腺癌治療創薬
- 32 バイカリンの前立腺癌細胞増殖抑制作用
- 33 作用を見る～生薬の不思議～
- 34 多様性をつかむ～メタボロミクス～
- 35 メタボロミクスの生薬品質評価・管理・処方への応用



薬箱が語る 世界から



02

洪庵の薬箱が語る 新しい医療文化の萌芽

—蘭方と漢方の融合、製剤化への道のり—

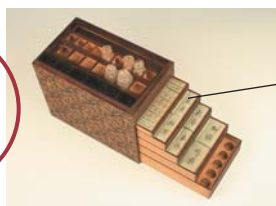
洪庵の薬箱には、薬袋入りの生薬、洋薬ビン、自家製の丸剤、ハサミとメス（残存せず）が収められています。施那（センナ・緩下剤）、遠志（オンジ・利尿祛痰剤）、損綿（セメン・虫下し）、健質（ゲンチアナ・強壮解熱剤）など、蘭方医ならではの生薬が多く含まれます。西洋の蘭方薬と東洋の漢方薬の両方がつまった洪庵の薬箱には、当時の最先端の「世界」がつまっていると言っても過言ではありません。



米田該典（元大阪大学総合学術博物館・薬学研究科）の研究から、内蔵される54種の生薬はすべて現在の生薬で再現できることが明らかとなりました。動物・植物・鉱物の薬用部位を乾燥した生薬が中心です。

04

薬箱3段目に 収められた生薬とは



薬箱
3段目

葵葉	イビノ葉(?)	葵葉
葵花	イビビの花(?)	良姜
亜麻	冬葵子 (アママの種子ではない)	茴香
冬葵	イビビの種子	苳根
活矢	クワツシアまたは ニガキの材	肉苳
幾那	キノの皮	縮砂
蘭苔	イスランドコケの 菌体	罌粟
格倫	コロンボの根	甘草
亜兒	アルニカの根	乾姜
桂枝	ニッケイの樹皮	撒尔
加斯	カスカリヲ	雙鸞
摂綿	シナの簀	健質
薬袋の記載	基原(由来する動植物・鉱物)の概略	

(?)—外部形態からの予測

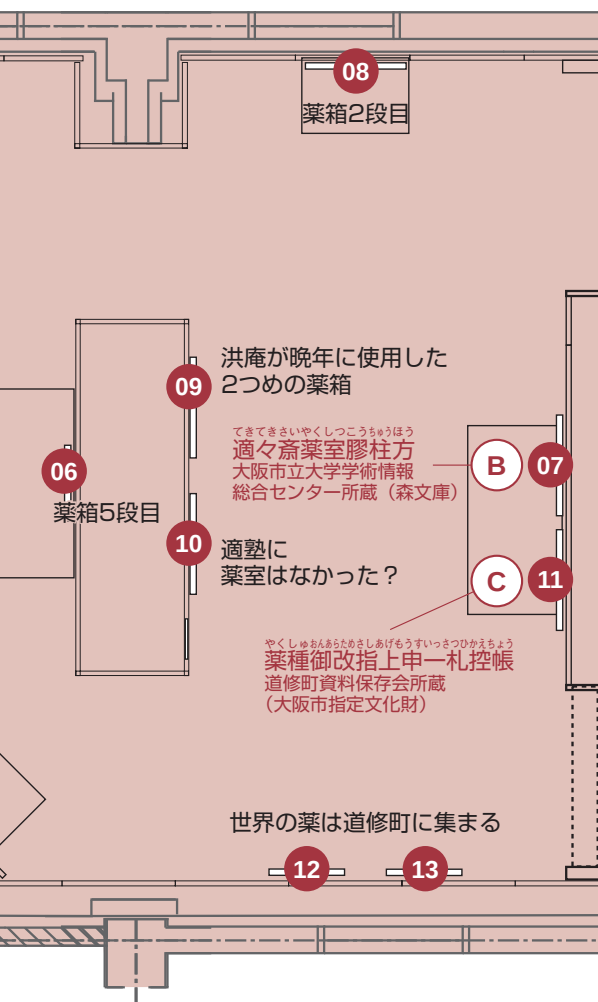


03

収められた薬から
世界が見える (イメージ図)
～蘭方と漢方の融合～



薬物療方は古今東西変わらない治療手段です。大阪大学の源流にあたる「適々斎塾」を主宰した蘭方医、緒方洪庵が愛用した薬箱が今も適塾に残されています。その中の薬は当時最先端の蘭方と漢方生薬・製剤で、新しい医療に対する洪庵の熱き思いと挑戦を雄弁に語っています。



06 薬箱5段目に収められた生薬とは

薬箱5段目



橙皮 ダイダイの果皮	精麦 小麦	蒲公 タンポポの根	土茯苓 シナヅケライの根	芍薬 シヤクヤクの根	施那 センナの葉	加密 カミシロの花
半夏 （半夏） アロアオイの根 （半夏） カラハシヤクの塊根	茅根 チガヤの根	實菱 ジギタリスの葉 および茎	接花 セヨウニワトコ の花	麦門 ヤブコウジの根 の膨化部		

薬袋の記載 基原（由来する動植物・鉱物）の概略



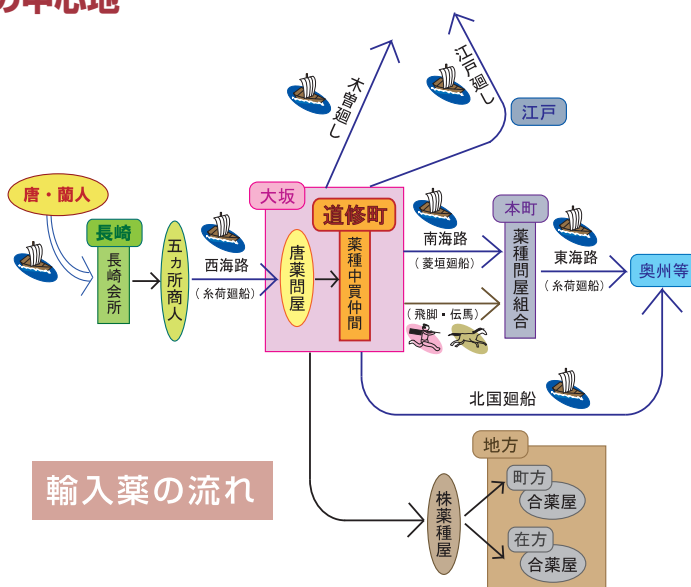
B C

てきてきさいやくしつこうほう
適々斎薬室膠柱方



12 世界の薬は道修町に集まる ～全国の薬種流通の中心地

江戸時代の大坂は、天下の台所といわれ、物流・経済の中心でした。諸国の物産は大坂に集まり、全国に出荷されました。道修町の薬種仲買仲間はくすりの原料となる「薬種」を扱っていました。長崎へ輸入された「唐薬種」も、国内各地から集まる「和薬種」も、大坂で目方を改め、品質を鑑別し、価格を決定して諸国に売りさばかれます。このような流通経路は享保年間（1716～36）に定まりました。





2

Chapter

高品質薬 供給への使命

16

漢方エキス剤開発の歴史

1954年 高橋真太郎*（当時大阪大学助教授、のち教授）、木村康一*（当時京都大学教授）、山元豊治（章平）らの指導、桑野重昭*の努力により、漢方エキス剤の製造を目指し、開発の手掛かりを得る

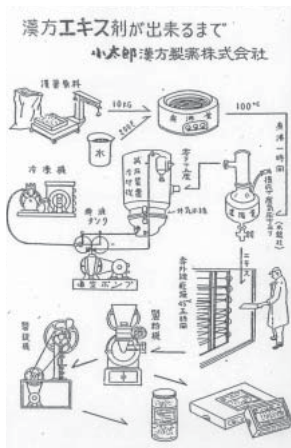
1957年 漢方エキス製剤を量産、製造販売を開始

1967年 漢方エキス製剤6品目が健康保険薬価基準に収載される

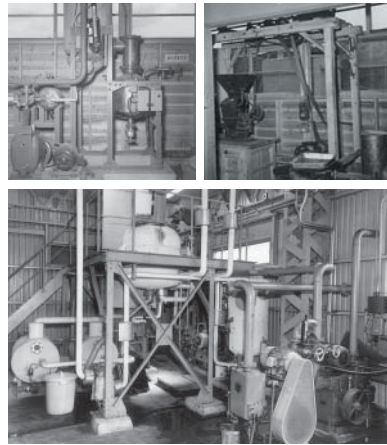


高橋真太郎（昭和29年頃）

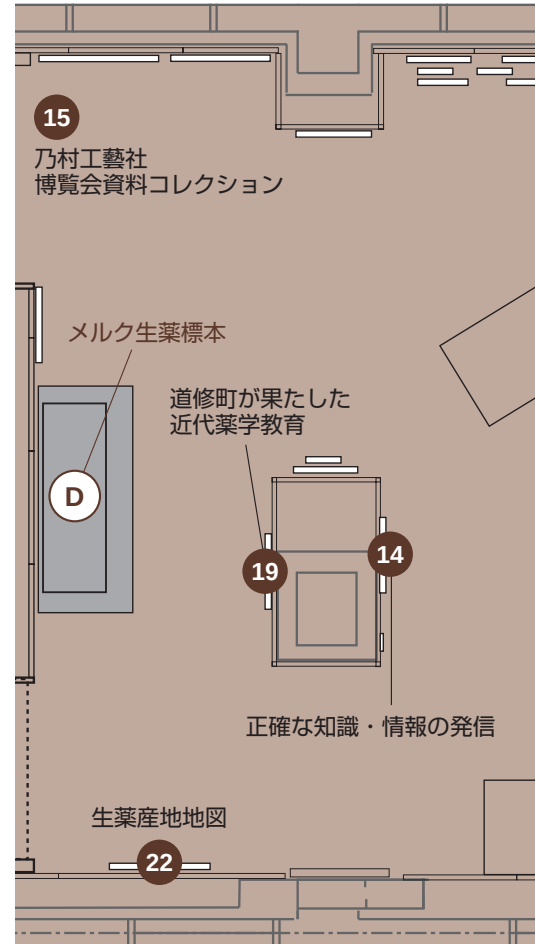
漢方エキス製剤が本格的に流通するのは、1957年に小太郎漢方製薬が35処方の製造販売を開始してからです。本開発は、当初から大阪大学薬学部で研鑽した研究者達*が協力し、達成した成果といっても過言ではありません。



当時の製造工程



当時の製造機械



F 1957年
はじめて流通販売された漢方エキス剤

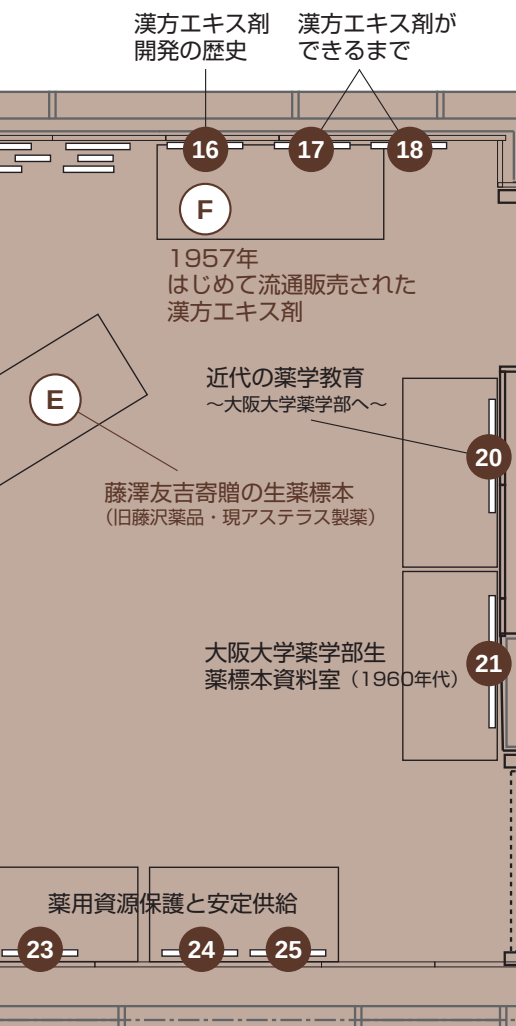
小太郎漢方製薬提供



大学での公開講座風景（1965年）

中国の本草学を日本独自のものへと進化させる過程で、採薬を主とする研究を薬学者が担い、高品質の国内産薬物の開発や生産に貢献してきました。近世の物産会は知識の流布と技術向上を促進し、製薬業の萌芽へとつながります。現在でも、生薬の品質はすべての研究の根幹をなしています。常に最新の知識と研究成果に基づき、生薬の品質維持・向上をリードしてきた大阪大学薬学部・薬学研究科のあゆみについても紹介します。

メルク生薬標本



25

甘草の基原植物と日本輸入量の推移

G.glabra



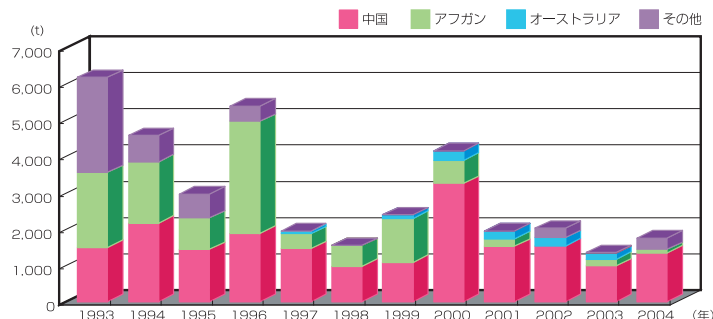
G.uralensis



G.inflata



甘草はグリチルリチンの原材料に使用するため、原形生薬が輸入されていましたが、近年はエキスなどの加工品の輸入が増大し、原形生薬の輸入は減少してきました。日本企業がオーストラリア（青）で栽培した甘草が1997年以降の輸入に見られることは興味深いことです。中国における甘草の採取に対する規制が厳しい現在、甘草の資源確保は日本にとって大きな課題となっているため、栽培化が試みられています。



24

甘草の産地状況（野生品） ～資源保護と安定供給～

加工は甲～丁級に分けられます。農民1人が1日かかって掘り取る甘草はせいぜい15～20kgです。しかし、数千、数万の農民が至る所で採掘し、掘り空けた穴はそのまま放置されます。このことが草原の砂漠化の一因として挙げられ、黄砂等の社会問題の種となっています。

①野生保護地区(陕西省定边)



②農民による掘上げ



③甘草を採集する農民



④加工前の甘草の山



⑤加工風景



⑥加工済みの甘草



①西北甘草の栽培試験地



②栽培2年目における試し掘り



③栽培甘草の地下部の成長は良好



現在では、中国における 甘草の栽培化も進みつつある

日本企業が、2000年より中国の西北地区（陕西省）において甘草の栽培を進め、資源保護と安定供給に努めています。

特徴：

1. 野放栽培方式（肥料や農薬を使用しない）
2. 斜面により収穫作業が容易

栃天海堂提供



高品質薬供給への使命

19

道修町が果たした近代薬学教育

明治政府が西洋医学を公的に取り入れたため、洋薬に対する薬業者の知識を深め薬剤師制度や近代薬事制度をつくる必要がありました。

大阪では道修町を中心に1875年大阪司薬場の教官を招き、薬業者を対象にした講習会を開いたり、夜学校を設立するなどしました。明治19年（1886）、売薬（現在の家庭薬）業者により、伏見町1丁目に「大阪薬学校」が設立されました。同年、薬種業者・製薬業者により道修町2丁目に「大阪薬舗学校」が開校しています。同23年（1890）には、両者が合併し「共立薬学校」となりました。

その後「私立大阪薬学校」を経て、大正6年（1917）「大阪薬学専門学校」に昇格しました。戦後は、新制大阪大学に寄付され「大阪大学薬学部」となって、現在にいたります。

明治19年（1904）、道修町3丁目に「大阪道修薬学校」が開校、夜間の薬学講習を行いました。翌年、昼間女子部を開校し、大正14年（1925）から昼間女子部を「帝国女子薬学専門学校」に昇格させました。戦後は男女共学となり、昭和25年（1950）に「大阪薬科大学」となりました。



大阪大学薬学研究科校舎

年	月	学校名（所在地）	学校名（所在地）
1873年		司薬局	
1874年		医制（東京司薬場 1874 京都 1875 大阪 1875）	
1882年		薬学校通則	
1855年	明治 18年 10月	大阪理化学学校	
1886年	// 19年 10月	大阪薬学校（東区伏見町1）	
1887年	// 20年 1月	大阪薬舗学校（東区道修町2）	
	// 20年 11月		大阪薬学会附属薬学校（東区道修町）
1890年	// 23年 2月	関西薬学校（東区道修町2）	
	// 23年 7月	共立薬学校（大阪薬学・関西薬学合併）	
1892年	// 25年 6月	大阪共立薬学校	
1894年	// 27年 1月	大阪共立薬学校（北区今井町）	
1901年	// 34年 4月	私立大阪薬学校（名称変更）	
1903年	// 36年 4月		大阪薬学講習会（夜間）
1904年	// 37年 1月	私立大阪薬学校	
	// 37年 5月		大阪道修薬学校（夜間）（東区道修町3）
1904年	// 37年 9月		大阪厚生薬学校女子部（昼間）
1909年	// 42年 1月		大阪女子薬学校分離（移転）（北区上福島3丁目）
	// 42年 11月		道修薬学校（東区南久太郎1）
1911年	// 44年 7月		女子部を閉鎖するも直ちに再開
1916年	大正 5年 2月	私立大阪薬学校移転（南区日本橋5）	
1917年	// 6年 4月	私立大阪薬学専門学校（名称変更）	
1920年	// 9年 7月	（財）大阪薬学専門学校となる	
1921年	// 10年 7月		女子部は薬学専門学校に昇格
1924年	// 13年 9月	帝国女子薬学専門学校に改称・移転（北河内群守口町）	
1930年	昭和 5年	大阪薬学専門学校は豊中市刀根山に移転	
1931年	// 6年 5月	大阪帝国大学創設（北区常安町・現中之島）	
1932年	// 7年 10月		同上、南河内郡高見里に移転
1949年	// 24年 4月	大阪大学医学部薬学科を創設	
	// 24年 4月	大阪薬学専門学校を大阪大学附属薬学専門部にして移管	
	// 24年 6月	附属薬学専門部は全学生の卒業によって廃止	
1950年	// 25年		大阪薬科大学（共学）となる
1951年	// 26年 3月		医学部薬学科の学生は初めて専門課程に進学
	// 26年 4月		近畿大学薬学部開設（東大阪小若江）
1954年	// 29年 3月	大阪大学医学部薬学科は大阪大学薬学部へ改組	
1975年	// 50年 3月	同 薬学部移転（吹田市山田丘）	
1978年	// 53年 4月		摂南大学薬学部開設
1995年	平成 7年		大阪薬科大学移転（高槻市阿武山）
1998年	// 10年 4月	大阪大学大学院薬学研究科設置	

E 藤澤友吉寄贈の生薬標本
(旧藤沢薬品・現アステラス製薬)



漢方薬展での説明風景 (1965年)

14

知識と技能の向上をめさして～物産会の系譜～ 正確な知識・情報の発信～啓発事業の試み～

薬物が大衆へ広がっていく過程で、日本の風土に合った独自の薬物学の確立が求められました。博物物産学の流れは、中国の本草学ではなく、日本独自の発展をとげてゆきます。江戸中期より、薬種を持ち寄って情報交換する「物産会（薬品会）」が開かれるようになります。薬品専門の物産会の最初は、平賀源内が発案し、田村藍水を中心として宝暦7年（1757）江戸の湯島で開かれた会で、180種の品が出品されたといえます。

大坂でも宝暦10年（1760）、自宅に「百卉園」を開いて植物を栽培していた戸田旭山が「薬品会」を開きました。参加者に「草木、金石、虫魚、鳥獣等の薬食の用に立る物」の持参を求め、有名な町人学者の木村兼葎堂も参加して、全241種が出品されました。

薬にかかわる人々が集まり、実物を前に討議することで、鑑定や判別能力を向上させるまたとない機会となりました。明治時代になると大規模な博覧会で薬品が陳列されました。

物産会が薬学の知識向上の場であったように、大阪大学の薬学研究は、常に最新の知識と成果に基づき、生薬の品質維持や医療現場における使用方法などについて指導・支援を継続してきました。

薬害などの問題が生じた昭和30年代末、漢方医療の再認識を求める動きがおこりました。そこで「漢方薬展」を開き、漢方への理解を広め、医療技術の向上・拡大が目指されました。当時、大阪（昭和40年）を皮切りに各地で開催された漢方薬展に大阪大学が学術協力しました。



「現代の漢方薬展」実行委員会関係者

20

近代の薬学教育～大阪大学薬学部へ～

大阪大学医学部薬学科現況一覧（昭和28年2月）より抜粋

【沿革】

本学科（大阪大学医学部薬学科）は昭和24年5月設立されたものであるが、財団法人大阪薬学専門学校がその有する校舎、設備、敷地をすべて大阪大学に寄附したため、それを母体として出発したものである。（中略）薬学科担当教授の選任に当たっては選考委員会を設け、東大および京大薬学科の支援の下に広く人材を求め、昭和27年度をもって一応完成されるに至った。更に教授陣並びに設備の充実と共に昭和28年度より大学院の設置を予定している。

【施設概要】図書、標本、機械器具

●標本（生薬標本）

西洋生薬標本：メルク 一組（230種）：ペニツク 一組（200種）
和漢薬標本：津村研究所（240種）：キリン（200種）：大阪市場（1000種）

【大阪大学薬学部創立50周年記念（1999）より】



旧校舎全景（昭和33年）



新校舎完成（昭和40年）



生薬学講座（昭和33年）

【大阪大学医学部薬学科現況一覧（昭和28年2月）より一部抜粋】

薬学科講座内容：

講座名：生薬学

学科名（担当教官）：薬用植物学（木村康一 教授）
生薬学（高橋真太郎 助教授）
植物化学（村上信三 教授）
（竹本常松 助教授）

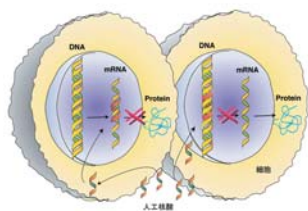
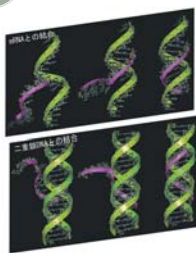
21世紀の薬箱

～最新の創薬研究～

27

DVD/CG

未来医療の実現を目指した人工核酸の開発



人工核酸は、細胞の中で病気に関わる遺伝子のmRNAやDNAと強く結合する。それにより、病気の原因となるタンパク質 (protein) の産生を抑えることができる

33

DVD/CG

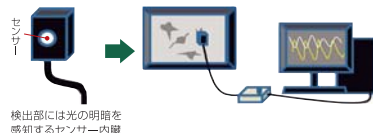
天然物の作用を見る

心筋細胞は、すべての細胞の中で唯一、自動拍動能を持ちます。適した培養環境で観察すると正常拍動を維持します。その特徴を利用して病態モデルを作製し、有用生薬や成分の探索と作用解析を行います。



研究対象

拍動解析装置



検出部には光の明暗を感知するセンサー内蔵



35

DVD/CG

メタボロミクスの生薬品質評価・管理・処方への応用

高度な品質管理への応用

タンポポ (Taraxacum) 属植物 (Dandelion、蒲公英) は古くから欧州・アジアで利尿、催乳など民間薬的に汎用されてきました。しかし、特に中国では基原植物の名称の混乱による不安定な品質が問題となっています。

主成分分析によるタンポポの産地判別

青点はポーランド産ドイツ市場品、赤点が中国市場品を表し、点の位置が近いと成分の組成が似ていることを示します。点を囲んでいる円は同一のロットであることを表しています。

産地判別

青点と赤点とがそれぞれ別の位置にプロットされています。つまり産地によって異なっている成分を区別することが可能です。

成分比較

ロット毎にプロットされている位置が少しずつ異なっています。つまり、ロット間の微妙な成分の差も識別可能です。

生薬処方への応用

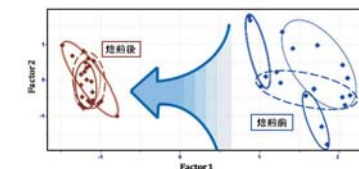
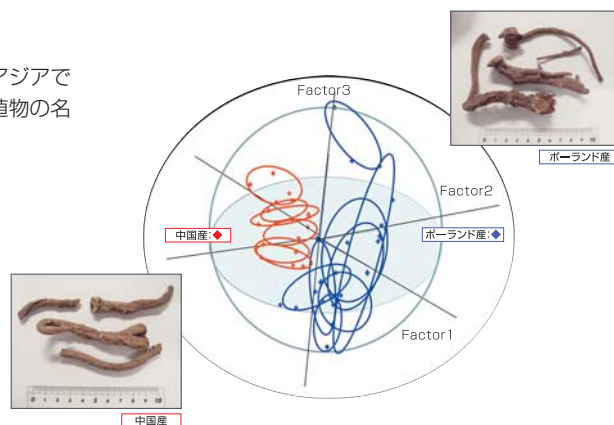
タンポポ焙煎処理による成分変化

用いた試料はポーランド産ドイツ市場品で、青点が焙煎前、赤点が焙煎後の試料を表しています。点を囲んでいる円は同一のロットであることを表しています。Taraxacum属植物の薬用資源としてのさらなる有効活用を目指しています。



焙煎効果

焙煎処理によって点の位置が収束しており、ロット間のばらつきが減少していることがわかります。



焙煎



未来医療の実現を目指した人工核酸の開発

26

27

29

マナマコが作る水虫治療薬

28

医薬シーズ探索のための海洋生物の採集

35

21世紀を迎えた今、創薬をはじめとする医療科学を総合的かつ先端的手法により進展させることは、人類社会の共通の課題です。「洪庵の薬箱」の精神を受けつぎ、大阪大学では国際的な薬物探究の歴史が積み重ねられ、今に至ります。ここでは、21世紀の薬箱にふさわしい新たな薬物の探索・薬物治療の開発に関する最先端研究を紹介します。



G DVD/CG映像放映（上映時間：約12分）

- | | | |
|------------------|-------|------------------------|
| 1)天然物の作用を見る（2分） | | 薬箱が語る世界から ～新しい医療文化の萌芽～ |
| 2)天然物を素材にする（2分） | | PCA-1を分子標的とする前立腺癌治療創薬 |
| 3)天然物の構造から学ぶ（6分） | | 未来医療の実現を目指した人工核酸の開発 |

31 PCA-1を分子標的とする前立腺癌治療創薬

高効率スクリーニング系による評価



脱メチル化酵素
阻害活性評価



前立腺癌細胞
増殖抑制評価

前立腺癌におけるPCA-1機能解析

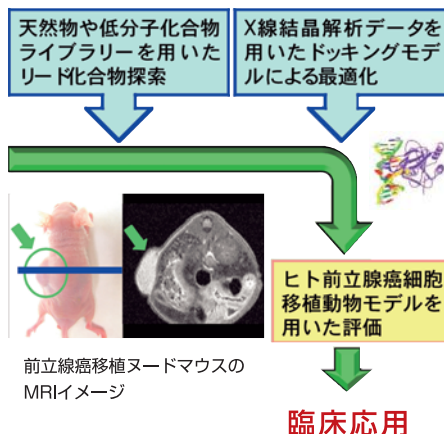
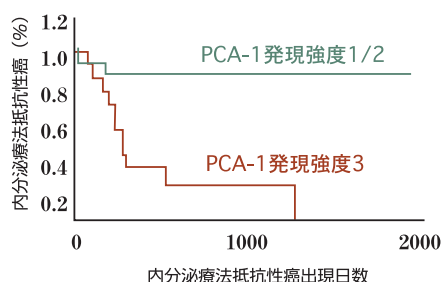


PCA-1の癌細胞生
存維持機構の解析



内分泌療法抵抗性
癌発症機構の解析

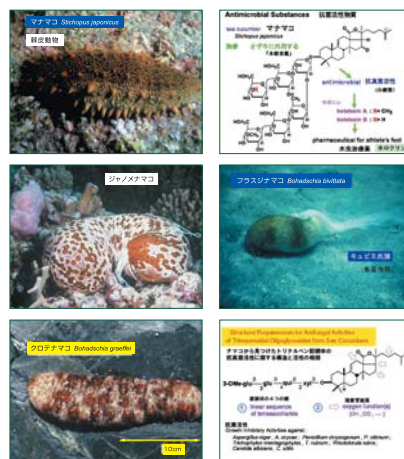
PCA-1 高発現と内分泌療法予後予測



これまでの研究によりPCA-1のメチル化DNA脱メチル化酵素活性を阻害する化合物が前立腺癌分子標的治療薬となる可能性が示されました。そこで酵素阻害活性評価系などを確立し、天然物ライブラリーなどを用いてPCA-1酵素活性を阻害する新規化合物の探索を進めています。その後、PCA-1のX線結晶構造解析情報などを基にしたコンピュータ計算で、新規化合物の最適化を行います。このようにして作成された化合物は、毒性の評価やヒト前立腺癌細胞を移植したヌードマウスを用いて有効性の評価を行います。一方、PCA-1の発現強度と内分泌療法抵抗性前立腺癌の出現期間との間で高い相関性も認められ、PCA-1発現解析による予後予測診断への応用も期待できます。現在、この研究は文部科学省知的クラスター創生事業「先端バイオ創薬」により進められています。

29 マナマコが作る水虫治療薬

棘皮動物のマナマコ（*Stichopus japonicus*）は日本人にとって、冬の珍味としてなじみ深い海産物の一つです。マナマコは、中国では海の人参（海參）と呼ばれ、薬物書「本草綱目」にも滋養強壮薬、皮膚病薬、去痰薬としての効果の記載がある生薬でもあります。私たちの研究グループは、マナマコから強力な抗真菌活性を有する二つの有効成分を単離し、それらの化学構造を明らかにすることに成功しました。Holotoxin AおよびBと命名したこれらの成分は、水虫治療薬として実用化されています。



■ 特別展に関連したイベント

ミュージアムレクチャー

【定員40名(当日先着順)】

第8回ミュージアムレクチャー

日時：11/12(水)・12/13(土) 15:00～16:30

演題：「洪庵の薬箱に秘められた最先端の医療 ～医歯薬系学生のための特別レッスン～」

講師：総合学術博物館(兼)薬学研究科 高橋 京子・高橋 直子

第9回ミュージアムレクチャー

日時：11/22(土) 15:00～16:30

演題：「タンポポのなぞ」

講師：昭和薬科大学 高野 昭人

第10回ミュージアムレクチャー

日時：12/6(土) 15:00～16:30

演題：「五感で楽しむ ～ハーブの世界～」

講師：薬学研究科附属薬用植物園 道下 雄大

博物館員による展示解説

日時：12/6(土)・13(土) 14:00～ (30分程度)

※当日直接会場へお越しください。

公開講座

大阪大学公開講座「くすりと医療」

日時：11/29(土) 13:00～14:30

場所：大阪大学コンベンションセンター 1階研修室

演題：「和漢薬の多様性:品質と作用」

講師：総合学術博物館(兼)薬学研究科 高橋 京子

事前申込必要・問合せ先・薬学研究科庶務係 TEL.06-6879-8144 (直通)

2008年 10月31日(金)～12月20日(土)

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

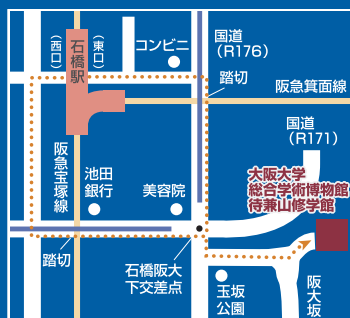
10時～16時30分 入場無料

日・祝は休館。ただし、11月2日(日)、3日(祝)は開館

【主 催】大阪大学総合学術博物館

【共 催】大阪大学大学院薬学研究科

【協 力】大阪大学21世紀懐徳堂、適塾記念会、
くすりの道修町資料館、少彦名神社、乃村工藝社



■ 交通のご案内:

阪急宝塚線「石橋駅」下車、徒歩10分

※駐車場はございません。公共機関をご利用ください。

また、当館はバリアフリーですので、障害者向駐車スペースをご活用ください。



全会期中、特別に道修町の神農祭(少彦名神社、例年11月22日、23日)の薬玉飾りをロビーに飾ります。

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20

TEL.06-6850-6284

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>



温故知新の発信

『21 世紀の薬箱 新しい医療文化の形成』のデザイン

(資料基礎研究系 高橋 京子)

医療の社会学連携を目指した取り組み

薬物療法は古今東西変わらない究極の治療手段である。大阪大学医学部の源流にあたる幕末の蘭学塾「適々斎塾:適塾」を主宰した蘭方医、緒方洪庵が愛用した薬箱が今も適塾(国の重要文化財)に残されている。使用されていた薬は当時最先端の蘭方と漢方生薬・製剤で、新しい医療に対する洪庵の熱き思いと挑戦を雄弁に語っている。蘭方医療の導入、拡大の機運が高まった時期に開かれた適塾は、近世の薬のメッカともいえる道修町^{どしゅうまち}に隣接し、新しい薬事情に接するには最適の環境にあった。道修町の薬種仲買仲間は、薬の原料となる薬種を扱い、長崎へ輸入された唐薬種も国内各地から集まる和薬種もすべて大坂(大阪)を介して全国に出荷されていた。

薬物に関する知識をまとめた本草学は、中国渡来の知識を日本独自のものへと進化させる過程において、採薬を主とする物産学的研究を薬学者が担い、高品質の国内産薬物の開発や生産に貢献してきた。近世の物産会は知識の流布と技術向上を促進し、製薬業の萌芽へとつながる。さらに、21 世紀を迎えた現代、創薬をはじめとする医療科学を総合的かつ先端的な手法により進展させることは、人類社会の共通の課題である。

温故知新～洪庵の薬箱に秘められた最先端の医療



緒方洪庵が携行した薬箱には、世界の薬物が収められていた(薬箱)

「緒方洪庵の薬箱」は有形の文化的所産で、学術的価値の高い歴史資料である。薬箱には、薬袋入り生薬、洋薬ビン、自家製丸剤などが収められている。旃那(センナ・緩下剤)、遠志(オンジ・利尿祛痰剤)、撰綿(セメン・虫下し)、健質(ゲンチアナ・強壮解熱剤)などは、当時の最先端の薬物で和蘭薬

局方に収載されていた生薬が並ぶ。適塾記念会では、資料の価値を維持しながら、さらに向上させるための努力研究が行われているが、薬箱に収められた薬は他の資料と性質を異にするものである。「緒方洪庵の薬箱」に関する研究は、米田らによる内容薬物 58 種の概要と 6 種の生薬について形態学的及び成分分析検討に基づく報告の計 7 報（1994～1998 年）のみである。後に（2001 年）出版された「洪庵のくすり箱*」にまとめられているが、残存していた生薬の全容はいまだ不明である。現在、薬袋に記載された名称の生薬は入手困難なものも多い。幸い、当薬学研究科には、大学創設前より蒐集・保存されてきた学術標本

第3回特別展にて～薬袋名称から考察した生薬



(A～I): 薬学研究科所蔵資料および流通市場品を用いて再現した。

参考資料①

や伝統薬物・生薬研究資料が数万点存在する。難解な名称の生薬をビジュアル化することが効果的な説明と考え、調査研究途上であるが、洪庵の薬箱を再現生薬資料で展示することに挑戦した(参考資料①)。また、洪庵の薬物の考

え方を薬学初学者向けに著した『^{てきてきさいやくしつこうちゅうほう}適々齋薬室膠柱方』には、現代に求められるテイラーメイド医療の実践に役立つ経験知が記されている。序文に、薬味、量を加減すること、すなわち、匙加減を知ることが不可欠だと述べている。薬は両刃の剣で、有効性の高いものは、副作用も強い場合が多い。薬箱にはジギタリスやロート根など作用の強い薬が納められている。それらは現代医療でも使用されるが、適正使用に専門的知識が求められる。洪庵が患者の治療・回復を最優先とし、有効な最先端の薬物療法を目指していたことが伝わってくるようだ。さらに江戸時代末期に大流行したコレラに対し、症状に応じて患者のQOL(:Quality of life)向上に配慮した治療にもその一旦を感じることができる。

本来、薬箱は治療目的で長期保存のためのものではないが、約 150 年前の薬が現存していることは、これまで知り得なかった貴重な情報を秘めている。内容生薬の存在は、生薬基源の解明や当時の社会情勢・医療文化を知る手掛かりとなる。近世の生薬流通の拠点・道修町に集まる生薬との関連性も興味深い。薬箱は古文書とともに洪庵の薬物治療法や考えを考察できる資料であるだけで

なく、新たな社学連携を示唆していると考えるのは私だけなのだろうか？

天然薬物の製剤化～過去と未来

「特別展」では他に、薬の品質維持と向上へのたゆまざる希求の歴史を、貴重な資料をもとにたどった。かつて明治政府は西洋医学を公的に取り入れたため、西洋薬に対する薬業者の知識を深め、薬剤師制度や近代薬事制度をつくる必要があった。大阪では道修町を中心に大阪司薬場(市場における輸入医薬品の品質検査が主たる業務)の教官を招き、薬業者を対象にした講習会開催や専門学校を設立するなどした。私立大阪薬学校は、大阪薬学専門学校への昇格を経て、大阪大学医学部薬学科の母体となる。1949年の設立時、財団法人大阪薬学専門学校は有する校舎、設備、敷地をすべて大阪大学に寄附した。

一方、最新の西洋薬も、多くは生薬を原材料としており、近代の薬学教育に生薬学の知識は必須であった。大阪薬学専門学校から薬学研究科に引き継がれた1930年代のドイツメルク社の生薬標本は、当時『実物を知る』、つまり最新薬学の知識と技能を学ぶ教材として導入された。市場に流通する生薬や関連医薬品の評価・鑑別は高品質薬製造へとつながり、多くの製薬企業が道修町から台頭した。「高品質薬供給への使命」ゾーンで紹介した漢方薬のエキス剤開発の歴史は、大阪大学薬学部で研鑽した研究者と製薬企業の社学連携の成果である。錠剤や顆粒剤の漢方エキス製剤は手軽で飲み易く、医療現場で汎用された。1976年に漢方製剤の薬価収載が承認され保健薬適用になると、その生産が増加した。以来、生薬のグローバル化で加速された原料生薬資源の枯渇や安定確保の課題に向かって新たな総合的環境科学研究が進展している。



阪大の最新の創薬研究をパネル、DVD映像で紹介する「21世紀薬箱」ゾーン
(創薬研究)

多様な薬学領域の研究は、過去から未来に続く多くの研究者の研鑽を基盤に、更なる進化の途上である。21世紀の新たな生命科学と創薬科学の発展の一翼を担う薬学研究科の最新の創薬研究

を紹介した。①天然物の作用を見る～薬箱が語る世界から今に続く生薬の有効性、②素材にする～PCA-1 (:Prostate Cancer Antigen-1)を標的とした前立腺

癌治療創薬、③構造から学ぶ～未来医療の実現を目指した人工核酸の開発、の研究成果を DVD 映像や再現生薬資料を活用して展示した。パネル・CG・DVD 映像の製作は、学術性の高い内容をわかりやすく説明することを意図した試みであった。現代においても、癌、高血圧、心臓病、糖尿病、認知症など薬で根治することが困難な疾患が多い。医薬シーズの探索を海洋生物に求め実用化されたマナマコが作る抗真菌薬、天然物の多様性をつかむメタボロミクスによるタンポポ属生薬の品質評価、癌細胞遺伝子から探る副作用の少ない抗癌剤、夢の DNA 創薬などの研究の一端を紹介することで、過去から未来に継承される歴史を、大きな可能性を持つ学内外の学生の方々にメッセージとして発信したいとの思いであった。

最後に、本展覧会を開催するにあたり、次の諸機関から貴重な資料のご提供、ご指導・ご教示をいただいた。

くすりの道修町資料館、少彦名神社、適塾記念会、大阪市立大学学術情報総合センター、乃村工藝社、小太郎漢方製薬、栃本天海堂、金沢大学医薬学保健学域附属薬用植物園、富山大学和漢医薬学総合研究所資源開発研究部門
この場を借りて厚く御礼申し上げます。

参考文献

* 米田該典著：洪庵のくすり箱、大阪大学出版会、2001

3. 平成 20 年活動報告

3.1 平成20年度の主な活動

期間	主な活動
平成20年	
4月5日	参加者同士及び参加者と講師との対話を軸に進められるサイエンスカフェ@待兼山“土曜の午後はミュージアム”がミュージアムカフェ坂で行われた。第1回目のサイエンスカフェ「携帯電話の電波は体に悪い？」は当館の館長である江口太郎が担当した。
4月12日	サイエンスカフェ@待兼山No.2「エネルギーのこれから」が行われた。太陽エネルギー化学研究センターの池田茂准教授が講師を担当した。
4月19日	サイエンスカフェ@待兼山No.3「論理とパラドクスの迷宮への誘い」が行われた。理学研究科の藤原彰夫教授が講師を担当した。
5月1日～7月5日	待兼山修学館にて大阪大学総合学術博物館第8回企画展『「東洋のマンチェスター」から「大大阪」へー経済でたどる近代大阪のあゆみー』を開催した。
5月10日	サイエンスカフェ@待兼山No.4「防犯カメラはどこまで見張る？」が行われた。基礎工学研究科の佐藤宏介教授が講師を担当した。
5月24日	サイエンスカフェ@待兼山No.5「古文書でたどる待兼山」が行われた。当館の廣川和花助教が講師を担当した。
5月25日	畑田家住宅活用保存会主催、当館協賛で「第10回畑田塾」が開催された。（場所：国の登録文化財 畑田家住宅）
6月5日、6日	大阪大学豊中キャンパスのイ号館において「大学博物館等協議会2008年大会・第3回博物科学会 in大阪大学」が2日間にわたって開催された。
6月7日	サイエンスカフェ@待兼山No.6「水道水はそのまま飲めない？」が行われた。理学研究科の文珠四郎秀昭講師が講師を担当した。
6月21日	サイエンスカフェ@待兼山No.7「クスリに好奇心：生薬なるほど物語」が行われた。当館の高橋京子准教授が講師を担当した。
7月5日	サイエンスカフェ@待兼山No.8「身の回りのものをつくっているものはなあに？分子の大きさを実感する方法を考えよう！」が行われた。当館の上田貴洋准教授が講師を担当した。
7月19日	サイエンスカフェ@待兼山No.9「宇宙から極微の世界までー自然界に働く四つのカー」が行われた。理学研究科の藤田佳孝准教授が講師を担当した。
8月2日	サイエンスカフェ@待兼山No.10「ネットワークとうまくつきあう」が行われた。当館の豊田二郎准教授が講師を担当した。
8月9日	サイエンスカフェ@待兼山No.11「データによる論証とは：データの見方、考え方」が行われた。基礎工学研究科の狩野裕教授が講師を担当した。
8月23日	サイエンスカフェ@待兼山No.12「口になるか、肛門になるかが、動物の分かれ目」が行われた。理学研究科の古屋秀隆助教が講師を担当した。
8月25日	当館ととよなかサイエンスネット実行委員会主催で小学校高学年の方対象の「夏の小学生科学体験教室」が行われた。1日目は基礎工学研究科の菅原武助教が担当し、「氷が燃える？ガスハイドレートに触ってみよう」というタイトルで授業を行った。
8月26日	「夏の小学生科学体験教室」2日目は「手作り分光器で光を分けてみよう。」というタイトルで当館の上田貴洋准教授が授業を行った。「夏の小学生科学体験教室」授業終了後の午後からはとよなかボランティア活動支援実行委員会主催で「高校生ボランティア講座科学体験教室」を行った。タイトルは「夏の小学生科学体験教室」と同じタイトルで行った。
8月27日	「夏の小学生科学体験教室」3日目は「氷の中に雪の模様が見える！チンダル像の観察」と題して行われた。講師は理学研究科の谷篤史助教が担当した。
8月28日	「夏の小学生科学体験教室」最終日には「豊中の村々の歴史をしらべてみよう」が行われた。授業は当館の廣川和花助教が担当した。
8月30日	サイエンスカフェ@待兼山No.13「体の中の精密機械」が行われた。基礎工学研究科の荒木勉教授が講師を担当した。
10月31日～12月20日	第3回特別展「21世紀の薬箱 新しい医療文化の形成」を開催した。大阪大学の源流の1つである適塾に今も残されている緒方洪庵の薬箱などを展示した。大学祭期間中の入場者数は前年度を大きく上回った。

11月12日	第8回ミュージアム・レクチャー「洪庵の薬箱に秘められた最先端の医療～医歯薬系学生のための特別レッスン～」が行われた。講師は当館の高橋京子准教授と薬学研究科薬用資源学・大学院生の高橋直子が担当した。このレクチャーは同じタイトル及び講師で、2度開催した。21名の入場者があった。(2回目は12月13日 入場者数：19名)
11月22日	第9回ミュージアム・レクチャー「タンポポのなぞ」が行われた。講師は昭和薬科大学医療薬学教育研究センターの高野昭人氏(漢方治療学教育研究室・准教授)に担当していただいた。入場者数：20名
12月6日	第10回ミュージアム・レクチャー「五感で楽しむ～ハーブの世界～」を開催した。講師は薬学研究科附属薬用植物園職員の道下雄大が担当した。入場者数：20名
12月13日	11月12日にも行われた第8回ミュージアム・レクチャー「洪庵の薬箱に秘められた最先端の医療～医歯薬系学生のための特別レッスン～」の2度目が行われた。
12月20日	サイエンスカフェ@待兼山No.14「今日は熱があるようだー温度と熱の話ー」が行われた。講師は当館の館長江口太郎が担当した。
平成21年	
1月10日	サイエンスカフェ@待兼山No.15「身の回りの放射線ー放射線のメリットとリスクー」が行われた。理学研究科の松多健策准教授が講師を担当した。(豊中市共催)
1月17日	サイエンスカフェ@待兼山No.16「メディアを考えるー映画・演劇の場合ー」が行われた。講師は当館の横田洋研究支援推進員が担当した。
1月24日	サイエンスカフェ@待兼山No.17「表面張力の不思議ーシャボン玉からドライアイまでー」が行われた。基礎工学研究科の吉永隆夫准教授が講師を担当した。(豊中市共催)
1月31日	サイエンスカフェ@待兼山No.18「サイエンスカフェ？ー科学を語る場をデザインしよう」が行われた。大学教育実践センターの中村征樹准教授が講師を担当した。(豊中市共催)
2月7日	サイエンスカフェ@待兼山No.19「トランジスターナノスケールのスイッチー」が行われた。基礎工学研究科の酒井朗教授が講師を担当した。(豊中市共催)
2月14日	サイエンスカフェ@待兼山No.20「ゴムはどうして伸びるの？ーものの性質のなぜ？なに？ー」が行われた。理学研究科の佐藤尚弘教授が講師を担当した。(豊中市共催)
2月21日	サイエンスカフェ@待兼山No.21「音から光へ、光から量子へ」が行われた。基礎工学研究科の井元信之教授が講師を担当した。(豊中市共催)
2月28日	サイエンスカフェ@待兼山No.22「アートをさらにアートらしくーこうして作られる美術展覧会ー」が行われた。講師は当館の橋爪節也教授が担当した。
3月7日	サイエンスカフェ@待兼山No.23「匂いと臭いーにおいと化学物質ー」が行われた。講師は当館の上田貴洋准教授が担当した。
3月14日	サイエンスカフェ@待兼山No.24「少しの違いで大違い！分子の構造と性質の不思議な関係」が行われた。理学研究科の松本幸三助教が講師を担当した。
3月21日	サイエンスカフェ@待兼山No.25「星の彼方へ」が行われた。理学研究科の藤田裕准教授が講師を担当した。
3月22日	畑田家住宅活用保存会主催、当館協賛で第11回畑田塾が畑田家住宅において開催された。

3.2 関連記事一覧

新聞（博物館関連）

掲載日	掲載誌名	内容
平成20年4月7日	朝日新聞	サイエンスカフェ始まる 市民と科学者、語り合う
5月13日	神戸新聞	工都大阪の歩みたどる 阪大で企画展
10月5日	朝日新聞	なつかしの「技術遺産」
11月9日	読売新聞	薬物研究の歴史たどる・・・大阪大
12月22日	朝日新聞	研究者と語る「科学カフェ」
平成21年1月23日	朝日新聞(夕刊)	阪大の真空管電子計算機 この突起なくしてWiiなし？
3月26日	読売新聞(夕刊)	「大大阪観光」上映 往時の繁栄 時代感じる溝

新聞（博物館教員関連）

掲載日	掲載誌名	内容
平成20年4月20日	毎日新聞	大阪の文化を見直さな(橋爪節也教授)
4月24日	産経新聞	浪花八百八橋 銘板に古き川柳散りばめて(橋爪節也教授)
5月29日	産経新聞	浪花八百八橋 近代都市美、昭和初期に活写(橋爪節也教授)
7月3日	産経新聞	浪花八百八橋 日本家屋 連想させるアーチ(橋爪節也教授)
8月7日	産経新聞	浪花八百八橋 出た！？難波の裏にヒュードロロ(橋爪節也教授)
9月4日	産経新聞	浪花八百八橋 落語の舞台 銅橋でも土橋(橋爪節也教授)
10月9日	産経新聞	浪花八百八橋 佐伯が見た大阪の“巴里”(橋爪節也教授)
11月20日	産経新聞	浪花八百八橋 響き渡る地下鉄工事の鎚音(橋爪節也教授)
12月4日	産経新聞(夕刊)	目録が導く濃密な世界(橋爪節也教授)
12月18日	産経新聞	浪花八百八橋 名画の雪のメインストリート(橋爪節也教授)
平成21年2月5日	産経新聞	浪花八百八橋 よみがえる映画館の記憶(橋爪節也教授)
2月26日	産経新聞	こんにちは研究室 奥深い浪花文化伝える知のハンター(橋爪節也教授)

その他刊行物

掲載誌名	刊号	内容
OSAKAモノレールプレスつれてって。 サンケイリビング新聞社	2008年6月号	大阪大学豊中キャンパス ミュージアム・カフェ「坂」
朝日21関西スクエア会報 朝日新聞大阪本社	vol.105	阪大博物館へいらっしゃ〜い
広報とよなか 豊中市	2008年7月号 通巻699号	夏の小学生科学体験教室(案内)
季刊読書のいずみ 全国大学生協同組合連合会	No.116秋号	博物館へ行こう！
IEEE Annals of the History of Computing IEEE computer society	Volume 30 Number 3 July-September2008	Osaka University:Exhibit of 1950s computer
ザ・おおさか (有)コミュニティ企画	2008年11月号 No.165	第3回特別展 『21世紀の薬箱 新しい医療文化の形成』
広報とよなか 豊中市	2008年11月号 通巻703号	大阪大学総合学術博物館特別展 21世紀の薬箱
とよなか歴史・文化財ガイドブック 豊中市教育委員会		大阪大学総合学術博物館(案内)
大人組Kansai 株式会社ブラネットジアース	2008年12月号 第5巻第12号通巻55号	第3回特別展 『21世紀の薬箱 新しい医療文化の形成』(案内)
C.Work (株)現代ビジネスプラン	2008年11月15日号 No.61	第3回特別展 「21世紀の薬箱」(案内)
Hello!Doctor アミューズ	Winter2008.11.7 NO.35	大阪大学総合学術博物館第3回特別展 「21世紀の薬箱」(案内)
リビング豊中池田 サンケイリビング新聞社	2008年11月22日 1688号	21世紀の薬箱〜新しい医療文化の形成〜(案内)
協力会だより 小太郎漢方製薬株式会社	2009年新年号 No.77	21世紀の薬箱ー新しい医療文化の形成(案内)
小太郎漢方ニュース 小太郎漢方製薬株式会社	2009.新年号 No.371	21世紀の薬箱ー新しい医療文化の形成(案内)
広報とよなか 豊中市	2009年2月号 通巻706号	サイエンス・カフェ(案内)
広報いけだ 池田市	2009.2.1 第1059号	サイエンスカフェ@待兼山(案内)
プレジデントファミリー プレジデント社	2009年4月号 第4巻第4号	歴史の遊び場ガイド02 大阪府大阪市 緒方洪庵
リビング吹田箕面 サンケイリビング新聞社	2009年2月28日 773号	第4回特別展「昭和12年のモダン都市へ〜観光映画『大大阪観光』の 世界〜(案内)
広報いけだ 池田市	2009.3.1 第1060号	サイエンスカフェ@待兼山(案内)
OSAKAモノレールプレスつれてって。 サンケイリビング新聞社	2009年3月号	第4回特別展「昭和12年のモダン都市へ〜観光映画『大大阪観光』の 世界〜(案内)

インターネット記事

Osaka Cityweb 大阪地下鉄沿線タウン情報	大阪大学総合学術博物館第3回特別展「21世紀の薬箱」(案内)
-------------------------------	--------------------------------

その他の刊行物(博物館教員関連)

2009年4月号 Vol.9 No.4	ひととき 東海道・山陽新幹線時 刻表付	まほろばのひかり 第三十一回 奈良県 大和郡山(橋爪節也教授)
------------------------	---------------------------	------------------------------------

3.3 サイエンスカフェ@待兼山 “土曜の午後はミュージアム”

サイエンスカフェ@待兼山 “土曜の午後はミュージアム”

土曜日の昼下がりに、大阪大学総合学術博物館でサイエンスカフェを楽しみませんか。
サイエンスカフェは、いわゆる「講演会」や「何でも相談室」といったようなQ & A方式で専門家が「正解」を教える場所ではありません。正解は得られないかもしれません。コーヒーを片手にケーキをつまみながら「科学する」とはどういうことかを、専門家とともに考えていきます。そのことを通して専門家と一般の方々の間のコミュニケーション不全を少しでも改善できれば、サイエンスカフェとしては成功だと思います。

大阪大学の総合学術博物館、大学院理学研究科、大学院基礎工学研究科の教員有志がコーディネーターを務める予定です。

カフェ番号	予定日 ^{*1}	コーディネーター	所属 ^{*2}	タイトル	対象
1	4/5	江口 太郎	博	携帯電話の電波は体に悪い？	中学生以上
2	4/12	池田 茂	基	エネルギーのこれから	中学生以上
3	4/19	藤原 彰夫	理	論理とパラドクスの迷宮への誘い	制限なし
4	5/10	佐藤 宏介	基	防犯カメラはどこまで見張る？	高校生以上
5	5/24	廣川 和花	博	古文書でたどる待兼山	高校生以上
6	6/7	文珠四郎 秀昭	理	水道水はそのまま飲めない？	高校生以上
7	6/21	高橋 京子	博	クスリに好奇心：生薬なるほど物語	高校生以上
8	7/5	上田 貴洋	博	身の回りのものをつくっているものはなに？ 分子の大きさを実感する方法を考えよう！	小学5,6年と保護者
9	7/19	藤田 佳孝	理	宇宙から極微の世界まで－自然界に働く四つの力－	高校生以上
10	8/2	豊田 二郎	博	ネットワークとうまくつきあう	中学生以上
11	8/9	狩野 裕	基	データによる論証とは：データの見方、考え方	制限なし
12	8/23	古屋 秀隆	理	口になるか、肛門になるかが、動物の分かれ目	制限なし
13	8/30	荒木 勉	基	体の中の精密機械	制限なし

*1 実施予定日はコーディネーターの都合により変更される場合もありますのでご了承ください。

*2 博：総合学術博物館
理：大学院理学研究科
基：大学院基礎工学研究科

開催場所： 待兼山修学館1階 ミュージアム・カフェ「坂」

開催時間： 午後3時から4時半まで

定員： 各回とも20名程度

参加費： 無料

Webフォームによる申し込み

申込方法： あるいは往復はがき(住所、氏名、年齢、希望のカフェ番号を明記)
〒560-0043 豊中市待兼山町1-16 大阪大学総合学術博物館
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

申込期間： 各カフェ実施日の1ヶ月前から10日前まで(必着)
抽選により参加者を決定します。当選者には、メールあるいは葉書でお知らせします。

サイエンスカフェ@待兼山

"土曜の午後はミュージアム"

土曜日の昼下がり、大阪大学総合学術博物館でサイエンスカフェを楽しみませんか。

サイエンスカフェは、いわゆる「講演会」や「何でも相談室」といったようなQ & A方式で専門家が「正解」を教える場所ではありません。正解は得られないかもしれませんが。コーヒーを片手にクッキーをつまみながら「科学する」とはどういうことかを、専門家とともに考えていきます。そのことを通して専門家と一般の方々の間のコミュニケーション不全を少しでも改善できれば、サイエンスカフェとしては成功だと思います。

大阪大学の総合学術博物館、大学院理学研究科、大学院基礎工学研究科、大学教育実践センターの教員有志がコーディネーターを務める予定です。

カフェ*1 番号	開催日	コーディネーター	所属*2	タイトル	対象
1	2008/12/20	江口 太郎	博	今日は熱があるようだー温度と熱の話ー	中学生以上
②	2009/ 1/10	松多 健策	理	「身の回りの放射線ー放射線のメリットとリスクー」	高校生以上 (親子での参加も歓迎)
3	1/17	横田 洋	博	メディアを考えるー映画・演劇の場合ー	中学生以上
④	1/24	吉永 隆夫	基	表面張力の不思議ーシャボン玉からドライアイまでー	制限なし
⑤	1/31	中村 征樹	実	サイエンスカフェ？ー科学を語る場をデザインしよう	中学生以上
⑥	2/7	酒井 朗	基	トランジスターナノスケールのスイッチー	中学生以上
⑦	2/14	佐藤 尚弘	理	ゴムはどうして伸びるの？ーものの性質のなぜ？なに？ー	制限なし (親子での参加も歓迎)
⑧	2/21	井元 信之	基	音から光へ、光から量子へ	中学生以上
9	2/28	橋爪 節也	博	「アートをさらにアートらしくーこうして作られる美術展覧会ー」	制限なし
10	3/7	上田 貴洋	博	匂いと臭いーにおいと化学物質ー	制限なし
11	3/14	松本 幸三	理	少しの違いで大違い！分子の構造と性質の不思議な関係	制限なし
12	3/21	藤田 裕	理	星の彼方へ	高校生以上
13	4/4	豊田 二郎	博	ホテルの光のひみつ	制限なし
14	4/11	廣川 和花	博	医療の歴史@文系	制限なし

*1 ○つきのカフェ番号は豊中市との共催です。

*2 博：総合学術博物館、理：理学研究科、基：基礎工学研究科、実：大学教育実践センター

開催場所： 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 ミュージアムカフェ『坂』

開催時間： 毎回午後2時から3時半まで

定員： 各回とも20名程度

参加費： 無 料 (別途飲み物代が必要です。)

申込方法： Webフォームによる申し込み

あるいは往復はがき(住所、氏名、年齢、希望のカフェ番号を一つ明記)

〒560-0043 豊中市待兼山町1-16 大阪大学総合学術博物館

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

申込期間： 各カフェ開催日の2ヶ月前から1ヶ月前まで(必着)

抽選により参加者を決定します。当選者には、メールあるいは葉書でお知らせします。

「サイエンスカフェ@待兼山」2008年度前期報告書

以下に、それぞれのコーディネータからカフェ終了後に送られて来た反省・感想メモのメールを、転載します。

全体を通しての印象を列記すると、

- ・ 大変好評であった。
- ・ 皆さんそれぞれ苦勞している。どうしても話し過ぎになる。
- ・ 会場が少し狭い（20 名が限度）。しかし、それ故に身近で話ができる特典もある。
- ・ 時間不足（熱心な質問があるので、午後 2 時からにすべきだろう）
- ・ 抽選結果（参加者決定）の早期発表が必要
- ・ パワーポイントは使い方次第
- ・ 継続する価値は十分ある。

4 月 5 日「携帯電話の電波は体に悪い？」

総合学術博物館：江口 太郎

今朝の朝日新聞科学面に「サイエンスカフェ」の記事が大きく掲載されておりました。好意的な記事をお書きくださった木村さんに感謝いたします。また当日の参加者からのアンケートの回答も好意的なものがほとんどでした。まわりの皆様のやさしさに頭が下がります。

反省点：

- 1) 会場設定：やはり少し狭い。テーブルは最小限にすべき。また、会場受付は 1 時間前から必要か。
- 2) 飲み物は、コーヒーだけでなくウーロン茶なども用意したほうがよい。また、ケーキよりもクッキーなど途中で簡単に口にできるものがよい。さらに、途中でコーヒーなどをつげるように場所を工夫する。
- 3) 今回の参加者は 13 歳から 83 歳で、そのことを気にしすぎて、いきなり本論に入ってしまう、かつ話があちらこちらに飛んでしまった感がある。まず、もう少し丁寧に自己紹介をすべきであった。自分の専門分野をやさしく紹介することで、参加者に質問事項をあらかじめ少し限定させる効果があるような気がする。つまり、医学的相談や倫理的相談を持ちかけても無意味であるような気分させる効果があると考えられる。

- 4) やはり、パワーポイントを使わなかったので、話の順番や組み立てがきわめて困難であった。しかし、さらに反省点としては、参考資料を1枚配布したのだが、その資料の見方などを中学生にもわかるように丁寧に説明すべきであったと思う。どうしても、年配の方の質問に引きづられてしまい、話の内容が難しくなりがちである。
- 5) 最後になって質問時間を数分とったのだが、かなり活発な質問が出た。途中で、質問時間をとるべきであった。(このときに、小生の専門を言ってなかったので、倫理的問題などの質問も出た)
- 6) アンケート結果は好評であったので、やはり、パワーポイントなしで行う試みは支持されたものと思う。

4月12日「エネルギーのこれから」

太陽エネルギー化学研究センター：池田 茂

(進行の仕方について)

- ・こちらで、テーマに関する状況をある程度お話ししてそれを基にディスカッションをするというやり方で行いました。
- ・配布資料とホワイトボード、プロジェクターは無しです。

江口先生からいただきました「1回目の反省点」のメールを受けて、自分の専門をかなり最初に話しました。参加者のアンケートを見ると、ある程度は受け入れられたようでしたが、かなり時間を費やしてしまいました。

反省点や気付いた点は、

- ・結局、ディスカッションが始まったのは残り20分、資料を用意しすぎ、また話しすぎた。
- ・参加者は、意見をもっている方が多く、話したがっている。
- ・このため、かなり時間を設けないと、多くの方の意見が聞けない
- ・環境保護にのめりこんだ意見に少し熱くなってしまった。
- ・他の方の発言を促すような、進行ができなかった。
- ・今回は、「講演会+α」というやり方になってしまった。こちらの伝えたい内容、参加者の討論への意欲を考えると、総時間をもっと長くとったほうがよい。
- ・やり方に工夫がなかったのも問題か？

(会場などのスタイルについて)

会場が狭いので18名程度の当選者に絞りました。結局、参加者は15名程度だったと思います。

随分、室内にゆとりができたので、会場内にクッキーとコーヒーを置くことができました。

この位の人数であれば、途中で取りにいったりも可能でしょう。ただ、今回のような「講演会+α」的なやり方では、「しゃべっている間もご自由にどうぞ」と言っても、途中で取りに行ったりするのは難しいかもしれません。

(その他)

- ・「生活に身近な話題」をテーマとしてほしいようである
- ・抽選結果をもっと早く知りたいとのことでした。

(今回は3日前位だったと思います。)

4月19日「論理とパラドクスの迷宮への誘い」

理学研究科：藤原 彰夫

(会場準備)

- ・前回までの反省点から、テーブル数を少なくし、途中で出入りすることも可能な程度にゆったりとしたレイアウトにして頂きました。(作業自体は、生協の方と博物館の方が行って下さいました。)
- ・今回、新たな試みとして、コーヒー以外にオレンジジュースを用意しました(江口館長が生協の方と交渉して下さいました。どうもありがとうございます)。また、コーヒーやクッキーを置くテーブルの脇にゴミ箱を用意して頂きました。

これらはどちらも大成功だったように思います。(今回は参加者に10代の方が多かったせいか、オレンジジュースはあっという間に無くなり、追加を頼みました。)

(進行)

- ・あまり準備しすぎると講義調になってしまうと思い、今回は基本的にほとんど準備せず、その場の雰囲気に合わせてアドリブでお話しましたが、それでもやはり「一方的にしゃべりまくって」しまった観はぬぐえません。
- ・講義調になったのは、「せめてこれだけは伝えたい」という気持ちの焦りと表裏一体だと思います。全体として1時間半という限られた時間の中で、それなりに意味のあ

るメッセージを込め、しかもディスカッションも活発に行うというのは、至難の業だと感じました。

- ・会場の準備段階では気がつかなかったのですが、いちばん窓際の席（左右2ヶ所）では、ホワイトボードと目線がほぼ平行になってしまうため、ボードに書いたことがほとんど見えなかったようです（アンケートより）。一番窓際は（例えば）荷物置き場にするなど、何らかの対策を施した方がよいと思います。

（感想）

- ・中学生や高校生がたくさん来て下さったのは嬉しかったです。（終わってからも、6時頃まで質問攻めにありました。）
- ・でも、江口先生のおっしゃるような「この次にやるときにはもう少しうまく行くのだが…」とは思いませんでした。私にはあの程度が限界のような気がいたします。

5月10日「防犯カメラはどこまで見張る？」

基礎工学研究科：佐藤 宏介

対象：高校生以上

事前申込者数：18名

実参加者：14名（キャンセル連絡3名）

当日天候：雨天

機材：

- ・白板
- ・プロジェクターなし

配布物：

- ・錯視図形
- ・新聞記事コピー

進行：

- ・コーヒー、クッキーは、廊下受け付け側のテーブル上に配置
- ・入場時に、コーヒー、クッキーを各自ピックアップ
- ・0～5分 博物館説明

- ・ 5 ～ 35 分 導入的な説明トーク
- ・ 35 分～ 質問を受けながらのトーク
- ・ 45 分 5 分休憩
- ・ 50 分～ 質問を受けながらのトーク
- ・ 90 分～ 終了。アンケート記入、回収
- ・ 115 分 最終者退場

コメント：

- ・ 定員一杯の 20 名が来ていたら、部屋の圧迫感が出ていたと思います。カフェの雰囲気には 15 名以下がよい感じで、今回の 14 名が適切でした。
- ・ コーヒー、クッキーなどは廊下のテーブルに置いたため、随時のお代わりはしにくい雰囲気でしたが、真ん中の時間帯にお代わり休憩を 5 分入れたのは、進行上のよいリズム間が生まれ、それはそれで良かったです。
- ・ 視覚の話だったので、錯視図形や関連新聞記事のコピーをトーク中に配って見てもらいました。このような小物の活用でよい雰囲気が生まれました。
- ・ トークの進行に協力的？な参加者が数名おられて、かなり助かりました。
- ・ アンケートは好意的なものばかりでした。
- ・ 「私が女学生だったころの時代は、親から『女は大学に行くものではない』と言われ、大学での勉強にずっと憧れていましたが、今日ようやく大学で勉強できました」と、高齢の女性が最後にお礼を陳べられ、卒業式で卒業生を見送ったような晴れがましいような気分で帰ることができました。

5 月 24 日「古文書でたどる待兼山」

総合学術博物館：廣川 和花

事前申込者数：18 名

実参加者：13 名

当日天候：雨天

機材：ホワイトボード

配布物

- ・ 絵図、地図類のコピー 3 枚

- ・古文書・古典籍写真版・活字版のコピー 8枚

進行

- ・コーヒー、クッキーは、廊下のテーブル上に配置 入場時に各自ピックアップ
 - ・前半：イメージとしての待兼山像の形成について（40分程度）
 - ・休憩 10分ほど→質疑しつつ
 - ・後半：地域史の中の待兼山、入会山としての待兼山について（30分程度）
- 質疑→16：30に終了

コメント

- ・待兼山がテーマということで、地元の方ばかりかと思っていましたがそうではなかったのが意外でした。
- ・博物館見学の際にわたしが担当するとあからさまに小馬鹿にされる方もありますが、今回はそういう方はおられず、皆さん好意的な態度で聞いてくださいました。
- ・40～50代の歴史好きの方々中心。
- ・理学研究科の学生さんで、「文系の研究ってどんなのかと不思議に思っていたので新鮮」という感想も。
- ・ホワイトボードの死角に座られた方から見えなかったとの苦情あり。
- ・史料多すぎかと思いましたが、むしろたくさん貰えたほうがお得感があるみたいです。
- ・聞こえないとのことで、マイクを使用しましたが、それほどマイナスにはならなかったと思います。

個人的には「サイエンスカフェ」にふさわしい、歴史学研究の最前線でどんな研究がおこなわれているのか、歴史学のどこがサイエンスなのかといったことをうまく伝えることができず力不足を感じております。が、参加者の方がそういう話を求めておられた感じでもなく講演会や公民館の古文書講座と同じような感覚なのかなと思いました。

6月7日「水道水はそのまま飲めない？」

理学研究科：文珠四郎 秀昭

事前申込受け入れ者数：19名

実参加者：19名

当日天候：晴れのちくもり

機材：ホワイトボード

配布物

- ・水道水とミネラルウォーターに関する資料（法定基準値や統計データなど）13 ページ

進行

- ・コーヒー、ジュース、クッキーは、廊下のテーブル上に配置 入場時に各自ピックアップ
- ・定刻の 15:00 江口館長による挨拶と紹介
- ・20 分程度、資料の一部を使って水道水とミネラルウォーターの安全基準など基礎知識の導入
- ・その後、1 時間あまり、質疑応答
- ・16:30 に終了、16:50 ごろには全員帰宅しました。

反省点など

- ・資料は用意しましたが、全体の進行予定などを準備せずにぶっつけ本番で臨みました。
- ・ホワイトボードを用意していただきましたが、まったく利用しませんでした。
- ・講義、講演にならないことを心がけました。
- ・できるだけ、参加者の方に発言していただく予定でしたが、私に向けて質問される参加者の方々が多く、結局、私の話が中心になってしまいました。
- ・かなり積極的な参加者の方と、そうでない方がおられるので、全員にうまく発言していただけませんでした。
- ・話題が「水」という身近な話題であったためか、逆に焦点が絞れなかったように思います。
- ・アンケート結果は、全体に好意的なものが多かったようです。

6 月 21 日「クスリに好奇心：生薬なるほど物語」

総合学術博物館：高橋 京子

当日天候：雨天

実参加者：16 名 参加 1 回（10 名）、2 回（3 名）、4 回（2 名）不明（1 名）

内訳～女性：10名（18～70歳）、男性：6名（43～72歳）

【達成目標】

漢方薬・民間薬・生薬製剤・サプリの定義・識別の確認

各自に見合った生薬の利用法のヒントをさぐる～セルフメディケーション

薬食同源を体感する（色・香り・味・触感を楽しむ）

【準備】

ホワイトボード、配布プリント（6枚程度用意）、マイクなし

話題提供を目的とした準備物：

生薬の花を飾る～ドクダミ、カミツレ、ベニバナなど（花瓶を用意し生ける）修学館周辺および吹田・薬学研究科薬用植物園より採取

ドクダミ茶（十薬）・タンポポコーヒー・本葛を材料にした落雁・葛飴を準備（高橋提供）

生薬サンプル（20種程度・漢方薬配合生薬・ヨーロンパハーブ標本など）

その他～煎じ器、（葛根湯処方）、薬用植物の写真、日本薬局方（書籍）

【サイエンスカフェの構成・進行について】

留意点：これまでのご報告から一方的な講義形式にならないようかつ、参加者からの疑問・意見交換が行えるように、準備物を工夫した。（上記参照）

各家庭での体験や習慣などを話題とするため、順に指名し、意見や考えをもとめた。キーワードとなる言葉をあらかじめA4サイズの紙に作製し、マグネットでホワイトボードに掲示した。話の流れによって想定されるワードを10個ほど準備した。疑問点や確認した事項をポスター形式で掲示した。

進行：

コーディネーターの自己紹介と質問についてのお願い（健康相談はしない）

ドクダミ茶、ダンデライオンコーヒーの説明：食品として用意したことを伝え、クッキーとともに味わいながら会を進行する。（併用作用の不安に対応）

言葉の定義への意識を引き出す：生薬への知識・印象を聞き出す

漢方薬・民間薬・サプリについてとその識別

クスリに対する理解度の確認と生薬体験を話し合う

（みんなに問いかけること：各家庭での体験や習慣などを話題とする。各自クスリへの知識と経験したことがある生薬について話してもらう）

日本の生薬製剤の品質・安全性の基準・システムを説明する～日本薬局方（中国との違

い) 個人輸入の自己責任などの話題提供と意見交換など

天産物の問題点を考える。安全性と効果の確保に必要なことを考える

原材料となる国産生薬の現状と課題～自分たちでできることは？

セルフメディケーションの試み：希望により葛根湯を煎じ、試飲した。

質問を受ける。(会は定刻に終了、その後 17：20 頃まで希望者のみ)

【コメント】

男女や年齢差にかかわらず、共通の話題を見つけるのが容易で意見の言いやすい雰囲気
が当初から設定できた。→ 準備物より複数の話題が確保できた。

板書の手間や理解のし易さにはポスターが有効であった。

積極的に発言する参加者が 7 名程度いて、予想通りの方向に話題が展開する場面もあつた。
生薬に触れる経験が刺激となり、参加者間での意見交換がスムーズに思われた。質問
が多様で、返答説明のレベルに苦慮した。

飲み物や試飲については、各人の自由にまかせたが、漢方薬（葛根湯：煎じる実演を行
った）の試飲希望者は 12/16（75%）であった。

【アンケート結果】

遠く他県（香川県）からの参加者がいて驚いた。若い年齢層に、将来の進路を模索中で、
医薬に対する興味で参加した方が複数存在した。

アンケートは好意的なものばかりであった。飲み物も比較的好評であった。

テーブル配置を対面式にしたかどうかという提案があった。

座席位置により冷えすぎのクレームがあった。(エアコンの温度調節の工夫)

7 月 5 日「身の回りのものをつくっているものはなあに？分子の大きさを実感する方法
を考えよう！」

総合学術博物館：上田 貴洋

天候：晴れ

参加者申込数：11 組（22 名）

当日参加者数：9 組（18 名）

※募集対象が、「小学生 5, 6 年生とその保護者」であったため、親子 2 名で申し込みを
していただいた。申し込みの段階では 11 組・22 名全員に当選の返事をお出ししたが、

前日までに2組のキャンセルがあったため、当日は9組・18名の方に参加いただいた。

参加者の構成は以下のとおりであり、バランスとしては取れていたように思う。

父親＋息子：2組

父親＋娘：2組

母親＋息子：3組

母親＋娘：2組

機材・資料等：

ホワイトボード

配布資料（3種類）「ものの大きさ比べ（地球から原子まで）」、

「元素の大きさ比べ」、「一家に一枚周期表」

進行：

- ・飲み物等：会場前の廊下に用意してもらった。コーヒー（ホット）、ジュース（オレンジ、野菜ミックス）、クッキー
- ・自己紹介とサイエンスカフェについて
- ・本日の主題である「分子」の大きさの説明（配布資料）
- ・Q&A方式で「分子」の大きさをイメージしてもらう。
- ・演示実験（液体窒素による空気と酸素の液化、気化による体積増加）に引き続き、質問を行う。
- ・参加者からの答え（意見）を集約し、出た答え（意見）の妥当性を話し合う。
- ・食塩水のテイスティングをしてもらい、食塩水の濃度を分子数の比で考えてもらう。
- ・身の回りに存在する食塩水の濃度を紹介し、テイスティングした食塩水と比較してもらった。
- ・身の回りのものを作っている物質にどのようなものがあるか、周期表を用いて解説した。
- ・質問を受けながら、物質や分子について話をした。

コメント、反省点など：

- ・小学生を対象にしたサイエンスカフェは、今回が初めてであったが、比較的少人数ということもあり、前半は子供たちからの意見を引き出すことができたように思う。
- ・身の回りのもの（物質）の基本構成単位である「分子」を実感してもらうことを目標に設定したが、小学生にはやや難しかったかもしれない。小学生を対象とするにはも

う少しテーマの設定を考える必要があると感じた。中学生や高校生くらいなら OK か？

- 本来のサイエンスカフェとはアプローチが異なるが、演示実験やクイズなどを軸としながら進化した。演示実験としては、液体窒素を用いた空気と酸素の液化、液体酸素の磁性、液体窒素の気化などを行った。また、クイズについては、食塩水のテイスティングを行ってもらい、食塩水の濃度を水分子とイオン(ナトリウムと塩化物イオン)の数の比を考えてもらった。
- 小学生を対象とした場合、参加者の集中力や興味を保ち続けるためには、今回のような演示実験やクイズの必要性を強く感じた。話や資料だけでは、子供たちの興味をとなぎとめておくのが非常に難しい。
- アンケートを見る限り、テーマの設定、話の内容、進行について、皆さん好意的にとらえていただいたようです。
- 同席した保護者の方にはできるだけ子供たちと一緒に考えていただきたかったが、ある程度知識をお持ちの保護者の方は、子供に答えを教えてしまい、お子様自身の意見が反映されない場面もあった。少し問題に感じたのは、子供を通して大人の意見(大人の知識)が出され続けると、それまで積極的に発言していた他の子供たちが声を発しなくなる傾向が見られたことである。子供と親のペアの場合は、コーディネータが親の立場・役割を明確にするとともに、その役割を参加者によく理解していただく必要があると感じた。

7月19日「宇宙から極微の世界まで -自然界に働く四つの力-

理学研究科：藤田 佳孝

対象：高校生以上一般の方

内容

宇宙から極微の世界まで・・・見た目の多様さとは異なり、自然界は驚くほど単純で基本的な要素の組み合わせで出来ているようです。たとえば、おおとの力(相互作用)は、重力、電気磁気の力、弱い相互作用、強い相互作用の四つしかありません。つまり大宇宙から原子核、クオークの極微の世界まで、自然界全体が、四つの力の働きのバランスで成り立っているのです。

現実に目の前に感じる重力や電気、磁気の力からはじめ、人類が認識しているより大きな世界：星、銀河、宇宙、またより小さな世界：分子、原子、原子核、クオーク、そのような世界を組み立てるおおもととなっている四つの力について、しばし思いを馳せ

てみませんか。

%-----

進め方は、以下の通りです。

- 1) 世離れした内容を可視化するため、ファイルのスライドを使いました。現代の物理の目で見えた自然界に対する認識を、Powers of Ten という 10 倍ずつスケールを変える手法で、示しました。
- 2) デモ実験で、力の強さ等を見てもらいました。
以上合計、約 80 分
休憩 約 10 分
- 3) 約 25 分の質問。まだ質問が少し続く気配があったのですが、Cafe の営業終了時間、5 時が近付き、打ち切りとなりました。

感想：

- 1) 大学での講義に対しては、質問がなかなか出ないのですが、ここでは色々のレベルの質問がありました。
- 2) 部屋にもう少しの余裕がほしい、と感じました。

反省点：

- 1) 科学の面白さを紹介したく、ついつい講義的になったこと、
- 2) 質問、討論により多くの時間を配分すべきであったこと、
- 3) その為、話す内容を厳選すべきであった(一部を質問の時間に回すなどの、工夫すべきであった) こと、だと思います。

アンケートを読んで：

- 1) 世離れした内容であったが、「テーマの設定」は好意的に受け入れでもらった事は、嬉しかったです。
- 2) 内容を「やさしい」と感じた人が多くいたのには、すこしビックリしました(時間をかけてゆっくり話をしたからか?)。

8月2日「ネットワークとうまくつきあう」

総合学術博物館：豊田 二郎

参加者申込数：8 名

当日参加者数：7 名(飛び入り参加 1 名)

アンケート回収：6 名

機材：液晶プロジェクター (PowerPoint)

進行：

最初の 40 分程度、PowerPoint にて説明とフィッシング詐欺等の実演。
残り 50 分程度ディスカッション。

コメント、反省点など：

参加者には、可能であれば無線 LAN 対応のノートパソコン等を持って来ていただくようお願いしていたはずだったのですが、誰も持って来ておられなかった。実演部分で参加者にも体験していただくはずだったのですが、それが不可能になり、実演部分をかなり省略した。こちらでノートパソコンを用意して使っていただくようにすれば良かった。

最初の PowerPoint で説明する途中でもどんどん質問して下さいとアナウンスしていたが、予想通り質問はなかった。そのぶん、後のディスカッションが活発になったので良かったが、PowerPoint での説明途中でもこちらから問いかける等の工夫が必要だった。

参加者は 40 代が中心であったが、アンケートを見る限り好評であった。フィッシング詐欺の部分で非常に興味をもってもらえたが、参加者に実演していただけなかったことは重ねて残念であった。

8 月 9 日「データによる論証とは：データの見方，考え方」

基礎工学研究科：狩野 裕

事前申込者数：25 名

当日欠席者数：5 名

狩野関係者：2名＋学生補助員2名

- ・配布資料 A4×8 枚＋図表 A4×2 枚(8 スライド分)
- ・図表は、模造紙大(A1)に拡大したものを用意し(8 枚)、学生に掲げてもらい説明に使った.
- ・資料とスライドを pdf にして、以下におきました.

<http://www.sigmath.es.osaka-u.ac.jp/~kano/temp/cafe2008kano.pdf>

できれば自分の web page 等にもおきたいが、著作権の扱いがよくわからないのでしばらくペンディングにします.

当日の感想

- ・オリンピックや高校野球があったのでキャンセル率が高まると予想し申込者全員を受け入れた. 実際、従前より少しキャンセルが多かったようだが、予想より多くの方にお越し頂き、会場は少し手狭だった
- ・配布資料では問題提起を行い、いわゆる「基準解答」は示さなかった
- ・狩野のスタンスとしては小学校の授業のように生徒と先生がやりとりできることを目指した
- ・公開講座よりはずっと積極的に発言してくれた
- ・後半は時間がなくなり講演スタイルになったしまったのは残念だった. 発言したい方はストレスがたまったのではないかと反省. 全体を通してコーディネータが喋りすぎた感はぬぐえない
- ・模造紙大(A1)の印刷物を用意するのであれば、プロジェクタを使ってもよいのではないかという意見があった.
- ・家庭用ビデオで撮影した

8 月 23 日「口になるか、肛門になるかが、動物の分かれ目」

理学研究科：古屋 秀隆

天候：雨

参加者申込数：25 組 (27 名)

当日参加者数：18 組 (20 名)

対象：特に制限なし

配布資料：B4 用紙 1 枚（動物の系統樹、ウニの初期発生、動物の口と肛門のでき方の違いなど）

機器：ホワイトボード

進行：

- ・飲み物等：会場前の廊下に用意。コーヒー、ジュース（オレンジ、野菜ミックス）、クッキー
- ・館長によるコーディネータ紹介
- ・本日の主題の説明（配布資料）10 分
- ・自由に討論。質問、コメント、意見を受けながら進めた。しだいに生物全体の進化の問題に発展していった。終了時間が来ても討論がやまず、解散したのは 17 時でした。それでも話足りないといった方がおられました。

コメント、反省点など：

アンケートによれば、小学生にはやや難しかった部分もあったようですが、一般の方に対してはわかりやすかったようです。話の運びを参加者にある程度まかせたことが、（話が難しくならず）案外よかったように思えます。また幸いにも、この手の話題のファンが参加者に含まれていたことが、カフェの盛り上がりにつながったようです。しかし、閉店が近づいても盛り上がっている話を打ち切ることができず、時間オーバーしてしまいました。コーディネータとしても日頃感じられない体験をさせていただきました。

8 月 30 日「体の中の精密機械」

基礎工学研究科：荒木 勉

天候：雨のち曇り

参加者申込数：21 組（23 名）

当日参加者数：16 名

対象：特に制限なし

教材：パワーポイント、ホワイトボード、実演教材（光の全反射、内視鏡）

進行：15：05-15：45・・・PPTやホワイトボードを使った講演

15：45-15：55・・・クッキーなどをつまんでもらうための休憩

- 15 : 55-16 : 05 . . . 光の全反射の実演（メスシリンダーに懸濁液を入れて、レーザーポインターの光を入射し、水の中を光が伝播する様子を見せる。そのあと、光ファイバーバンドルを手に触れて、柔らかさ、光の伝播など体験してもらう。
- 16 : 05-16 : 25 . . . 内視鏡を見せ、各自触れて操作し、肉眼で画面を見てもらう。この間に質問を受け付ける。
- 16 : 25-16 : 35 . . . 結言の P P T と質問

当初 14 歳の方が聴衆に居られると予定していたが、キャンセルとなり、学生さんが 2 名と後は 30 代ー 70 代の方であった。したがって、話題を体の構造、エネルギー効率など、身近な話題にしぼり、実演を中心にした。

よかったこと：こちらの古くさいだじゃれなどもわかってもらえて（年配が多い故か？）、和気あいあいと進行できた。実験をしようと思い、レーザーや共鳴管（紙の筒、耳の $\lambda/4$ 共鳴の体感に使う）、内視鏡などを持参したが、大変好評であった。理系でない方からの質問は結構するどく、答えに窮する場面もあり、私の勉強になった。

反省点：とにかく時間不足であった。実験道具はもっと持参したが、途中で時間の不足が予見できたので、取捨選択した。準備していった耳の話は結局できなかった。質問や聴衆からの疑問にいっしょに考える時間を設ければよかった。

お一人の方は終わってからずっと質問され、後片づけ後にいっしょに歩いて研究室まで来られた。

「サイエンスカフェ@待兼山」2008年度後期報告書

12月20日「今日は熱があるようだー温度と熱の話ー」

総合学術博物館：江口 太郎

12/20に第1回目のカフェを開催しました。天候は晴

参加者は、当日参加4名（うち2名は小生の研究室の大学院生でサクラ?）を含めて、14名でした。20名になるとちょっと狭いので、丁度適当な数になりました。各自飲み物代200円（お代わりができます）をご負担願いましたが、何のトラブルもありませんでした。

パワーポイントは使用せず、ホワイトボードへの板書のみで行いました。ただし、液体酸素を使って簡単な演示実験（液体酸素の色を見せる）を行いました。

少人数でしたので、小生の自己紹介に引き続いて、参加者全員の自己紹介を行いました。皆さんきちんと自己紹介しておりました。最年少は小学4年生（この子は科学好きでしっかりしていました）+お母さん、次が中学1年生+お母さんでした（いずれも初参加）。リピーターは、2回参加の人が3名、3回参加の人が1名、4回以上参加の人が3名でした。

小生の話は「熱力学」で、ちょっと難解だったと思いますが、アンケートではまずまず好評でした。なるべく、子どもさんに質問をして進めたのですが、それがよかったようです。

12/22の朝日新聞にカフェの記事が掲載されたようですから、今後は申込が増加すると思います。

1月10日「身の回りの放射線ー放射線のメリットとリスクー」

理学研究科：松多 健策

1/10に第2回目のカフェを開催しました。

参加者は11名だったと思います。（うち1名は相当遅れてこられました。）ゆったりと出来る人数でした。最高齢の79歳を筆頭に高齢の科学ファンの方が多かった様ですが、ご家族でご参加のグループもありました。最高齢の方は旧制浪速高等学校、阪大同窓生の方だそうです。飲み物は200円で飲み放題。始めに飲み物とクッキーを取ってもらい、途中の休憩でお代わりしてもらいました。

博物館のプロジェクターを白壁に投影してパワーポイントで主に話し、幾つかの演示実験を行いました。出来るだけゆっくり話し、補足の説明や、余談なんかも取り混ぜ、時にはこちらから質問を幾つかして参加を促す工夫をしました。質問もそれなりに有りました。途中、演示実験の準備のため休憩を入れましたが、休憩中、高度な質問も出ました。

話は「放射線、応用とそのリスク」。原子の構造から話を始め、原子力エネルギー、核融合、放射線の医学利用、自然界の放射線と話してきて、そのリスクの程度を定量的に説明しました。アルファ線の飛跡を見る演示実験も院生に手伝ってもらって行いました。アルファ線の飛跡はいつもの事ながら好評でした。一般の聴衆にとっては難解なはずですが、この回の参加者の食いつきはなかなかのもので、アンケートでは、概ね、適度の難易度だった事がうかがえます。

出来るだけざっくばらんな感じでやったのですが、立って話してましたので、休憩時間に座って、こちらでもコーヒーを飲みながら話しているときの方が良い雰囲気だった様に思います。ちょっとゆっくりやりすぎて10分以上超過してしまいました。

1月17日「メディアを考える－映画・演劇の場合－」

総合学術博物館：横田 洋

17日にサイエンスカフェの第3回を行いました。

当日のキャンセルなどもあり、最終的には7名の参加がありました。どなたも一度は参加されたことのある常連さんばかりでした。タイトルは「メディアを考える－映画・演劇の場合」ということでしたが、サイエンスカフェの常連ということもあり、特に演劇に興味があるという方達ではありませんでした。そこで、あまり聞きなれないと思われる「演劇学」がどのような学問であるかということも大きなテーマとして進めました。

参加者の方に演劇に関係する形で自己紹介してもらい、その後本題である「演劇の本質的要素」とはどのようなものかを参加者の方達とともに考えていくことにしました。

まず、伝統演劇から現代演劇、アングラ演劇、ミュージカルなどの短い映像を10本ほど見てもらい、一口に演劇といっても様々な種類があることを確認してもらい、そこに共通する要素、演劇にとって普遍的・本質的な要素を考えてみるということを行いました。その中で、アリストテレス、ベントリーをはじめとする色々な演劇理論を簡単に紹介しました。ただ紹介するだけでは、議論が止まってしまうと考えたため、紹介した理論に対する疑問なども私の方から提出していききました。あくまで参加者自身が考えるための糸口、枠組みを示すようにしました。

パワーポイント（実際はkeynoteですが）も使用しましたが、サイエンスカフェのために用意したものではなく、以前作ったものの使い回しです。若干今回のために編集しましたが、全体をパワーポイントで進行するような形にはしませんでした。10分程度で完結するファイルをいくつか用意し、話の進み方によって、どれを使うか選ぶという方針で編集しました。実際使用したのは、アリストテレスの『詩学』の説明のためのファイルだけで、他の理論家の説明などは口頭やホワイトボードで簡単に説明しました。白板に色々書く手間を考え、時間短縮のためにパワーポイントを用意したつもりだったのですが、前もって準備するとどうしても丁寧になりすぎるようです。乱暴な論旨でも口頭で要点だけ説明する方が時間はかかりませんし、乱暴な方が参加者も議論に参加しやすいのかと、今では思いますが、実際どうだったかはわかりません。

その他、無線LANを使って、Googleで「演劇学」を検索してみるといった遊びも入れました。また阪大の演劇学研究室のサイトを紹介しながら、演劇学の説明などをしました。参加者と共にリアルタイムでウェブブラウザを覗くことで、親しみやすい雰囲気を作れないかと考えてのことです。

参加者が参加しやすい親しみやすい雰囲気を作るための試みを色々行ったのですが、実際効果があったのかはわかりません。常連の方が7名ということもあり、私がカフェの部屋に入る前から参加者同士で楽しそうな会話が行われており、その意味では、私と関係なく、すでに親しみやすい雰囲気は作られていました。

本題の議論が理想的に進んだかどうかとも判断できません。ただ参加者は「演劇の本質的要素」とは何かを理論的に考えるということよりも、演劇学がどのような学問であるかの方に興味があったようです。ただその二つの問題は最終的には同じことだと思えますので、私自身は参加者の話も聞けて有意義な時間を過ごせたと思っています。

1月24日「表面張力の不思議－シャボン玉からドライアイまで－」

基礎工学研究科：吉永 隆夫

第4回サイエンスカフェ「表面張力の不思議－シャボン玉からドライアイまで－」についての報告をいたします。

申し込み時には26名ほどで、20名程度に絞りましたが、実際は十数人程度の参加でした。最初に自己紹介をしてもらいましたが、けっこう遠方（鳥取県）から来られている方もあり驚きました。また、シャボン玉ということもあり、子供連れ家族が3組ほどありました。

話は、シャボン玉を例にとり、表面張力について、力の大きさや、性質、引き起こす現象についてマクロな視点から、実験のムーヴィーを交えながら説明しました。表面張力という身近な現象のため、質問もいろいろあり、大人の方には反応もよく概ね納得していただいたと思います。しかし、これに大半の時間をつぎ込んだため、後の表面張力の引き起こすいろいろな現象例については、十分時間がとれず駆け足になってしまいました。あまり多くのことを言い過ぎないようにまた、時間配分をうまくとるように事前にもっと考えておくべきでした。

いろいろ質疑応答もあり、自分としてはかなり一般の人とのコミュニケーションははかれたとは思ったのですが、後で聞いたら比較的知識のあるリピーターの方の質問が多かったようです。

終わってからも、一時間ほど子供連れ家族とシャボン玉で遊びながら、表面張力や学校での理科授業などいろいろな話をすることができました。準備にある程度時間はかかったものの、私としては、普段の講義以上にみなさん真剣に聞いていただけて、充実感がありやってよかったと思っています。

1月31日「サイエンスカフェ？ー科学を語る場をデザインしよう」

大学教育実践センター：中村 征樹

1月31日に第5回サイエンスカフェを開催しました。

普段、ファシリテーター(進行役)の役回りでは何度も開催したことはあるのですが、話題提供者としてというのは初めてだったこともありまして、また勝手が違うなというのを感じました。また、サイエンスカフェをテーマにしたサイエンスカフェということで、他の回とはかなり趣向が異なるため、どうなるかちょっと不安だったのですが、予想以上に(他の回と同じ程度に)参加者も集まり、参加者からの発言もそこそこ盛り上がったのかな、と思います。

今回は、15名程度の参加者でした。当初、定員ちょうどの20名の参加申し込みで、何人かキャンセルがあって、ということでその人数になったのですが、会場的にも、また、参加者からの発言がでてくるにも、多すぎず少なすぎず、比較的やりやすかったです。

進行は、はじめに30分弱ほど、さまざまなサイエンスカフェの様子について、国内外のサイエンスカフェの写真などをまじえながら紹介するとともに、サイエンスカフェの醍醐味と重要なポイントについて私見を述べるかたちで、話題提供を行いました。話

題提供時にもできるだけ参加者からの発言を交えたかったのですが、そこはなかなか難しかったです。

私からの話題提供後、サイエンスカフェに期待していることや、どんなことを考えて今回のサイエンスカフェに参加したかなどを、江口先生にもフォローしていただきながら、何人かの参加者に発言してもらいました。そこでの議論がひと段落ついたところで、10分程度の休憩時間を取りました。そのときに、サイエンスカフェをやろうと思っている参加者（学生）から声をかけていただいたり、ざっくばらんな意見をほかの参加者からいただいたりしたので、休憩時間終了後には、それらの方々の発言から後半を開始しました。

今回は、いろいろと自由な発言を拾いたいと思っていたこともあり、ディスカッションもあまり構造化されたものではなかったもので、全体的なまとまりはあまりなかったように思いますが、答えがないことがある意味、明確な、柔らかいテーマだったこともあり、参加者からは比較的自由に発言いただけて、それなりに盛り上がったように思います。

ただ一方で、どうしても、ディスカッション時、参加者と私とのあいだのやりとりがメインになって、なかなか参加者間の対話というものを促せなかったのが、今後の課題かと思っています。

また、席の配置について、「コーディネーターと一般参加者が分かれているのが気になった、両者が区別のない配置にすれば話しやすくなるのではないか」といった指摘もありました。この点は、私自身もサイエンスカフェ開始時にちょっと気になった点ではあったのですが、プロジェクターの関係もあり、難しい問題だなと思いました。

最後に、今回は、テーマがテーマということもあり、参加者が20代以上の方々だったので（年齢制限は中学生以上、ということにしました）、議論しやすかったという点があり、他の回のように小学生や中学生が参加ということになると、また全然違った展開が必要になったかと思っています。ただ、その場合、どうすればいいのかは、妙案が思い浮かびません・・・

2月7日「トランジスターナノスケールのスイッチー」

基礎工学研究科：酒井 朗

2/7のサイエンスカフェの報告をさせていただきます。

参加者申込者は13名でしたが、実際に来られた方は9名でした。新聞にも掲載されたようですが、家族の者からは「お父さんのタイトル、何か難しいね」との鋭いコメント

トをもらい、その影響もあってか、こじんまりとしたカフェとなりました。また、カフェならぬ「講演会（独演会？）」となってしまったこと、途中休憩もなく突っ走ってしまったこと、などなど、いろいろと反省点は多く、今後の課題が残りましたが、参加者はどの方も熱心で、興味深く、話を聞いていただいたようで、個々人の反応も具に伺えてよかったです。

確かに、参加者は常日頃から多くの疑問を抱えていらっしゃるようで、小生の分野のナノテク・トランジスタについても、講演後に多くの質問を受けました。エンドレスの感が否めなかったもので、40分くらいで切り上げさせていただきましたが、大人5人＋子供1人でテーブルを囲んで議論ができたことで、少しでもサイエンスカフェムードをかもし出せたのではないかと思います。

2月14日「ゴムはどうして伸びるの？ーものの性質のなぜ？なに？ー」

理学研究科：佐藤 尚弘

内容：

（パート1）日ごろ利用しているものを科学的（化学的）に見てみよう

【題材】

- ・自動車に利用されている物質（鉄、ガラス、プラスチック、水、鉄、空気、タイヤ、ガソリン）
- ・様々な物質の例示と実験（デモ用の高分子のサンプルを回覧、ハサミで切れない繊維、紙おむつがどれくらい水を吸収するかを実験、弾まないゴムボールと弾むゴムボール；輪ゴムを伸縮させると温度はどう変化するか？）
- ・夢の物質（たとえば、転がり摩擦係数がゼロで、動摩擦係数が無限大のタイヤ、熱を全く伝えない繊維）

参加者からの提案：夏でも使えるスタッドレスタイヤ、柔らかいけれど破れない手袋、風呂場でもカビの生えない素材、…

（パート2）化学ってどんな学問？

【題材】

- ・チョコレート（口の中に入れると融ける；固体→液体）
- ・水をドライアイス温度で凍らせる（水は流れるが、氷は硬くて変形しない、氷は水に浮くか沈むか）

水の分子構造→氷の結晶構造で説明

- ・ゴム（ゴムは伸びるが、ドライアイス温度では硬くなる→室温のゴムは液体？）

ゴムの分子構造→ゴム分子の変形

- ・高分子吸水剤（紙おむつは、なぜ大量の水を吸収するか？）

ゴムと同じような網目モデルで説明

感想・反省：

多少は、パート2の化学・分子の話しも理解してもらいたくてしゃべったが、当初参加予定であった5歳児には無理なような気がして悩んだ（実際には、不参加であった）。アンケート結果によれば、中学生以上の参加者全員は「話の内容は適当」との意見であったが、やはり小学生（3, 5年生）はやや難しいとの意見であった。理科離れ解消の一助にと意気込んで、制限無し（親子参加歓迎）としたが、年齢差の問題は解無しのよう感じた。パート2を止めて、面白そうな実験だけをやるという選択肢もあったが、大学主催のサイエンスカフェとしては、やはり少しは「サイエンス」を入れたいところである。

今回は、20名の参加予定のところ、6名しか参加されなかった。子供が行ってみたいと思うようなタイトルにするなど、工夫が必要だろう。

2月21日「音から光へ、光から量子へ」

基礎工学研究科：井元 信之

内容：

（パート1）音、光、波動の紹介

【題材】

- ・ギター（弦の振動が波長の整数倍を含むものしかないことを示すデモ。）
- ・パワーポイントによる説明（波の干渉現象）

（パート2）波動性と粒子性を両方使う「量子情報処理」とは？

【題材】

- ・暗号画像のOHP（二枚重ねると像が見えるランダムドットOHP。同じ「鍵」を二回使った二つの暗号から鍵情報が筒抜けになってしまうことを見せ、鍵の使い捨てがプライバシーを守るために必須であることのデモ）
- ・偏光板（二枚を重ね相対角度を変えると透明になったり真っ黒になったりする。真っ黒の状態に間に盗聴者の偏光板を入れると光が漏れて来ることを見せ、そうならない「鍵」は盗聴者に見られていないという量子暗号の原理を説明するデモ）
- ・パワーポイントによる説明（レーザーの原理。上記デモの予備説明）

感想・反省：

天気がよかったせいか、当選者は大体参加していたように思います。内容を考え中学生以上と条件をつけましたが、実際に中学生から 80 才ほどの方まで参加していました。カフェでのゆったりした談笑をイメージしながら、座ってゆっくり語りかけ質問誘起もするように始めましたが、いつのまにか立ち上がって講義調になっている自分を見つけてはまた座って見回すという感じでした。内容もどこまで理解してもらえたかわかりませんが、思ったより質問が複数の人から出て、また予想外の質問も出るというこちらとしては嬉しい展開も多少はありました。もっと相互座談的なのが望ましいのですが。あと、こちらにも興に乗ってくるといつもの早口になりがちなので、それに早く気づいてゆったりペースに戻す必要があると思いました。

終わったあと寄って来た質問がまたバラエティーに富んでいましたが、一般人の興味のありかがわかるように思いました。

思ったより質問が複数の人から出たと書きましたが、そのうちどれほどが常連だったかは私はわかりませんでした。大学の宣伝という観点からは、常に常連で占められると困りますが、もし場を盛り上げる役目を果たしているならば、そうですね、2 割程度はいてもいいのかもしれません。その辺は実態をよくわかりませんので解析はお任せいたします。

2 月 2 8 日「アートをさらにアートらしく—こうして作られる美術展覧会—」

総合学術博物館：橋爪 節也

2 月 28 日、「アートをさらにアートらしく—こうして作られる美術展覧会—」というタイトルで開催しました。応募者は 20 名でしたが、当日の参加者は 15 名でした。メインタイトルは少し曖昧な感じでつけましたが、特定の画家や作品についての話だけだと、一方的に、参加者に知識を押しつけるだけになるかもしれないと考え、誰もが知りたがっているが、案外知らない展覧会裏方の楽屋話を中心に進めました。私自身がサイエンスカフェを開くのは初めてですので、参加者と話のキャッチボールがうまくいくように、近くにお住まいで阪大にもゆかりの現代美術家・伊達伸明氏にも特別参加してもらいました。伊達氏は建築物の廃材を使ってウクレレをつくるという「建築物ウクレレ化保存計画」というプロジェクトで作品を作る作家です。

昨年、大阪市立美術館で開催された「没後 80 年記念 佐伯祐三展」の企画を私が担当しましたので、最初にパワーポイントで展覧会を開催するまでの流れを説明しました。

美術の話ですので、美術作品の画像を写し、参加者全員が視覚的な記憶を共有することが必要です。企画書の書き方、タイトルの付け方、作品を借りるのに保険がかかることなどを話しました。作品を借りる上で、自分の館もそれなりの作品を所蔵しないと、いい作品は貸してくれないという話が、とりわけ社会経験豊富な参加者の関心を引いたらしく、質問や、社会人らしい様々ながった意見（つつこみ）がありました。展示技術の話では、観客の進行方向にと個別の作品の方向の問題や、左右を入れ替えたらどう見えるかなどをパワーポイントで写しました。なお佐伯祐三は生誕地が、梅田に近い中津であり、旧制北野中学（現在の府立北野高校）の出身であるなど、地元の画家としてすでに理解している参加者も多数、おられました。

積極的に話をしてきた何人かは、私が大阪市立近代美術館時代にも講演やミュージアムトークでお会いしたことのある方でしたが、博物館のサイエンスカフェの常連でもあります。知った顔があったので、内容は芸術的？で高尚？とはいきませんが、話のやりとりは比較的、積極的だったように思います。誰かが黙っているような瞬間はなかったように感じました。

残念だったのは、同じ「佐伯展」が巡回しても、大阪市立美術館と高松市美術館では壁面の造作や照明の考え方が違うので展覧会の雰囲気が少し変わること画像で比較してもらおうと思いましたが、うまく映写できずに口頭で話ただけで終わり、残念に思いました。

後半は、修学館3階の多目的ホールに、江戸時代の北斎挿絵の「水滸伝」の和本や、戦前のグラフ誌、松竹座ニュース、そして、伊達さんの作品などをいくつかのグループに分かれて展示し、アクリルのケースをかぶせ、それをスポットで照らして展覧会を作る雰囲気を体験してもらいました。「自分が展示するならばこう並べる」という意識の強い方もおられ、「ああでもない、こうでもない」と楽しまれたことと思います。また、額装された版画をどの高さで吊るかにに関して、背丈のある男性と年配の背の低い女性とでは意見が異なることが面白く、伊達さんのコメントなどもはさんで参加者同士の意見の交換もありました。展示し終えた部分から担当グループの代表者が、なぜ、そのように展示したかの意図の説明があり、みんなで質問するなど講評しました。再び、蛍光灯をともしたとき、スポットのなかに浮き上がっていた作品・資料が一度に夢から覚めたようになる感触になることも含め、静かに鑑賞する展覧会ではない、展覧会を作る裏方の気分を味わっていただけたと思います。

こうしたモノの見せ方の工夫は、美術館だけではなく、自宅のちょっとしたディスプレイや、商店ならば商品の配置など、それぞれの職業でも生かされることであり、そうした視点から展覧会を鑑賞することも面白いのでは、と提起して終わりました。反省点

としては、悪気はないのですがモノの扱いが少し乱暴な方もおられ、最初にモノの扱いについて触れておいた方がよかったかなと感じました。

3月7日「匂いと臭いーにおいと化学物質ー」

総合学術博物館：上田 貴洋

「匂いと臭いーにおいと化学物質ー」

日時：3月7日(土)

天候：晴れ

参加申込数：30名

当選者数：22名

当日参加者数：18名（個人参加 9名、家族での参加 3家族9名）

※当日までに欠席の連絡をいただいた方：3名

※連絡なしに欠席された方：1名

今回は参加者について制限を設けなかったため、小学生からご年配の方まで様々な年齢層の方々に参加いただいた。

機材・資料等：

プロジェクター、パソコン

配布資料なし

進行：

- ・自己紹介と本日のテーマについて紹介
- ・本日の主題である「におい」を感じるしくみについて簡単に説明（スライド）
- ・実際に6種類の「におい」をテイスティングしてもらった。
（かなりにおいの強いサンプルもあったため、屋外に出て行なった）
- ・テイスティングしてもらった「におい」について、「匂い」と「臭い」のどちらがふさわしいかを答えてもらった。
- ・においのもととなる「化学物質」について説明
- ・分子の形や種類とにおいとの関係について説明
- ・構造の異なるエステルが、様々な果実のかおりに感じることを体験してもらった。
- ・消臭と脱臭について説明
- ・質問を受けながら、分子とにおいについて話をした。
- ・以上で予定していた時間となったので、サイエンスカフェを終了する。

- ・時間に余裕のある参加者の方々には、質問や雑談を交えながら、準備していた他のサンプルについても「におい」のテイスティングをしてもらった。
- ・16時過ぎ終了。

コメント、反省点など：

- ・パワーポイントで作成したスライドを使って進めたため、講演会形式になってしまった。カフェ進行中に、もう少し参加者の方々とのコミュニケーションが取ればよかったように思う。
- ・「におい」を扱うテーマであったため、実際に「におい」を体験していただくためには屋外に出る必要があった。今回は比較的暖かく天気も良かったため問題はなかったが、雨天や寒いときには今回のような「におい」のテイスティングは難しかったかもしれない。
- ・今回、準備していた内容は一般（大人）の参加者を想定していた。ところが、家族でおいでいただいた方々はいずれも小学校低学年（2，3年生）のお子様と参加されており、お子様に内容をうまく伝えることができなかったように思う。前回のときにも感じたが、対象を絞った方が良いのかもしれない。
- ・アンケートを見る限り、大方の参加者については、テーマの設定、話の内容、進行について、好意的にとらえていただいたようです。

3月14日「少しの違いで大違い！分子の構造と性質の不思議な関係」

理学研究科：松本 幸三

今回のサイエンスカフェは年齢制限なしで三人参加予定の小学生のお子さんのうちの一人が一人で参加予定（結局お見えになりませんでした）でしたので助っ人として研究室の大学院生を一人連れていきました。

初めにぼくの自己紹介を簡単にさせていただいた後、参加者の皆様に簡単に自己紹介していただきました。参加者の方は経歴も様々で科学への理解度も様々でした。サイエンスカフェに参加した理由は大きく分けて次の二通りがあるようでした。

（１）自然科学に長い間携わって来た方で、基礎的な科学（化学）もよく御存知な方が、さらに科学に対する理解を深めるためにサイエンスカフェに参加した。

（２）自然科学に触れる機会はいまだになかった方で、漠然と科学には興味がある方が、科学に親しむきっかけをつかむためにサイエンスカフェに参加した。

御参加いただいた方の中には、ぼくがコーディネータを務めさせていただくのがおこがましいくらい科学に精通した方もいらっしゃるようでした。その一方で、科学に対してそれほど詳しくない方もいらっしゃったようでしたので、両方を満足させるのはかなり難しいと感じました。ぼくの（勝手な）想像では、サイエンスカフェの参加者として（２）のような方（お子さんも含めて）を想定していました。科学に対して詳しい知識をお持ちの方にとっては少し退屈ではなかったかと思います。

年齢制限ももちろん必要ですが、内容の難易度も御案内してもいいのではないかと思います。

参加者の皆様の御紹介の後、光の話を少しして、簡易分光器の体験をしていただきました。太陽や蛍光灯の光が七色の光の混合物であることを説明した後、シュウ酸エステルの化学発光の実験（分子構造が変わると発光の色が変わる）をしましたが、僕の不手際でうまく演示する事ができませんでした。（この件に関しては大変反省しております）その後、染料（インジゴ）の話をして、分子構造が変わると色が変わる事を実物を見せながら説明しました。

このあたりで８０分程かかりましたので、最後に「科学するということはどういうことか」について僕の考えをお話して一応の終了という事にさせていただきました。

ぼくがお話させていただいている間にもいろいろな方々から質問やコメントをいただき、その点では大変よかったと思いました。一応の終了とさせていただいた後も、用事がお有りだったお一人を除いて全員が残って下さったので、拙い話ではあったとは思いますが、失敗ではなかったのかなと思いました。

その後、味とにおいについて、実際に甘味料やいいにおいがする分子を実際に体験していただきました。味覚・嗅覚に関して簡単に説明させていただいて４時頃にお開きとさせていただきました。簡易分光器はお子さんの参加者にお土産として差し上げました。余った簡易分光器は他の参加者の方でご希望の方に差し上げました。

アンケートを拝見しましたが、やさしすぎると指摘された方もいる一方、難しいとご回答された方もいて、やはり難しいと感じました。参加されていた方の中に、大阪大学の職員の方が子供の付き添いで来ておられて、たぶんその方だと思うのですが、「社会科学と自然科学は似ていると感じた」とご回答いただいたのがうれしかったです。ただ、「こんなサイエンスカフェは初めて」とご回答された方がいらっしゃって、ぼくはサイエンスカフェがどういうものか理解できていないのかとも思いました。

３月２１日「星の彼方へ」

理学研究科：藤田 裕

星の彼方へ

「サイエンスカフェは雑談会である」という認識で臨みました。

まず参加者に発言することに慣れていただくよう、簡単に自己紹介をしていただきました。そのあと話の取り掛かりになるように、宇宙旅行ができるパソコンソフトで天体を巡りつつ宇宙の果てまで旅をしました。その後は参加者とひたすら雑談です。パワーポイントの資料（これまでの講演会の使いまわし）は辞書的に使い、普通の講演会のように最初からめくることはしませんでした。

テーマは宇宙の始まり、系外惑星、星の一生、天文学者になる方法など、行き当たりばったりでしたが、大変盛り上がりました。休憩するまもなく、あっという間に時間切れとなりました。

高校生以上という制限をかけていたので、議論は深まりやすかったと思います。これまでのサイエンスカフェを見ている横田さんが、「面白かった」と言ってくださったので、ほっとしました。

4月4日「ホタルの光のひみつ」

総合学術博物館：豊田 二郎

実施日：2009年4月4日

テーマ：ホタルの光のひみつ

内容：

最初の20分程度で、ホタルが光るときに何が光っているのか、またルミノール反応のしくみについて、かなり大胆なたとえ話を用いて Keynote にて説明しました。2008年ノーベル化学賞関連の研究（オワンクラゲの発光物質であるイクオリンと緑色蛍光タンパク質）についても関連トピックスとして紹介しました。実験内容については、レジメを配布しました。

説明の後、薬品配布のための休憩をとりました。実験を行う上での注意事項について説明したのち、参加者各人に実際に実験を行っていただきました。

実験1) ホタルの光のひみつ

試験管のホタルルシフェラーゼ水溶液と、ルシフェリン・ATP 水溶液を混ぜ合わせ、発光を体験していただきました。また発光している試験管を氷で冷却したり、熱湯に入れたりして、酵素反応と温度の関係についても体験していただきました。

実験2) ルミノール反応で犯罪捜査？

試験管のルミノール・過酸化水素水溶液と、ヘキサシアノ鉄(III)酸カリウム水溶液を混ぜ合わせ、化学発光を体験していただきました。また、ろ紙にヘモグロビン水溶液でメッセージや絵を筆で描いてもらい、そのろ紙をルミノール・過酸化水素水溶液の入ったシャーレに入れて、ヘモグロビン水溶液で描いた文字等が発光する様子を体験しました。

感想・反省：

かなりの欠席者が出ることを見込んで9組22人を当選としましたが、8組20名の参加でした（他に飛び入り1名と、ビデオ撮影要員）。

発光を見るためには、部屋をかなり暗くする必要があります、すべての窓と入り口に遮光シートを設置しました。事前に十分準備をしたつもりでしたが、遮光シートを張ったり、試薬・器具の搬入に予想以上の時間がかかってしまい、13:30からの準備では間に合わず、開始を10分遅らせて2:10としました。ドリンクとクッキーは、最初の説明と試薬配布の休憩の間に飲食していただくようお願いしましたので、かなり慌ただしかったです。

実験は、全員に保護メガネと保護手袋を装着してもらって行ったので、カフェの雰囲気とは、かなりかけ離れてしまいました。また、テーブルの上に実験器具を置きましたが、狭くてウォーターバスまで設置することができなかったため、実験の際には、私がウォーターバスを持ってテーブルを回りました。熱湯を使った実験ですので、各テーブルにウォーターバスを設置するより、結果的に安全だったと思います。会場が狭いのは最初からわかっていましたが、遮光シートと実験器具のせいで余計に狭く感じました。また、会場の照明のON/OFFを会場内でコントロールできないので、液晶プロジェクターのON/OFFで明るさをコントロールしました。

体験実験そのものは、非常に興味をもって参加してもらえたと感じました。特に子供たちは、目を輝かせて興味を持ってくれていたようでした。実際、アンケートでも、かなり好評でした。

4月11日「医療の歴史@文系」

総合学術博物館：廣川 和花

日時は4月11日、よいお天気でした。12名申し込みで10名参加。

テーマは「医療の歴史@文系」と漠然としたタイトルをつけていたので、直前まで何の話をするか決めていませんでした。

自己紹介をしていただいたところ、常連さんが多く、数回参加したことのある方+初

めての方数名、ということでした。

導入は、「医学史」「医療史」「疾病史」とは何かという話を少ししてから、プロジェクタを使って、付属病院石橋分院時代の修学館の写真をお見せしました。それから最近の芸能人の肺結核感染パニックを導入に、有名な疾病史上のエピソード「チフスのメアリー」の話をしました。途中途中で自然に発言があり、井戸端会議的になったので、これはこれでいいかなと思い、続きに用意していた SARS や鳥インフルの話は端折りしました。

今回テーブルを中央にくっつけてしまってアイランドにしたところ、講義調にならずお話がしやすかったようです。人数が多いと、難しいかも知れませんが。「医療の歴史って、もっと人間が如何に病を克服してきたか（種痘とか？）というヒロイックな話かと思った」というご意見もいただきましたが、本質を突いた意見も多くいただきました。歴史学はもっと未来への展望を語らないと！！と励ましを受けたような気がします。



3.4 夏の小学生科学体験教室

主催：大阪大学総合学術博物館、とよなかサイエンスネット実行委員会

時期：平成 20 年 8 月 25 日～28 日

近年、理科離れが指摘されている子どもたちに理科に対する興味や関心を持ってもらうために大阪大学総合学術博物館と豊中市とで連携し、「夏の小学生科学体験教室」を開催した。昨年度と同じく自由応募制(小学校 5、6 年生対象)という形をとり、4 人の講師が実験、実演を交えた体験型理科授業を行った。当日は子ども達の元気な声がとびかい、授業後のアンケートも好評だった(当日の出席者数は延べ 102 名)。



「手作り分光器で光を分けてみよう。」



「氷が燃える？ガスハイドレートに触ってみよう」



「氷の中に雪の模様が見える！チンダル像の観察」



「豊中の村々の歴史をしらべてみよう」

「夏の小学生科学体験教室」授業内容

8月25日

タイトル：「氷が燃える？ ガスハイドレートを触ってみよう」

講師：菅原 武 助教（大学院基礎工学研究科）

参加人数：27人

概要：氷のように見えるガスハイドレートに手で触れたり火をつけたりして、水とガスから出来ている不思議な氷？！を体験しよう。

8月26日

タイトル：「手作り分光器で光を分けてみよう。」

講師：上田 貴洋 准教授（総合学術博物館）

参加人数：28人

概要：小さな箱の中に虹を作ろう！ 簡単な道具を使って自分だけの分光器（光を分ける道具）を作ります。「手作り分光器」で色々な光を分けてみよう。

8月27日

タイトル：「氷の中に雪の模様が見える！チンダル像の観察」

講師：谷 篤史 助教（大学院理学研究科）

参加人数：27人

概要：きれいな氷に強い光を当てると氷の中に雪の模様（チンダル像）をみることができます。実際にチンダル像をつくって観察し、その正体について考えましょう。

8月28日

タイトル：「豊中の村々の歴史をしらべてみよう」

講師：廣川 和花 助教（総合学術博物館）

参加人数：20人

概要：かつて待兼山周辺にあった「桜井谷」（現在の刀根山～北緑丘～緑丘～上野東境界）という村々が、どのようにして現在の姿になったのか、昔の地図や絵図などを見ながら調べてみましょう。

3.5 専任教員活動報告

平成20年度教員実績表(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

職名・氏名 准教授・高橋 京子

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
薬学研究科博士課程前期	薬用資源学
共通教育基礎セミナー	博物館体験コース（分担）

学生指導

学生数（留学生含む）	留学生数	共同・分担した指導教官人数
6 名	0 名	0 名

学位論文審査等

学位申請者および論文名	主査・副査の別
Taraxacum 属生薬の品質評価に関する基盤研究：メタボロミクスの応用（修士論文）	主査

学外での教育活動（集中講義等）

授業科目名	機関名	期間
健康福祉学科講義・漢方薬入門Ⅰ、Ⅱ	兵庫県阪神シニアカレッジ	2008 年 6・10 月

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
Tool from traditional medicines is useful for health-medication: Bezoar Bovis and taurine.	Takahashi K, Azuma Y, Kobayashi S, Azuma J, Takahashi K, Schaffer SW, Hattori M, Namba T.	Adv Exp Med Biol,	643: 95-103	2009
Beneficial effect of taurine treatment against doxorubicin-induced cardiotoxicity in mice.	Ito T, Muraoka S, Takahashi K, Fujio Y, Schaffer SW, Azuma J.	Adv Exp Med Biol,	643: 65-74	2009

Curcuma drugs and curcumin regulate the expression and function of P-gp in Caco-2 cells in completely opposite ways.	Hou XL, Takahashi K, Tanaka K, Tougou K, Qiu F, Komatsu K, Takahashi K, Azuma J.	<i>Int J Pharm.</i>	358; 224-229	2008
漢方方剤の実践的応用 併用療法に役立つ薬物動態学的相互作用情報の重要性	高橋京子, 侯曉瓏, 高橋幸一	日本薬理学雑誌	132, 270-275	2008

著書

著書名	著者名	出版社	頁数	発行年月
キャンパスに咲く花、阪大豊中編	福井希一・栗原佐智子監修 (高橋京子分担)	阪大出版会	pp. 15 他 27 頁	2009
薬学分析科学の最前線「メスバウアー分光法の医薬品評価への応用」		じほう	pp18-19	2009

その他の執筆活動（総説、評論、辞典項目、各種記事など）

タイトル等	報道機関名	報道年月
大阪大学総合学術博物館 第 3 回特別展：「21 世紀の薬箱 新しい医療文化の形成」	大学博物館等協議会ニューズレター	未定

学術講演会など

講演タイトル	場所	年月日	備考
平成 20 年度大阪大学大学院薬学研究科公開講座『クスリと医療』和漢薬の多様性：品質と作用	大阪大学コンベンションセンター	11/29 (2008)	公開講座テキスト pp1-11

研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
メスバウアー効果測定による生薬中の鉄の状態と薬効の関係解析	第 45 回アイソトープ・放射線研究発表会 (東京)	7/2～4、2008	口頭発表
精油成分が春ウコンの CYP3A4 阻害作用に重要な役割を果たす	第 23 回日本薬剤学会 (札幌)	5/20～22 2008、	口頭発表
Gender-specific approaches to the alternative medicine: The benefits of enterolactone on cardiac cells,	The 7 th International Symposium on Natural Medicine and Microflora, Toyama, Japan	8/2-4, 2008	ポスター発表
Taraxacum 属生薬の品質評価：メタボロミクス応用	第 25 回和漢医薬学会、(大阪)	8/30-31、2008	ポスター発表

牛黄の総合的有用性の評価：心臓由来細胞を用いた解析	第 25 回和漢医薬学会、(大阪)	8/30-31、2008	ポスター発表
生薬中の鉄の状態解析に基づく薬効評価	第 36 回構造活性相関シンポジウム (神戸)	11/2～3、2008、	口頭発表
ヨーロッパ市場の <i>Taraxacum</i> 属由来生薬と近縁植物に由来する異物同名品の鑑別法の確立	第 129 回日本薬学会、(京都)	3/26～28、2009	口頭発表
漢方製剤による薬物相互作用～CYP および P-gp に対する影響～	第 129 回日本薬学会、(京都)	3/26～28、2009	ポスター発表

報道

タイトル	場所	年月日	備考
NHK ぐるっと関西プラス「新・大人の遠足」 関西いろいろ偉人伝 その3「緒方洪庵」第3回特別展「洪庵の薬箱」紹介	大阪大学総合学術博物館	11/29 (2008)	案内：高橋京子

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期間	継続/新規
関西圏の人間文化についての総合的研究 「関西発：くすりの町・大坂～和漢薬と新約のハーモナリゼーション」	高橋幸一（武庫川女大）	2004～2008	継続

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
第 7 回サイエンスカフェ待兼山：高橋京子、 「クスリに好奇心：生薬なるほど物語」	大阪大学総合学術博物館・待兼山修学館	サイエンスカフェ待兼山	6/21、2008
ミュージアムレクチャー：高橋京子・高橋直子、 洪庵の薬箱に秘められた最先端の医療～ 医歯薬系学生のための特別レッスン～」	大阪大学総合学術博物館・待兼山修学館	大阪大学総合学術博物館・薬学研究科	11/12、12/13 (2008)
クスリと医療「和漢薬の多様性：品質と作用」	大阪大学コンベンションセンター	平成 20 年度大阪大学大学院薬学研究科公開講座	11/29 (2008)
大阪大学総合学術博物館 第 3 回特別展：「21 世紀の薬箱 新しい医療文化の形成」	大阪大学総合学術博物館・待兼山修学館	大阪大学総合学術博物館・薬学研究科	10/31～12/20 (2008)

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

委員会名	役職	期間	継続/新規
日本薬理学会	学術評議員		継続

職名・氏名 教授・江口太郎

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
1 学期・文系学部・1 年	共通教育基礎教育科目・化学の考え方
2 学期・理学部・1 年	共通教育専門基礎教育科目・基礎化学 2
1 学期・理学研究科・博士前期課程	核磁気共鳴分光学(I) (共担)
1 学期・理学研究科・博士前期課程	核磁気共鳴分光学半期セミナーI (共担)
2 学期・理学研究科・博士前期課程	核磁気共鳴分光学半期セミナーI (共担)
1 学期・理学研究科・博士前期課程	核磁気共鳴分光学半期セミナーII (共担)
2 学期・理学研究科・博士前期課程	核磁気共鳴分光学半期セミナーII (共担)
1, 2 学期・理学研究科・博士後期課程	核磁気共鳴分光学特別セミナー

学生指導

学生数（留学生含む）	留学生数	共同・分担した指導教官人数
6		2

学位論文審査等

学位申請者および論文名	主査・副査の別
大道弘明（理学研究科化学専攻）“疎水性ナノ空間に吸着された分子のダイナミクスと局所構造の固体NMRによる研究”	主査

学外での教育活動（集中講義等）

授業科目名	機関名	期間
科学技術論	兵庫県立大学理学部	2008. 9. 3-9. 4

【研究活動】

学術論文（上田との共著）

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
“Specific molecular motion of adamantane induced by hydrophobic nano-slits in ACF as studied using solid state ^1H , ^2H and ^{13}C NMR”	Hiroaki Omichi, Takahiro Ueda,* Yu Chen, Keisuke Miyakubo and Taro Eguchi	<i>Mol. Cryst. Liquid Cryst.</i>	490 , 91-105	2008 年 9 月

¹³ C CP/MAS NMR study of accommodation of various organic molecules in (±)-[Co(en) ₃]Cl ₃ ionic crystal and their local structure”	Takahiro Ueda,* Naomi Nagaoka, Taro Eguchi, and Nobuo Nakamura	<i>Micropor. Mesopor. Mater.</i>	117, 185-192	2009 年 1 月
「高圧 ¹²⁹ Xe NMR でみるナノ細孔に吸着したキセノンの分子間相互作用と局所構造」	上田貴洋、尾身洋典、江口太郎	ゼオライト	25(3), 109-116	2008 年 9 月
「IRMOF-1([Zn ₄ O(BDC) ₃] _n)に吸着したゲスト分子が示す相転移現象と分子運動」	河村好紀、上田貴洋、宮久保圭祐、江口太郎	大阪大学低温センター 研究報告書 (平成 19 年度)	pp. 25-28	2008 年 12 月

(江口)

Intercalation of Biogenic Amines into Layered Zirconium Phosphates	Aki Hayashi, Yuri Yoshikawa, Nami Ryu, Hirokazu Nakayama, Mitsutomo Tsubako, and Taro Eguchi	<i>Phosphorous Research Bulletin</i>	22, 48-53	2008 年
--	--	--------------------------------------	-----------	--------

研究（学会）発表など（上田と連名）

タイトル	場所	年月日	備考
“Thermal Anomaly and Molecular Motion of Organic Molecules Confined in the Nanocavity of Metal-Organic Frameworks IRMOF-1”,	International symposium of NANOPOROUS MATERIALS - V (NANO-5), Vancouver, UBC, Canada	2008 年 5 月 25 日－28 日	連名
“One-dimensional hydrogen bonding formation of water in organic zeolite and their proton conductivity”,	International symposium of NANOPOROUS MATERIALS - V (NANO-5), Vancouver, UBC, Canada	2008 年 5 月 25 日－28 日	連名
“Thermal Anomaly and Molecular Motion of Organic Molecules Confined in the Nanocavity of Metal-Organic Frameworks IRMOF-1”,	Symposium on Future Challenges for Carbon-Based Nanoporous Materials, Graduate School of Sci. and Tech. Chiba University	2008 年 7 月 11 日－12 日	連名
“Molecular Dynamics of Adsorbed Molecules in ACF Hydrophobic Nanoslits as Studied by Solid-state NMR”	Symposium on Future Challenges for Carbon-Based Nanoporous Materials, Graduate School of Sci. and Tech. Chiba University	2008 年 7 月 11 日－12 日	連名

「テレフタル酸を架橋配位子とする亜鉛錯体 IRMOF-1 に吸着したゲスト分子が示す相転移現象と動的構造」	第 61 回コロイドおよび界面化学討論会、九州大学	2008 年 9 月 7 日 －9 日	連名
「 ^{129}Xe NMR ポロシメトリーによるフェノール樹脂焼成炭の構造解析」	第 2 回分子科学討論会、博多	2008 年 9 月 24 日 －27 日	連名
「IRMOF-1($[\text{Zn}_4\text{O}(\text{BDC})_3]_n$) に吸着した n -デカンが示す相転移現象と分子運動」	第 2 回分子科学討論会、博多	2008 年 9 月 24 日 －27 日	連名
「疎水性ナノチャンネルにおける水分子の一次元水素結合鎖の構築とプロトン伝導」	第 2 回分子科学討論会、博多	2008 年 9 月 24 日 －27 日	連名
「Zeolitic な性質を有するトリスエチレンジアミンコバルト(III)塩化物結晶の気体吸着挙動と吸着分子の物理化学的性質に関する研究」	第 24 回ゼオライト研究発表会、東京	2008 年 11 月 26 日 －27 日	単独
「テレフタル酸を架橋配位子にもつ亜鉛錯体に吸蔵されたゲスト分子の動的挙動の ^1H NMR による研究」	日本化学会第 89 春季年会、千葉	2009 年 3 月 27 日 －30 日	連名
「固体 NMR による FSM-16 のメソ細孔内に生成する不凍水のダイナミクスに関する研究」	日本化学会第 89 春季年会、千葉	2009 年 3 月 27 日 －30 日	連名

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
サイエンスカフェ@待兼山 “土曜の午後はミュージアム” 「携帯電話の電波は体に悪い？」	待兼山修学館	大阪大学総合学術博物館	2008年4月5日
彩都サイエンスカフェ「身のまわりの電波をサイエンスする」	湖中 彩都店	彩都科学技術理解増進プロジェクトチーム	2008年9月6日
おもしろ科学実験「温度で変わるものの性質」	待兼山修学館	千里ライフサイエンス振興財団	2008年11月26日
サイエンスカフェ@待兼山「今日は熱があるようだー温度と熱の話ー」	待兼山修学館	大阪大学総合学術博物館	2009年12月20日

学内の各種委員等

(学内)

- ・博物館運営委員
- ・部局長会議メンバー
- ・豊中地区部局長会議メンバー
- ・大学教育実践センター運営協議会委員
- ・埋蔵文化財調査委員会委員(平成 19 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)
- ・産官学連携問題委員会委員
- ・図書館委員会委員
- ・懷徳堂記念会 学術専門委員 (平成 19 年 7 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)
- ・発明委員会委員

- ・教育研究評議会オブザーバー
- ・大学博物館等協議会メンバー
- ・適塾記念会 幹事・評議員
- ・地区施設マネジメント連絡会メンバー
- ・文書館設置WGメンバー
- ・交通安全対策WG委員（豊中地区部局長会議代表）
- ・大阪大学と大阪市の連携協議会メンバー
- ・社会学連携検討委員会委員（平成19年10月2日～）

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

（学外）

- ・近畿化学協会 理事
- ・近畿化学協会化学技術賞審査委員会 委員
- ・日本化学会 化学だいすきクラブ小委員会委員
- ・啓林館 中学校理科教科書 編集委員
- ・大阪大学生生活協同組合 総代
- ・洪庵全集コア委員会委員
- ・兵庫県立大学非常勤講師（平成20年4月1日～平成21年3月31日）
- ・大阪市立自然史博物館・科学館指定管理予定者選定委員会委員
（平成19年11月2日～平成20年11月1日）
- ・とよなかサイエンスネット実行委員会委員長
（平成20年7月1日～平成21年3月31日）

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
1 学期・工学部電子情報工学科・1 年	共通教育専門基礎教育科目・化学概論
1 学期・医学部医学科/薬学部薬学科・2 年	共通教育専門基礎教育科目・化学実験
2 学期・医学部保健学科/基礎工学部システム工学科・1 年	共通教育専門基礎教育科目・化学実験
1 学期・理学部化学科・1 年	化学入門セミナーI (共担)
1 学期・理学研究科・博士課程前期	核磁気共鳴分光学 (共担)
1 学期・理学研究科・博士課程前期	核磁気共鳴分光学セミナーI (共担)
2 学期・理学研究科・博士課程前期	核磁気共鳴分光学セミナーI (共担)
1 学期・理学研究科・博士課程前期	核磁気共鳴分光学セミナーII (共担)
2 学期・理学研究科・博士課程前期	核磁気共鳴分光学セミナーII (共担)

学位論文審査等

学位申請者および論文名	主査・副査の別
大道弘明（理学研究科化学専攻）“疎水性ナノ空間に吸着された分子のダイナミクスと局所構造の固体NMRによる研究”	副査

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
“Specific molecular motion of adamantane induced by hydrophobic nano-slits in ACF as studied using solid state ^1H , ^2H and ^{13}C NMR”	Hiroaki Omichi, Takahiro Ueda,* Yu Chen, Keisuke Miyakubo and Taro Eguchi	<i>Mol. Cryst. Liquid Cryst.</i>	490 , 91-105	2008 年 9 月
^{13}C CP/MAS NMR study of accommodation of various organic molecules in $(\pm)\text{-}[\text{Co}(\text{en})_3]\text{Cl}_3$ ionic crystal and their local structure”	Takahiro Ueda,* Naomi Nagaoka, Taro Eguchi, and Nobuo Nakamura	<i>Micropor. Mesopor. Mater.</i>	117 , 185-192	2009 年 1 月
「高圧 ^{129}Xe NMR でみるナノ細孔に吸着したキセノンの分子間相互作用と局所構造」	上田貴洋、尾身洋典、江口太郎	ゼオライト	25(3), 109-116	2008 年 9 月
「IRMOF-1($[\text{Zn}_4\text{O}(\text{BDC})_3]_n$)に吸着したゲスト分子が示す相転移現象と分子運動」	河村好紀、上田貴洋、宮久保圭祐、江口太郎	大阪大学低温センター研究報告書（平成19年度）	pp. 25-28	2008 年 12 月

著書

著書名	著者名	出版社	頁数	発行年月
“Thermal Anomaly and Molecular Motion of Organic Molecules Confined in the Nanocavity of Metal-Organic Frameworks IRMOF-1”	Takahiro Ueda*, Kenji Kurokawa, Yoshiki Kawamura, Keisuke Miyakubo, Taro Eguchi	<i>In Nanoporous Materials, Proceedings of the 5th International Symposium</i> ; A. Sayari, M. Jaroniec, Eds; World Scientific, Singapore	pp.445-455	2008 年 5 月

学術講演会など

講演タイトル	場所	年月日	備考
「NMR でみるナノ制約分子の動的構造と物性」・岡山大学次世代研究者・異分野研究連携コア育成支援事業・多孔性無機材料の応用利用連携セミナー	岡山大学理学部	2008年6月10日	単独

研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
“Thermal Anomaly and Molecular Motion of Organic Molecules Confined in the Nanocavity of Metal-Organic Frameworks IRMOF-1”,	International symposium of NANOPOROUS MATERIALS - V (NANO-5), Vancouver, UBC, Canada	2008 年 5 月 25 日－28 日	連名
“One-dimensional hydrogen bonding formation of water in organic zeolite and their proton conductivity”,	International symposium of NANOPOROUS MATERIALS - V (NANO-5), Vancouver, UBC, Canada	2008 年 5 月 25 日－28 日	連名
“Thermal Anomaly and Molecular Motion of Organic Molecules Confined in the Nanocavity of Metal-Organic Frameworks IRMOF-1”,	Symposium on Future Challenges for Carbon-Based Nanoporous Materials, Graduate School of Sci. and Tech. Chiba University	2008 年 7 月 11 日－12 日	連名
“Molecular Dynamics of Adsorbed Molecules in ACF Hydrophobic Nanoslits as Studied by Solid-state NMR”	Symposium on Future Challenges for Carbon-Based Nanoporous Materials, Graduate School of Sci. and Tech. Chiba University	2008 年 7 月 11 日－12 日	連名
「テレフタル酸を架橋配位子とする亜鉛錯体 IRMOF-1 に吸着したゲスト分子が示す相転移現象と動的構造」	第 61 回コロイドおよび界面化学討論会、九州大学	2008 年 9 月 7 日－9 日	連名

「 ^{129}Xe NMR ポロシメトリーによるフェノール樹脂焼成炭の構造解析」	第2回分子科学討論会、博多	2008年9月24日－27日	連名
「IRMOF-1($[\text{Zn}_4\text{O}(\text{BDC})_3]_n$)に吸着した n -デカンが示す相転移現象と分子運動」	第2回分子科学討論会、博多	2008年9月24日－27日	連名
「疎水性ナノチャンネルにおける水分子の一次元水素結合鎖の構築とプロトン伝導」	第2回分子科学討論会、博多	2008年9月24日－27日	連名
「Zeolitic な性質を有するトリスエチレンジアミンコバルト(III)塩化物結晶の気体吸着挙動と吸着分子の物理化学的性質に関する研究」	第24回ゼオライト研究発表会、東京	2008年11月26日－27日	単独
「テレフタル酸を架橋配位子にもつ亜鉛錯体に吸蔵されたゲスト分子の動的挙動の ^1H NMRによる研究」	日本化学会第89春季年会、千葉	2009年3月27日－30日	連名
「固体NMRによるFSM-16のメソ細孔内に生成する不凍水のダイナミクスに関する研究」	日本化学会第89春季年会、千葉	2009年3月27日－30日	連名

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
「高圧ガス製造保安責任者・平成20年度乙種機械講習講義」	天満研修センター	高圧ガス保安協会・近畿支部	2008年5月13日
サイエンスカフェ@待兼山 “土曜の午後はミュージアム” (No. 8) 「身の回りのものをつくっているものはなかに？分子の大きさを実感する方法を考えよう！」	待兼山修学館	大阪大学総合学術博物館	2008年7月5日
夏の小学生科学体験教室 講師「手作り分光器で光を分けてみよう。」	待兼山修学館	大阪大学総合学術博物館	2008年8月26日
高校生ボランティア講座・科学体験教室「手作り分光器で光を分けてみよう。」	待兼山修学館	とよなかボランティア活動支援実行委員会	2008年8月26日
「高圧ガス製造保安責任者・平成20年度乙種機械講習講義」	天満研修センター	高圧ガス保安協会・近畿支部	2009年2月4日
サイエンスカフェ@待兼山 (No. 10) 「匂いと臭いーにおいと化学物質ー」	待兼山修学館	大阪大学総合学術博物館	2009年3月7日

学内の各種委員等

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
総合学術博物館湯川記念室委員会委員	2008年10月		新規

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

委員会名	役職	期間	継続/新規
とよなか地域家庭教育協議会	委員	2008年6月～2009年3月	新規
とよなかサイエンスネット実行委員会	委員	2008年7月～	新規

豊中市教育振興計画検討会議市民委員選考委員会	委員	2008年9月	新規
------------------------	----	---------	----

職名・氏名 教授 橋爪節也

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
前期 学部、修士課程	日本美術史演習
前期 博士課程	日本美術史特殊演習
後期 学部、修士課程	日本美術史演習
後期 博士課程	日本美術史特殊演習
後期 学部、修士課程	日本美術史講義
後期 博士課程	日本美術史特殊講義
通年 学部 修士課程 博士課程	日本美術史演習
前期	博物館体験コース

学生指導

学生数（留学生含む）	留学生数	共同・分担した指導教官人数
28名(文学研究科)	0	3

学位論文審査等

学位申請者および論文名 博士論文のみを記す	主査・副査の別
中野久美子「文学の視座からの青木繁における美的仮象の創造—明治期のロマン主義受容の射程—」	副査
福島(城市)真理子「室町水墨画と五山文学—十五世紀後半における周文派と禅林の詩画軸性作システム—」	副査
波江彰彦「近・現代の大阪市におけるごみ排出・管理の時空間変動」	副査

学外での教育活動（集中講義等）

授業科目名	機関名	期間
日本東洋美術史	愛知県立芸術大学	
大阪市立大学公開授業「大阪落語への招待」第9回講師	大阪市立大学	平成20年6月22日

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
「浪花情緒」のモダニズム—紋切り型の大阪論を越えて—	橋爪節也	『美術フォーラム 21』醍醐書房	第17号 特集「大阪画壇は蘇るか」	平成20年5月発行
描かれた堂島—画家は都市になにを読みとるか—	橋爪節也	「大阪の歴史」大阪市史編纂所	第71号 特集 堂島・中之島とその周辺	平成20年8月発行
大阪画壇研究補遺--「北野恒富展」をめぐって	橋爪節也	「待兼山論叢」大阪大学大学院文学研究科	(42) (美学篇)	平成20年12月発行

著書

著書名	著者名	出版社	頁数	発行年月
「没後80年記念 佐伯祐三展—パリで夭逝した天才画家の道—」カタログ	企画編集 橋爪節也、熊田司、菅谷富夫	産経新聞大阪本社	240頁	平成20年9月発行
星も光ぬ ☆ E lucevan le Stelle—プラネタリウム・エイジ なつかしの電気科学館	大阪市立電気科学館70年記念誌『日本の科学館は大阪から』	財団法人大阪化学振興協会	全204頁のうち23～33頁	平成20年12月発行
『浪華郷友録』の聞人と大坂の文人画家の問題—木村兼葭堂を中心として—	中谷伸生編著『東アジアの文人世界と野呂介石』所載	関西大学出版会	全252頁のうち13～20頁	平成21年3月発行

その他の執筆活動（総説、評論、辞典項目、各種記事など）

タイトル等	報道機関名	報道年月
「日本初！博物館を作った大坂商人・なにわの知の巨人 木村兼葭堂」	「知るを楽しむ歴史に好奇心 日本コレクション奇譚」 テキスト NHK 出版	平成 20 年 4 月発行
浪花八百八橋 10 戎橋 銘板に古き川柳 散りばめて	産経新聞夕刊	平成 20 年 4 月 23 日
阪大博物館へいらっしゃ〜い	朝日 21 関西スクエア 朝日新聞社	平成 20 年 5 月号
浪花八百八橋 14 端建蔵橋 近代都市 美、昭和初期に活写	産経新聞夕刊	平成 20 年 5 月 29 日
「コンテナくんの夢想」谷川夏樹論	谷川夏樹作品集『TRANSPORT』 所収	平成 20 年 6 月発行
浪花八百八橋 18 十三大橋 日本家屋 連想させるアーチ	産経新聞夕刊	平成 20 年 7 月 3 日
解説「『戎橋筋案内』を行く」	「大阪春秋」第 131 号特集ミ ナミ	平成 20 年 7 月
「大阪名物くいだおれ」閉店緊急企画 座談会 道頓堀と立体看板 田野 登 ／橋爪節也／船越幹央／古川武志	「大阪春秋」第 131 号特集ミ ナミ	平成 20 年 7 月
浪花八百八橋 22 幽霊橋 出た 難波の 裏にヒュードロロ	産経新聞夕刊	平成 20 年 8 月 7 日
浪花八百八橋 26 難波土橋 落語の舞台 鋼橋でも土橋	産経新聞夕刊	平成 20 年 9 月 4 日
浪花八百八橋 29 肥後橋 佐伯が見た大 阪の“巴里”	産経新聞夕刊	平成 20 年 10 月 9 日
解説「"De Stadt OSACCO"—《大坂図》 (モンタヌス日誌) より」	「大阪春秋」第 132 号特集水 の都おおさか	平成 20 年 10 月
食満南北を思う その一 道頓堀の句碑 のこと	「やそしま」第二号財団法人 上方文化芸能協会	平成 20 年 11 月 1 日
浪花八百八橋 34 道頓堀橋 響き渡る地 下鉄工事の槌音	産経新聞夕刊	平成 20 年 11 月 20 日
「大阪古書文化 目録が導く濃密な世 界」	産経新聞	平成 20 年 12 月 4 日 文化欄
浪花八百八橋 38 信濃橋 名画の雪のメ インストリート	産経新聞夕刊	平成 20 年 12 月 18 日
「大坂幕末の書画会—再び狂詩集『浪華 酔咏』より」	「新菜箸本撰」第 6 号・風雅 の戯法	平成 20 年 12 月

「北野恒富の足跡を訪ねて」	山陽新聞（インタビュー取材・岩崎充宏記者）	平成 21 年 1 月 1 日
「碁盤目になった“迷宮”―新しい「島之内」イメージを求めて―」	「大阪春秋」第 133 号特集 心齋橋・島之内	平成 21 年 1 月
「対談島之内今昔 変貌著しいまちの記憶を語り継ぐ」肥田皓三／橋爪節也／（司会）古川武志	「大阪春秋」第 133 号特集 心齋橋・島之内	平成 21 年 1 月
浪花八百八橋 42 高津原橋 よみがえる映画館の記憶	産経新聞夕刊	平成 21 年 2 月 5 日
「こんにちは研究室大阪大学 奥深い浪花文化伝える知のハンター」	産経新聞（インタビュー取材・丸橋茂幸記者）	平成 21 年 2 月 26 日
浪花八百八橋 46 秋月橋 “大大阪”の迎賓館 短い生涯	産経新聞夕刊	平成 21 年 3 月 19 日
まほろばのひかり「柳里恭一士大夫であろうとした男」	知的旅情報誌「ひととき」株式会社ウエッジ。橋爪節也談、聞き手・安藤寿和子	平成 21 年 3 月
「シンポジウム 大阪を中心とした郷土建築座談会」	『共同研究成果報告書 3 大阪歴史博物館 3－20 頁	平成 21 年 3 月
「阿倍野区に住んだ近代の画家たち」講演記録	「阿倍野区歴史講座～あべのをはじめとした大阪の歴史を飾った人物史～」	平成 21 年 3 月発行

学術講演会など

講演タイトル	場所	年月日	備考
『大大阪』時代の文化芸術と現代 ～美術を中心として～	大阪大学中之島センター	平成 20 年 8 月 25 日	第 40 回大阪大学中之島講座
「未来に引き継がれる“まち”の記憶」パネリスト	大阪大学中之島センター	平成 20 年 10 月 16 日	第 1 回大阪大学 21 世紀懷徳堂シンポジウム
「イメージとしての”大大阪”ーモダン都市はいかに語られようとしたかー」	大阪大学中之島センター	平成 20 年 11 月 26 日	適塾記念講演会
シンポジウム「大阪の近代建築・戦後建築の魅力をさぐる」パネリスト	大阪歴史博物館	平成 21 年 3 月 8 日	

研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
地域の公立博物館・美術館と大学博物館 一元公立美術館学芸員から見てー	大阪大学	平成 20 年 6 月 5 日	全国大学博物館等協議会・博物科学会 記念講演

シンポジウム 『イマジュリィ』道楽一収 集・交換・生産をめぐって」パネリスト	大津市歴史博物館	平成 21 年 3 月 7 日	大正イマジュリ ィ学会全国大会
---	----------	--------------------	--------------------

報道

タイトル	場所	年月日	備考
「日本コレクション奇譚・なにわの知の巨人 木村兼葭堂」	NHK教育テレビ 「知るを楽しむ歴史に好奇心」	平成 20 年 5 月 22 日放送	テレビ 出演
「なにわルネッサンス おとなの文化村」	エフエム大阪	平成20年7月 21日放送	ラジオ 出演
「なにわを歩く『平成浪花百景』」	ベイ・コミュニ ケーションケー ブルテレビ	平成 20 年 9 月 19 日	テレビ 出演
「新日曜美術館 佐伯祐三 捨て身の美しさ」 (コメント)	NHK教育テレビ	平成 20 年 12 月 21 日放送	テレビ 出演
「知るを楽しむ歴史に好奇心」「日本コレク ション奇譚・なにわの知の巨人 木村兼葭 堂」	NHK教育テレビ	平成 21 年 3 月 再放送	テレビ 出演・再 放送

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
近世大坂画壇を大いに語ろう 座談 会(村越英明・橋爪節也・中谷伸生・ 明尾圭造)	芦屋市立美術博物館日本美 術史セミナー「近世大坂画 壇 文人の愉しみ」	芦屋市立美術博物 館	平成 20 年 4 月 12 日
「大阪今昔 歴史のささやき 大阪再発見のつどい」	天満天神繁昌亭	上方落語協会、 産経新聞社	平成 20 年 4 月 26 日
講演「文人＝聞人～木村兼葭堂とそ の周辺」	芦屋市立美術博物館日本美 術史セミナー「近世大坂画 壇 文人の愉しみ」	芦屋市立美術博物 館	平成20年8 月9日
「没後 80 年記念佐伯祐三展」記念 講演会「佐伯祐三とその芸術」	大阪市立美術館	大阪市立美術館	9 月 13 日
「没後 80 年記念佐伯祐三展」記念 講演会佐伯祐三とその芸術	高松市美術館	高松市美術館	10月25日
地域協働学習プログラム・阿倍野 区歴史講座「阿倍野区に住んだ近 代の画家たち」	阿倍野市民学習センター	阿倍野市民学習 センター	平成 20 年 10 月 31 日

「＜我が町周防町＞再発見」講演 と見学会	長崎堂ホール	ヨーロッパ村周 防町通り商店 会、後援大阪市	平成 20 年 11 月 2 日
絵画が語るモダン大阪～20 世紀の 都市(まち)の輝き～	大阪府立文化情報センター さいかくホール	「大阪府立文化情報 センター20 世紀・大 阪の風景・美術・文 化」展関連企画	平成 20 年 12 月 20 日
大坂画壇展望（座談会 橋爪節也・ 中谷伸生・明尾圭造）	芦屋市立美術博物館日本美 術史セミナー「近世大坂画 壇 文人の愉しみ」	芦屋市立美術博物 館	平成21年1 月10日
サイエンスカフェ「アートをさらに アートらしくーこうして作られる美 術展覧会ー」	大阪大学総合学術博物館	大阪大学総合学術 博物館	平成 21 年 2 月 28 日

学内の各種委員等

委員会あるいは WG 名	就任年月	退任年月	継続/新規
適塾管理運営委員会			新規
中之島講座運営委員会			新規
21 世紀懷徳堂企画委員会			新規
懷徳堂記念会創立 100 周年記念事業実行 委員会			新規
中之島地区の将来構想に関する 検討ワーキング委員	平成 20 年 10 月		新規
図書館委員会			新規
総合学術博物館運営委員会			新規
総合学術博物館企画委員会			新規

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

委員会名	役職	期間	継続/新 規
吹田市文化振興審議会	委員		前任者 の続
美術史学会	西支部常任委員		新規
美術史学会	美術館博物館問 題担当委員		新規
「中央区制 20 周年記念 中央区マスコッ トキャラクターデザイン」審査委員会 大 阪市中央区役所	審査委員	平成 20 年 7 月 28 日 審査当日	新規

筑波大学プレ戦略イニシアティブ分野別評価委員会	委員	平成 20 年 7 月 15 日 ～平成 21 年 3 月 31 日	新規
大阪府生活文化部大阪府立現代美術センター指定管理候補者選定委員会	大阪府立現代美術センター指定管理候補者選定委員会委員	平成21年1月15日、 1月29日	新規
大阪歴史博物館資料評価委員会	大阪歴史博物館資料評価委員	平成21年3月17日	新規

職名・氏名 助教 廣川和花

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
1 学期・全学部・1 年	平和の問題を考える
1 学期・全学部・1 年	博物館体験コース
2 学期・文学研究科・大学院生	歴史学のフロンティア

学生指導

学生数（留学生含む）	留学生数	共同・分担した指導教官人数
0 名	0 名	0 名

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
戦前・戦時期大阪におけるハンセン病者の処遇－大阪皮膚病研究所と大阪のハンセン病問題－	廣川和花	大阪の歴史	72 号・83 ～109 頁	2009 年 1 月

その他の執筆活動（総説、評論、辞典項目、各種記事など）

タイトル等	報道機関名	報道年月
近代日本のハンセン病問題と地域（平成十九年度博士論文（課程）要旨）	大阪大学大学院文学研究科 紀要第 49 巻	2009 年 3 月

学術講演会など

講演タイトル	場所	年月日	備考
「共生」の事例としての草津・湯之沢部落（ハンセン病市民学会シンポジウム（パネル 2 共生の場としての療養所の“社会化”を実現するために）	日本教育会館一橋ホール	2008 年 5 月 10 日	

研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
書評 海原亮『近世医療の社会史』	大阪市立大学	2008 年 12 月 16 日	大阪歴史 科学協議 会合同部 会
書評：川越修・友部謙一編著『生命という リスク 20 世紀社会の再生産戦略』	同志社大学	2009 年 3 月 1 日	医療・社 会・環境研 究会

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期間	継続/新規
科学研究費補助金(若手研究(スタートアップ)) 「近代日本の医学・医療の国際的位置と地域に おけるその政策的展開」	廣川和花	2008-2009	新規

【データベースの構築や入力件数など】

題 目	件数	期間	備考
文学研究科部内共同研究「デジタルアーカイ ブ化による大阪大学文学部視覚史料の基礎 研究」	300	2008 年度	

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
古文書でたどる待兼山	待兼山修学館	総合学術博 物館	2008 年 4 月 11 日

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

委員会名	役職	期間	継続/新規
大阪歴史科学協議会	編集委員長	2008 年 6 月～	新規

【受賞・顕彰】

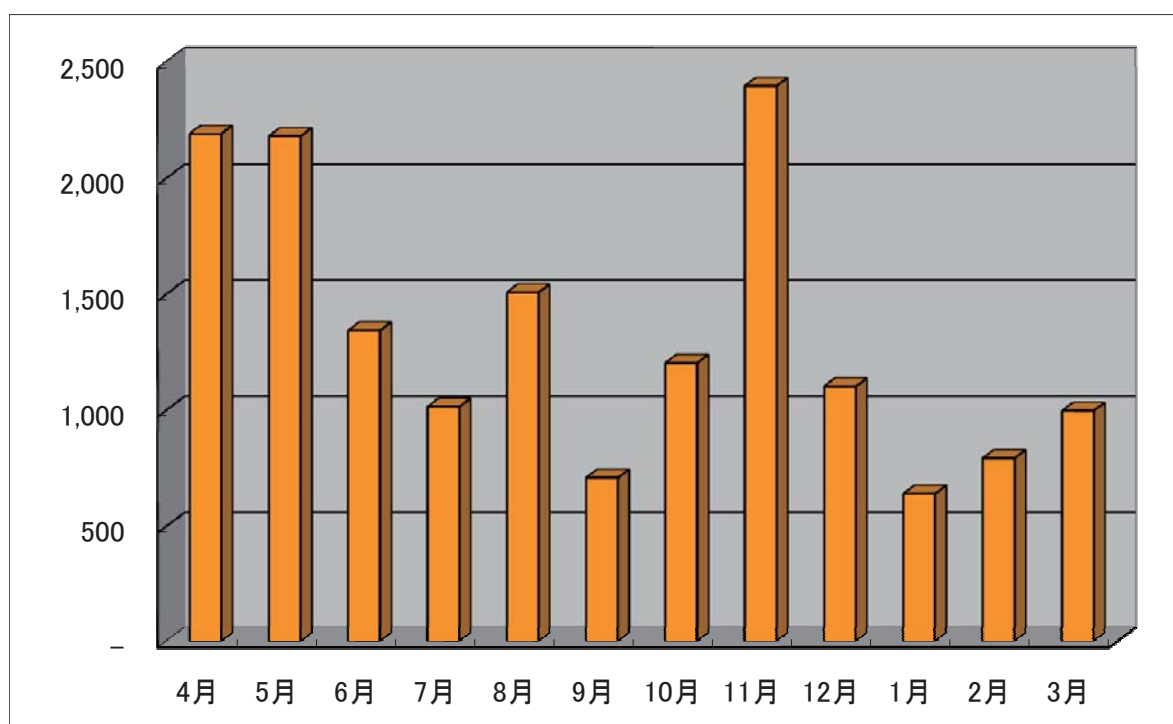
受賞・顕彰	主催団体名	受賞年月	備考
国立大学法人大阪大学教育・研究功績賞	大阪大学	2009 年 2 月	

3.6 常設展示来館者数及びアンケート集計結果

3.6.1 常設展示来館者数

	来館者数
4月	2,192
5月	2,182
6月	1,345
7月	1,016
8月	1,509
9月	711
10月	1,205
11月	2,398
12月	1,104
1月	642
2月	795
3月	999
計	16,098

(人)

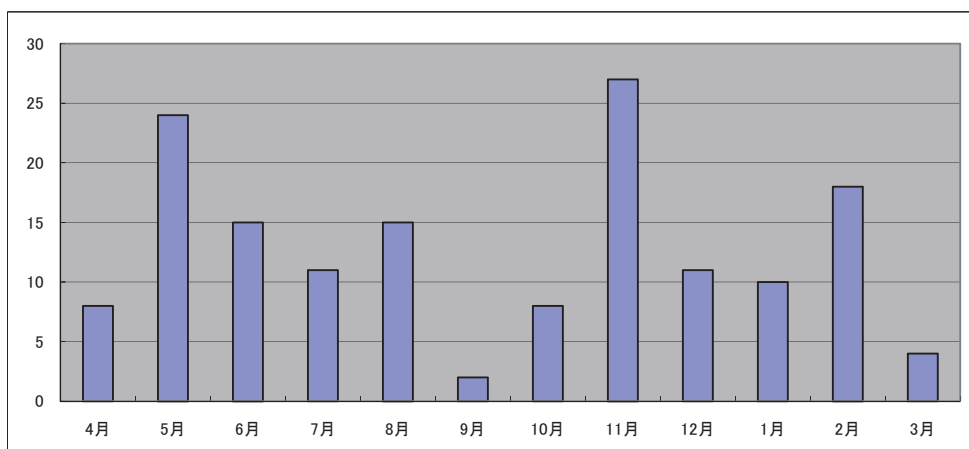


3.6.2 アンケート集計結果

■アンケート回答総数

4月	8
5月	24
6月	15
7月	11
8月	15
9月	2
10月	8
11月	27
12月	11
1月	10
2月	18
3月	4
合計	153

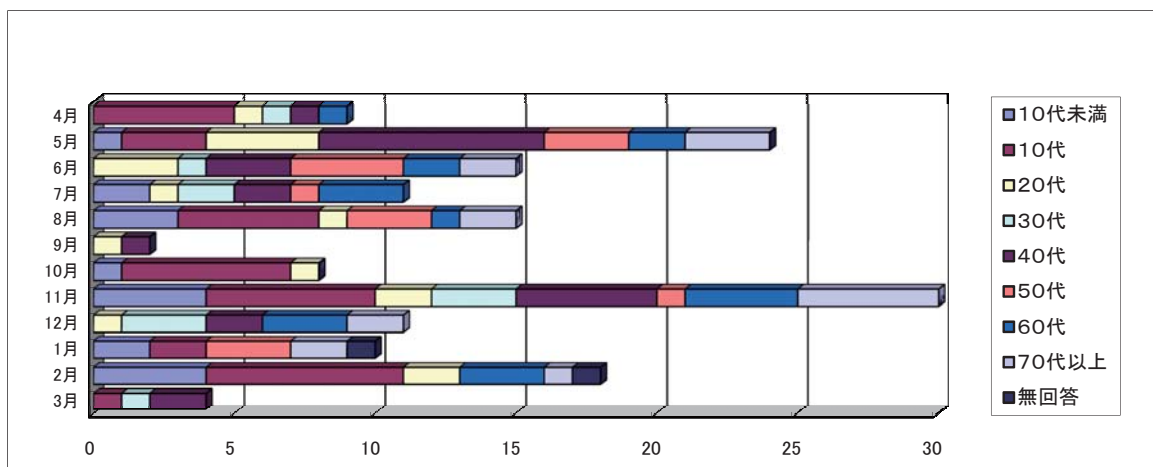
(人)



■来館者年齢分布

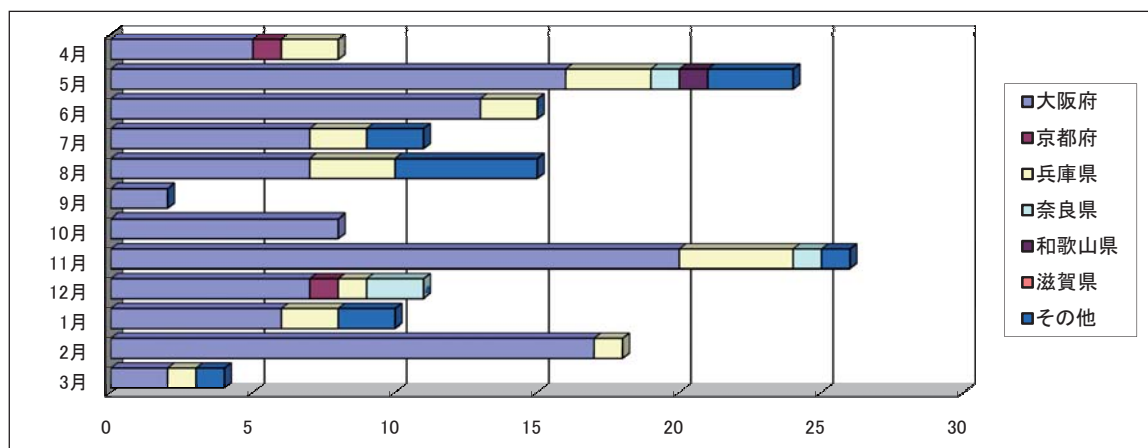
	10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
4月	0	5	1	1	1	0	1	0	0
5月	1	3	4	0	8	3	2	3	0
6月	0	0	3	1	3	4	2	2	0
7月	2	0	1	2	2	1	3	0	0
8月	3	5	1	0	0	3	1	2	0
9月	0	0	1	0	1	0	0	0	0
10月	1	6	1	0	0	0	0	0	0
11月	4	6	2	3	5	1	4	5	0
12月	0	0	1	3	2	0	3	2	0
1月	2	2	0	0	0	3	0	2	1
2月	4	7	2	0	0	0	3	1	1
3月	0	1	0	1	2	0	0	0	0
合計	17	35	17	11	24	15	19	17	2

(重複回答4)



■来館者住所分布

	大阪府	京都府	兵庫県	奈良県	和歌山県	滋賀県	その他
4月	5	1	2	0	0	0	0
5月	16	0	3	1	1	0	3
6月	13	0	2	0	0	0	0
7月	7	0	2	0	0	0	2
8月	7	0	3	0	0	0	5
9月	2	0	0	0	0	0	0
10月	8	0	0	0	0	0	0
11月	20	0	4	1	0	0	1
12月	7	1	1	2	0	0	0
1月	6	0	2	0	0	0	2
2月	17	0	1	0	0	0	0
3月	2	0	1	0	0	0	1
合計	110	2	21	4	1	0	14



●その他内訳

(5月) ・東京都北区
・岐阜
・東京都
・大阪市(大阪府にはチェックあり)

(7月) ・鹿児島
・島根県

(8月) ・富山県(2件)
・北海道
・東京都
・石川

(11月) ・茨城県

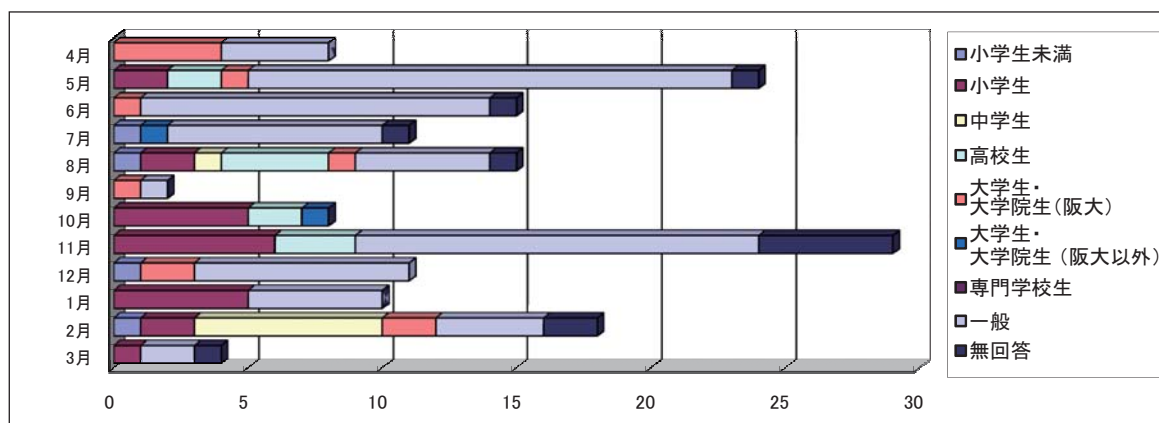
(1月) ・長崎県(2件)

(3月) ・広島県

■来館者学年分布

	小学生未満	小学生	中学生	高校生	大学生・大学院生(阪大)	大学生・大学院生(阪大以外)	専門学校生	一般	無回答
4月	0	0	0	0	4	0	0	4	0
5月	0	2	0	2	1	0	0	18	1
6月	0	0	0	0	1	0	0	13	1
7月	1	0	0	0	0	1	0	8	1
8月	1	2	1	4	1	0	0	5	1
9月	0	0	0	0	1	0	0	1	0
10月	0	5	0	2	0	1	0	0	0
11月	0	6	0	3	0	0	0	15	5
12月	1	0	0	0	2	0	0	8	0
1月	0	5	0	0	0	0	0	5	0
2月	1	2	7	0	2	0	0	4	2
3月	0	1	0	0	0	0	0	2	1
合計	4	23	8	11	12	2	0	83	12

(重複回答2)



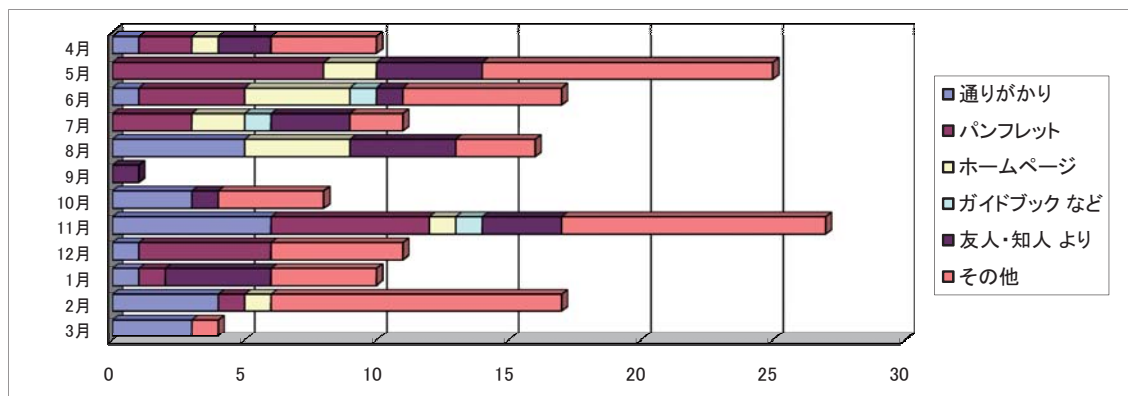
●一般内訳

(4月)	(5月)	(6月)	(1月)
・歌人	・小学校教師	・会社員	・教員(2件)
	・大学職員		
	・歌人・文芸家	(11月)	(2月)
	・会社員	・会社員	・外国語学部非常勤講師
	・卒業生		

Q 1 どのようにして当館をお知りになりましたか？(複数回答可)

	通りがかり	パンフレット	ホームページ	ガイドブックなど	友人・知人より	その他
4月	1	2	1	0	2	4
5月	0	8	2	0	4	11
6月	1	4	4	1	1	6
7月	0	3	2	1	3	2
8月	5	0	4	0	4	3
9月	0	0	0	0	1	0
10月	3	0	0	0	1	4
11月	6	6	1	1	3	10
12月	1	5	0	0	0	5
1月	1	1	0	0	4	4
2月	4	1	1	0	0	11
3月	3	0	0	0	0	1
合計	25	30	15	3	23	61

(無回答1)

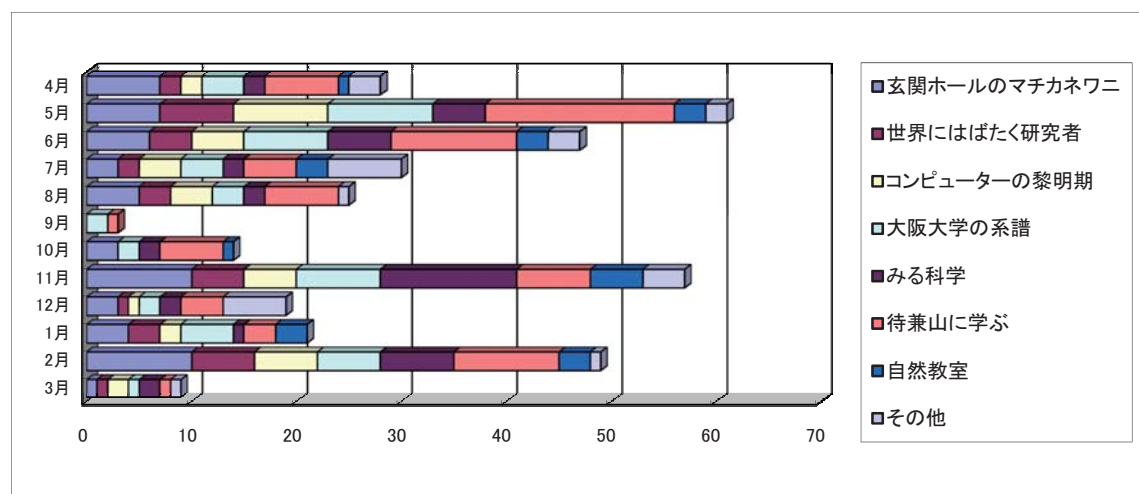


●その他内訳

(4月)	(11月)
・正確な場所と、展示の概要を、TELにて本日、大学の方に教えていただきました。	・学祭(待兼祭)に来た(2件)
・授業(2件)	・広報
	・豊中広報
(5月)	・ダイレクトメール
・前にイ号館に来たことがある	・大学からの手紙
・チラシ	・阪大工業会同窓会
・ポスター	・つれてきてもらった。
・おかあさん	・大学見学
・パンフレットをもとに、TELといあわせにて、概様を教えて頂いた。	・修学館から案内
・図書館にて	
・チラシ 西淀図書館	(12月)
・以前見ました。	・阪大生なので
・父が卒業生だから	・21世紀の薬箱のお知らせのチラシ
・息子から	・通知
・同窓会連合会からの連絡による	・夫より
・ダイレクトメール	・湯川博士記念展
(6月)	(1月)
・元阪大	・大さか大がくツアーで
・以前大学に来たときにも知った	・朝日新聞で
・毎日新聞	・子どもの紹介(2件)
・NHKラジオ	
・チラシ	(2月)
・モノレールでチラシ入手	・学校(5件)
(7月)	・総合
・大学見学	・学園で
・案内文書	・そうごうがくしゅう
	・文化さいでいった
(8月)	・近所
・学校の研修旅行(2件)	
・パパ(父親と)	(3月)
	・子供が大学に在籍
(10月)	
・学校の見学で(2件)	
・イベント	

Q 2 どの展示ゾーンが面白かったですか？(複数回答可)

	1階			2階		3階	R階	その他
	玄関ホールのマチカネワニ	世界にはばたく研究者	コンピューターの黎明期	大阪大学の系譜	みる科学	待兼山に学ぶ	自然教室	
4月	7	2	2	4	2	7	1	3
5月	7	7	9	10	5	18	3	2
6月	6	4	5	8	6	12	3	3
7月	3	2	4	4	2	5	3	7
8月		3	4	3	2		0	1
9月	0	0	0	2	0	1	0	0
10月	3	0	0	2	2	6	1	0
11月	10	5	5	8	13	7	5	4
12月	3	1	1	2	2	4	0	6
1月	4	3	2	5	1	3	3	0
2月	10	6	6	6	7	10	3	1
3月	1	1	2	1	2	1	0	1
合計	59	34	40	55	44	81	22	28



●その他内訳

(4月)

・展示ゾーン外ですが、“玄関口”、何故なら、「キャンパスに咲く花」(大阪大学出版会)の、案内チラシを手にしまして、私が、「こういう本が欲しかった！」と思い、「坂」カフェにて、今日、購入することが出来たためです。

・屋上(2件)

(5月)

・企画展

・受付のマチカネワニの縫いぐるみ。もう少し小さいサイズ、があれば、部屋に置きたい。

(6月)

・東洋のマンチェスターから大大阪へ(2件)

・すべて

(7月)

・建物自体

・東洋のマンチェスターから大大阪へ(5件)

(8月)

・わに

(11月)

・21世紀の薬箱(3件)

・こふん

(12月)

・21世紀の薬箱(6件)

Q3 来館は何回目ですか？

	はじめて	2回目	3回目	4回目以上	無回答
4月	6	2	0	0	0
5月	18	4	0	2	1
6月	9	5	0	1	0
7月	6	3	1	1	0
8月	13	1	0	1	0
9月	2	0	0	0	0
10月	7	0	0	1	0
11月	17	6	2	1	1
12月	5	2	2	1	1
1月	4	3	1	2	0
2月	12	3	0	2	1
3月	3	1	0	0	0
合計	102	30	6	12	4

(重複回答1)

内訳

(11月)

・ここに移ってから初。
昨5月祭にアンケート書いたので時々DMIはいただいている。
(それともOBだからか？)

Q 当館の展示についてご意見やご要望をお聞かせください。

(※記入のあったものの一部について誤字を改めた以外は、原文のままの収録とした。)

● 4 月

- ・ 去年の、初夏頃、「湯川、朝永、両先生の、二人展を、旧、イ号館にて、見せて頂き、感動！以来、当、総合学術博物館、(修学館)が、8 月頃、設立されるとの、ことを、その時の、パンフレットで、知っておりまして、今年、時間に、ゆとりができてまして、まいりました。1F の湯川先生を中心とする各先生の、お言葉や、展示がちょうど、「去年の二人展」を、コンパクトにしたようで、要点まとめ、また懐かしく、見せて頂くことができました。有難うございます。また、まいります。わりと近いのです！！最後に、私は、歌人ですので、短歌を、一首、詠みます。もちろん、大阪大学を、訪れた頃の歌です。アザシ咲く 池のほとりは、静かにて その奥に ある 基礎工学部 (この歌は、永田和宏先生、(京大教授、《細胞生物学》に、師事していた頃、誉めて、いただいた歌です。2004 年頃の作です。)
- ・ マチカネワニのコーナーを1階にもってきた方がよかったのでは？と思いました。もっとカフェのアピールをするべきです。大学の人しか使えない所のように見えて入りづらいです。せっかくすてきなのにもったいない。
- ・ 大学内に博物館があるのがおどろきでした。しかもワニがいたとは・・・
- ・ 楽しかったです♪3回目も来たいです。
- ・ 顕微鏡を見る時、子どもが見れないので台が必要
- ・ アンケートの場所が少しわかりにくいです。

● 5 月

- ・ 想像以上に素晴らしい。各地の大学の博物館でも、これほどのところは少ない
- ・ 待兼で発見されたマチカネワニがいたことなどに驚き、感動し、子どもたちにも教えたいと強く思いました。
- ・ 立派な、博物館で感心しました。
- ・ 古い建物をうまく利用したとおもいます。
- ・ 館長をはじめ関係者のご苦勞に敬意をはらいます。
- ・ 大変楽しく見ることができました。
- ・ 屋上の自然教室にある、「キャンパスに咲く花の、パソコン」は、私の、心のよりどころです。あの空間の、存続を、心から願う。今、大阪府財政難にあっても、こちらの、この、施設だけは、ずっと、あって欲しい。商都大阪、心あつての、商業なり。その豊かなる心を、育てるためには、先ずは、こちら、阪大、ミュージアム、の様な、こころのゆとりを、我々、に、与えてくれる施設は、絶対必要である！そ

れと、別件ですが、希望。“科学映画の上映”を、望みます。有料（映画のみですが）でも、かまいません。菊池正士博士のサイクロトロンにまつわる、記録、映画が、今年に入って、京大の、方で、女子学生たちの手によって、上映されました。第二次世界大戦後、GHQにより、サイクロトロンが、破戒されたこと、そのあと、再び、日本人の手により、再生された、それらの記録を、映画にしたものです。私は、残念にも、用事ありて、その日、映画を観る事が出来なかったのも、何とか、再上映を、さがしていますが、未だ手がかりがありません。又、冬は、雪の結晶、中谷宇一郎先生の、“雪の結晶”（岩波映画）の、記録を、上映して頂けたらなあ、と、願います。以上。↑初回、映画が上映されたのは、S30 ごろか、S35 又は、～S37 頃と思います。

- ・ 何となく気負って行きにくいと思っていましたが、実際に来て見ると親近感があり、環境も素晴らしくゆっくり見学できて、良かった。自然教室の方にも行きたかったが鍵がかかっていた残念です。
- ・ 名門大学のキャンパスの充実した内容にすっかり魅せられました。再度訪問したいと思います。ありがとうございました。
- ・ 大変充実していて印象深く拝見いたしました。展示方法もよく工夫されていると感じました。有難うございました。
- ・ 大きな真空管式コンピューターをせっかく作ったのに実用化されなかったことは、残念に思います。数学の苦手な私にはコンピュータの話は頭痛を起こすものでしたチンプンカンプンでした。「東洋のマンチェスターから大大阪へ」はおもしろかったです。（特に古い地図が）
- ・ 楽しかった。みる科学——少しむづかしい。
- ・ 楽しかったです。ケンビキョーなど体験できたので
- ・ また来たいと思います。
- ・ 題8回企画展を目的に来館しました。予想以上に楽しめて良かったと思います。
- ・ 以前の環境から美しく整理され分かりやすかった。
- ・ 家族5人できて と～～っても楽しかった。
- ・ ワニのオリジナルのぬいぐるみを作って販売したら売れるかも？
- ・ 年輩の人のために、ところどころに一寸坐れる場所がほしい。食堂に、一覧表を掲げてほしい。欲しかったのに、ケーキがありませんでした。近くの人にPRしますので、パンフレットが役に立ちます。見学に案外時間がかゝることを、再度PRしなければと思っています。立派な博物館で、喜んでいます。
- ・ 1時間では、時間不足 再度訪問します。

● 6月

- ・ 有料でいいので（簡単なものでもいいですから）パンフ（ガイドブック等）を販売

して下さい（企画展の分も載っているもの）（懷徳堂の会員です）

- ・ 「東洋のマンチェスターから大大阪へ」・・・すばらしい展示です。
- ・ 阪大の前身である懷徳堂や適塾のことが知れてよかった。
“東洋のマンチェスター” 高札や寺社札の展示珍しくてよかった。有難うございました。
- ・ 非常におもしろかったです。これからもがんばってください。
- ・ 足を運んだ甲斐がありました（寄付リスト）興味深く見せていただきました
- ・ 2年余、豊中に住んでいますが、つい最近 存在を知りました。もう少し PR をされた方がよいと思います。
- ・ リニューアルされみやすくなりました ○駅からの案内表示がわかりにくく、通りすぎてしまいました。 ○特別展示が多く企画されることを期待します

● 7 月

- ・ 先月も来て見せていただきましたが、本日も又、来ました。今回の図録を発行なさるようでしたらどうかお知らせくださいませ
- ・ 3F 企画展で嘉永 6 年を 1953 年とするキャプションの誤りがあります
- ・ 企画展を定期的に開催してほしい
- ・ 展示に関連して→資料室（図書室）を設けて、詳しく知りたいことはそこで学べるようにする、図書館内でも良いがコーナーを設けるなど
- ・ 企画展が面白かった。有名企業の意外な一面を知ることができた。
- ・ 見学会をする予定ですので、年間を通して開館してほしい。
- ・ 医短の建物の変わり様にびっくりしました。
- ・ いつもきてないけどみたらたのしくてすげー
- ・ いつみてもたのしい！すげー

● 8 月

- ・ いすを増やしてほしいです。待合室的な？
- ・ きれいで良かったです。
- ・ まず一言、よかった！
- ・ おもしろかったです。
- ・ わにすごかったです☆
- ・ 分かりやすく、興味深い展示でした。ありがとうございました。
- ・ （1）なつかしい先生方の写真に感心しました。（2）土産物に古い時代の書物をおかれたらよろしいのではないか
- ・ 次回、サイエンスカフェに参加したいと思います。
- ・ 水飲み場があるとたすかる。マチカネワニが印象的。又、もっと理学、特に数学に

ついでに展示ゾーンがないといけない、正田建二郎等、色々。

- ・ マチカネワニのこととか古墳のこととかくわしくてよかったです。

● 9月

- ・ 冷房が少し寒かった。
- ・ 一回も訪れずに卒業するのはもったいないと思うので、阪大生全員に来てほしい。
- ・ 元医療短大の学生です。一号棟がこんなにきれいになって、残っていたなんてとても驚きです。床の一部や階段・ステンドグラスなど学生時代そのままで懐かしく思いました。医療短大は小さくて目立たない学校だったけど私の思いでの場所。少しでも残してくれてとても感謝します。

● 10月

- ・ 大学の系譜の展示で戦時中の学生を軍事教練していたことについて「学生は汗を流しました」と書かれていましたが、学業を奪って、軍事教練を強いた責任にはふれないのですか？もちろん、当時の大学への国家的な圧力もありましたが、「ペンを銃に持ちかえさせた」大学、国の責任は、明記すべきでしょう。今の展示では、あたかもよく学生は軍事教練をしたと書いているように読めます。それと、1952年の吹田事件についても展示してください。
- ・ 楽しいから、もっときたい
- ・ マチカネワニがものすごく大きくてびっくりしました。阪大の歴史を知れて、勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ マチカネワニが大きくてかわいかったです。けんぴ鏡でもっと色んなものが見たかったです。
- ・ いろんなことを知った

● 11月

- ・ ワニの大きさにとても驚きました。トイレも清潔で良かったです。
- ・ ワニの事は始めて詳細に説明を聞いてよく解りました。感動も致しました。豊中のほこりと思います。
- ・ 21世紀の薬箱 洪庵の薬箱をまのあたりにし興味が深かった。レストランもあり利用しやすいと思いました。
- ・ もっと中世の待兼山の資料を展示公開してほしいです。
- ・ 知らないことが沢山あり 大変面白くみました もっと宣伝しましょう 神農祭の のぼりが印象深い。
- ・ 看板を大きく。「入場無料」を明示。）→これで入館しやすくなる。
- ・ こふんのもけいに小さい人ぎょうのはたらく人がたくさんいました。でも、こうじ

の時けいびいんのしごとをしていた人のにんぎょうもかざってほしいです。

- ・ マチカネワニの化石がすごい！次は、家ぞく4人全いできたい！入口の所のレプリカもすごかったです 次は、もっと、いい所も作ってほしいなあ（おみやげを小さいばんのマチカネワニのレプリカが、あったらいいと、思う）
- ・ 日本の薬に関する歴史的な流れと最新新薬の開発研究状況と併せて大阪大学薬学部との関連性が簡潔にまとられていた。今後の企画として製薬会社（大阪）が経済地盤沈下により本社の東京移転へととなった。更にグローバル化により企業合併を促進した。明治以降における大阪製薬業界の変換、又世界第一次世界大戦により、欧米からの原料輸入ストップによって、どのような日本独自の薬品が開発されたか、20世紀における人類へ疫病防止に役立った薬品の歴史等を希望する。
- ・ 生薬のこと よくわかりました。
- ・ とても、良い所だと思いました。また、来てみたいです。大学がこのような博物館を無料で公開していることに感動しました。
- ・ 「阪」のテーブル席が学生食堂の感じで残念でした。カウンター席は良かったです。テーブル・チェアを替えた方が良いと思いました。

● 12月

- ・ 薬学部だったので、非常に参考になった
- ・ 私は文系なので「？」の展示も多かったです。
解説をしてくれる方でもいれば、もっと楽しめたかもしれません。
また、時間をとってゆっくり観に来ます。
- ・ 「21世紀の薬箱—新しい医療文化の形成—」のお知らせのチラシを見て行こうかどうか悩みました（正しくは迷いましたと言うべきか）。何せ大阪大学で学生の人でなければ行けない所なのか、場所も遠すぎるし行くのも不安を感じたのかよめようかなとさえ思いましたが何かのきっかけか思い切って行こうかと思い、今日に至る所でございます。行って帳面に展示の事を書き写しをしようと思いましたが、先の所が長い（失礼だが百貨店の美術展や美術館の美術展の影響か）ので時間の事を考えると書き写しをするのが面倒になって見るだけにして次の機会に回そうと思いやめました。でも最後が思ったほど長くなかったのでメモすれば良かったなと思いました。でも一度やめてしまったから次の機会があれば今度はゆっくりと（と言っても少しずつ）メモをしたりしたいと思います。ナマコが水虫に効く事が書かれてあるのを見て驚きました。食べる為ならよく知られていますがまさか薬に使われているなんてと思いました（?）。機会がありましたらまた今日の特別展に行きたいと思います。本当にありがとうございました。
- ・ 特別展、最新の研究のビデオ、大変分かりやすく、素人の私にもどのように人工核酸が作用して病気を防ぐのかよく理解できました。どうも有難うございました。

- Video の人工核変おぼろげながら私なりに理解できました。
又ジキタリスについての説明興味深く拝見しました。
- 人生の最終末期（87 才）を迎え今更と云う思いが濃厚なのですが余生（命）を（自然科）教育の再生改新に懸けるべく先代父の創始せし自然科教育を二代私も教職歴 50 年教育者（この「学」をあてました。）一筋の経験を生かし、池田、城南の地に於いて単身取り組んでおりますが、なにぶんこの年になってもわからぬこと計りで恥づかしいことなのですが折角 1 時間以内（豊中阪大キャンパス）吹田キャンパス（2 時間否）の総合大学が存在致しますので厚釜しいことですが生涯学習の場として今後共御指導御鞭撻戴き度お願い致し杓。

● 1 月

- 来てよかったです しぜんきょうしつとちきゅうをうごかすこのへやがおもしろかったです。また来ます。
- 自ぜん教室おもろ～ またくるね
- やはり団体で来るのではなく一人でゆつくりと何日も掛けて見学をしたいものです
後日又、見学させて戴きたと存じます 有難うございました
- 益々のご発展にご期待申し上げます
- 館内の方々のご丁寧な対応に感心しました。ありがとうございました。
- たのしかった。（2 件）
- 阪大の OB で、今年息子が受験します。今度は家族と来ようと思います

● 2 月

- マチカネワニ（本物）見れてうれしかったです。
- ワニ以外にもいろいろあって楽しかった。
- よかった
- ワニがすごく大きくておどろいた。
- なんと見てもワニはでかいですね。
- わに やベエーでかい
- マチカネワニがとてもおおきくてびっくりしました。
- 展示ゾーンがいずれも充実していて たいへん楽しかったです。
- とても面白かったです。もっと阪大生は来るべきだと思いました。
もったいないです。1 年必修に入れたらいいと思います。
- おもしろかったよ
- たのしかった
マチカネワニのか石を見るのが 二かいのけんぴきょうで見るのがおもしろかった。
- 大変勉強になり、学生さんにも紹介したいと存じます。

- ・ もっと来てくれる人が多いといいです。なにかが不足しているのかな？

● 3月

- ・ もっと地域に密着した博物館作りをするべきではないのでしょうか？ホームページでは、毎回みさせて頂いてますが、ここの、ランチ情報などを細かく載せて、こうしんしていくべきだと思います。また英語だけでなく、中国語や韓国語の案内、パンフレットも作るべきです。
- ・ 兵庫県に住んでいるせいかもしれませんが、こんなに素晴らしい設備、もっと、一般に周知しらしめるべきです。知らなかった、ので。サイエンス・カフェの試みも、よいと思います。子供の、理科離れ防止に大いに役立つでしょう。とても興味深く拝見いたしました。

3.7 団体見学等一覧

No.	月日	曜日	団体名	人数	説明教員等
1	平成20年4月2日	水	富山大学和漢医薬学総合研究所 所長 他	4	高橋
2	4月3日	木	タイ・シラパコーン大学研究開発研究所 所長 他	20	なし
3	4月4日	金	(社)近畿化学協会「春秋会」	15	江口
4	4月21日	月	授業「地球科学」	60	
5	4月24日	木	鳥取県米子市立弓ヶ浜中学校	5	
6	4月24日	木	守口市エイフボランティアネットワーク	25	なし
7	4月25日	金	大成高等学校(愛知県一宮市)	38	豊田
8	4月30日	水	授業「地球環境科学入門」	60	
9	5月10日	土	池田郷土史学会	50	
10	5月14日	水	阪大1953年卒同窓生	15	廣川
11	5月15日	木	大阪府高齢者大学同窓会吹田	30	江口
12	5月21日	水	豊中の歴史(豊中市教職員の研究会)	13	上田
13	6月4日	水	七国立大学施設担当理事連絡会	23	江口
14	6月12日	木	アーカイブ基礎セミナー	30	廣川
15	6月13日	金	大阪大学理学部卒業生	8	上田
16	6月14日	土	楓林会(名誉教授)	10	江口
17	6月21日	土	化学系学部長会	10	江口
18	6月21日	土	近代大阪美術研究会	20	橋爪
19	6月24日	火	大阪大学名誉教授会	42	館長、橋爪、高橋
20	6月26日	木	博物館見学会	10	
21	6月27日	金	クラーク記念国際高等学校大阪キャンパス クラークセミナー	14	
22	6月30日	月	社団法人近畿化学協会「無為会」	12	館長
23	7月8日	火	岡山県立岡山大安寺高等学校 (普通科・2年生)	4	横田
24	7月19日	土	大阪大学工学部精密工学科S43期同窓会	10	
25	7月23日	水	京都府立福知山高等学校	43	
26	8月4日	月	富山県立南砺総合福野高等学校	43	豊田
27	8月7日	木	国学院大学博物館学研究室	43	江口、上田
28	8月8日	金	なゆた会	20	江口
29	8月9日	土	五月山児童文化センター	25	上田

No.	月日	曜日	団体名	人数	説明教員等
30	8月14日	木	徳島県立鳴門高等学校	42	上田
31	9月2日	火	歩佳歩会(大阪府高齢者大学)	30	高橋
32	9月25日	木	博物館を10倍楽しむ (朝日カルチャーセンター京都の講座)	15	
33	9月25日	木	韓国・ハヤンサイバー大学	40	豊田
34	9月26日	金	立心会(昭和30年理学部化学科卒業生同期会)	15	
35	9月27日	土	吹田操車場遺跡・明和池遺跡の保存と活用を考える市民の会	30	廣川
36	10月7日	火	北摂の歴史を知る会	40	
37	10月7日	火	島根県立松江南高等学校PTA	49	
38	10月8日	水	滋賀県立守山中学・高等学校(PTA研修)	130	
39	10月23日	木	国立七大学共通教育主幹部局事務協議会	15	江口、上田、横田
40	10月24日	金	大阪府立住吉高等学校	120	
41	10月25日	土	千里ライフサイエンス振興財団	50	
42	11月2日	日	NPO法人 とよなか市民環境会議アジェンダ21	30	
43	11月4日	火	ラムカムヘン大学(タイ)から博物館見学	100	江口、高橋
44	11月8日	土	大阪大学工学部機械系同窓会	80	
45	11月15日	土	千里ロータリークラブ	23	
46	11月18日	火	基礎工学部技術研修(技術部)	15	豊田
47	11月18日	火	報徳学園高等学校	76	廣川
48	11月27日	木	和歌山県立古佐田丘中学校	83	豊田
49	12月1日	月	大阪府高齢者大学・同窓会	10	
50	平成21年1月10日	土	ダイハツ歴史と考古学研修同好会	15	上田
51	2月2日	月	豊中市立第八中学校	80	
52	2月21日	土	千里国際学園の博物館見学会	40	
53	3月4日	水	豊中市立小中学校研究協議会 生物・地学部会	10	
54	3月27日	金	台北医学大学薬学部	15	廣川

計 1,855

3.8 待兼山修学館3階セミナー室使用状況一覧

No.	月日	曜日	行事又は集会名	人数
1	平成20年4月5日	土	大阪大学歴史学研究会	30
2	4月10日	木	生命理学基礎演習	27
3	4月11日	金	基礎セミナー「植物を知り、植物に学ぶ」	16
4	4月12日	土	待兼山史友会総会	30
5	4月18日	金	基礎セミナー「植物を知り、植物に学ぶ」	16
6	4月23日	水	阪大初任者研修	36
7	4月25日	金	基礎セミナー「植物を知り、植物に学ぶ」	16
8	5月2日	金	インターンシップ授業	10
9	5月3日	土	インターンシップ授業	10
10	5月8日	木	総長、理事と部局長等との懇談会	
11	5月9日	金	基礎セミナー「植物を知り、植物に学ぶ」	16
12	5月14日	水	薬学研究科大学院講義「薬用資源学」	12
13	5月15日	木	大阪府高齢者大学同窓会吹田	30
14	5月16日	金	基礎セミナー「植物を知り、植物に学ぶ」	16
15	5月23日	金	基礎セミナー「植物を知り、植物に学ぶ」	16
16	5月24日	土	待兼山自然観察会	50
17	5月30日	金	基礎セミナー「植物を知り、植物に学ぶ」	16
18	6月5日	木	自然史系博物館による標本救済ネット(仮称)ワークショップ	30
19	6月6日	金	大学博物館等協議会	
20	6月12日	木	アーカイブ基礎セミナー	30
21	6月21日	土	化学系学部長会	10
22	6月21日	土	近代大阪美術研究会	20
23	6月24日	火	大阪大学名誉教授会	45
24	6月26日	木	化学専攻企画展会議	10
25	6月27日	金	クラーク記念国際高等学校大阪キャンパス クラークセミナー	15
26	6月27日	金	基礎セミナー「植物を知り、植物に学ぶ」	16

No.	月日	曜日	行事又は集会名	人数
27	7月4日	金	博物館秋季特別展準備委員会	10
28	7月4日	金	基礎セミナー「博物館体験コース」	16
29	7月12日	土	阪大住吉会・大阪大学総合学術博物館見学会	30
30	8月4日	月	富山県立南砺総合福野高等学校向け講義	43
31	8月9日	土	五月山児童文化センターの見学説明対応	25
32	8月14日	木	鳴門高等学校の見学説明対応	42
33	8月25日	月	夏の小学生科学体験教室	30
34	8月26日	火	夏の小学生科学体験教室及び 高校生ボランティア講座科学体験教室	30
35	8月27日	水	夏の小学生科学体験教室	30
36	8月28日	木	夏の小学生科学体験教室	30
37	9月13日	土	大阪大学安全衛生連絡協議会	12
38	9月26日	金	高校生ボランティアフォーラム(事前準備)	2
39	9月27日	土	高校生ボランティアフォーラム	40
40	10月17日	金	理科教育研修(生物)	20
41	10月18日	土	外国語学部・人間科学研究科グローバル 人間学専攻共同・ベトナム関連学生研究 成果発表会	20
42	11月7日	金	嵩(かさみ)賞の授賞式	20
43	11月12日	水	第8回ミュージアムレクチャー (特別展関連イベント)	40
44	11月15日	土	特別観察授業	23
45	11月22日	土	第9回ミュージアムレクチャー (特別展関連イベント)	40
46	11月29日	土	自然体験学習会 第4回【おもしろ科学実験】	50
47	12月6日	土	第10回ミュージアムレクチャー(特別展関連 イベント)	40
48	12月13日	土	第8回ミュージアムレクチャー (特別展関連イベント) 2回目	40
49	平成21年1月21日	水	第6回圧電マイクロデバイス研究会	25
50	1月24日	木	スピノザ協会 第50回研究会	30
51	2月2日	月	団体見学(豊中市立第八中学校)の説明対応	80
52	2月14日	土	文化庁 NPOモデル事業 登録文化財の活用の方方向性について	30

No.	月日	曜日	行事又は集会名	人数
53	2月16日	月	近畿化学協会2009年度環境技術賞に関する 事前審査のため	3
54	2月20日	金	ヒューマンサイエンス政策創薬総合研究、 平成20年度第8回班会議	22
55	2月21日	土	サイエンスパートナープロジェクト講座型学習 活動及び博物館見学会(千里国際学園)	40
56	3月7日	土	共同研究 研究会	36
57	3月18日	水	大学教育実践センター自己評価会議	6
58	3月23日	月	第9回handai metaphysica 研究例会	30
59	3月27日	金	団体見学(台北医学大学)の説明対応	15

計 1,473

4. 館内配置図



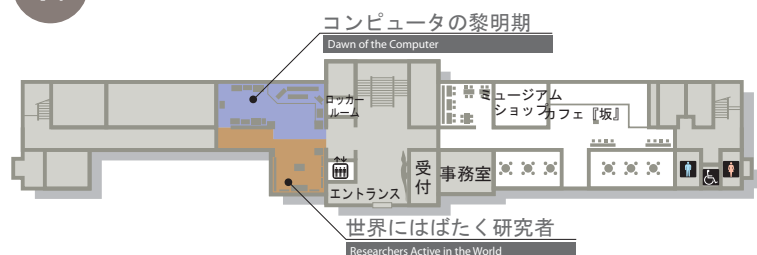
大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館



「知」を軸に人・モノ・情報が出会い、交流し、新たな「知」の創造を目指す。

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館のご案内

1F



コンピュータの黎明期

Dawn of the Computer

世界にはばたく研究者

Researchers Active in the World

コンピュータの黎明期 Dawn of the Computer

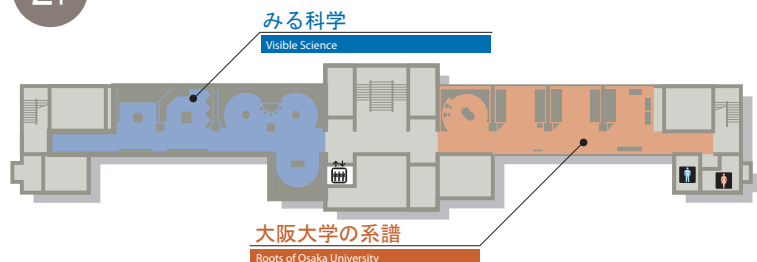
阪大では、第二次世界大戦後まもなく真空管式コンピュータの研究と試作を始めました。その当時誕生したばかりの真空管式コンピュータと、時代の先駆を担った研究者たちを紹介しています。

世界にはばたく研究者 Researchers Active in the World

ノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹が、中間子論を着想した大阪大学物理学教室。当時、日本の科学の中心といわれた理学部の自由な研究環境、そこに関わりのある様々な研究者を紹介しています。

ミュージアムカフェ「坂」 Museum Cafe「SAKA」

2F



みる科学

Visible Science

大阪大学の系譜

Roots of Osaka University

みる科学 Visible Science

光学顕微鏡、電子顕微鏡、超高圧電子顕微鏡のしくみや、細胞より小さい分子の構造や、仕組みを明らかにするX線構造解析などの技術と、それらを利用した研究の一端を紹介しています。

大阪大学の系譜 Roots of Osaka University

かつての懐徳堂、適塾といった大阪市民の学問からの流れを継承し、今日まで受け継がれてきた大阪大学。その学問や研究活動と、社会との関わりの歴史を紹介しています。

3F



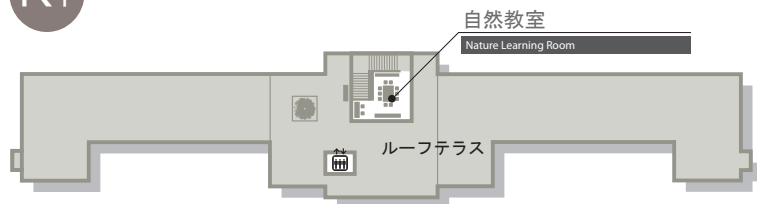
待兼山に学ぶ

Learning from Machikaneyama

待兼山に学ぶ Learning from Machikaneyama

阪大豊中キャンパスが位置する待兼山。古代の生物や、地形の変遷から、現在の豊かな自然の中で棲息する生き物の営みまで、地域に根ざしその変化を解明する研究を紹介しています。

R F



自然教室

Nature Learning Room

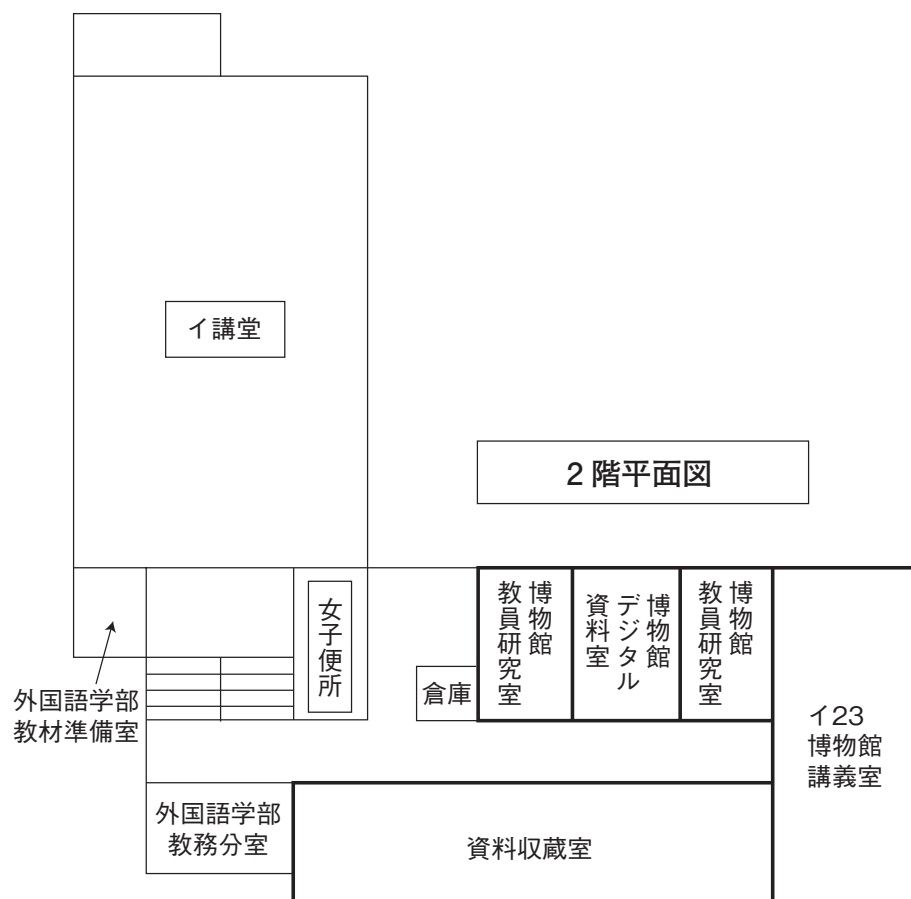
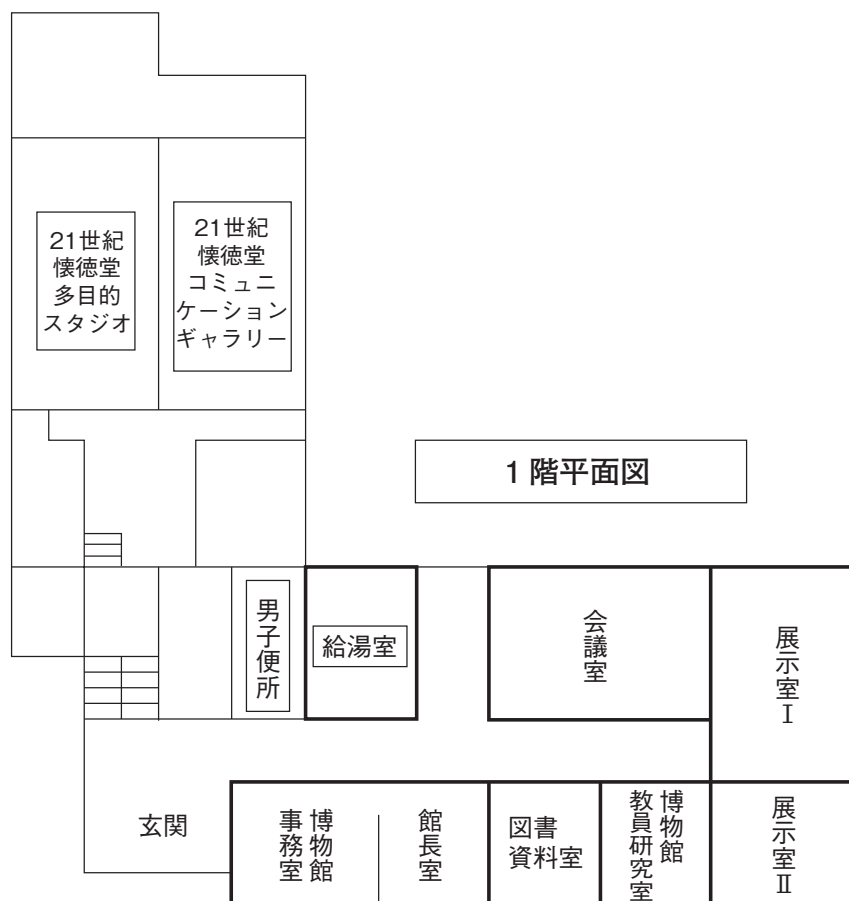
ルーフテラス

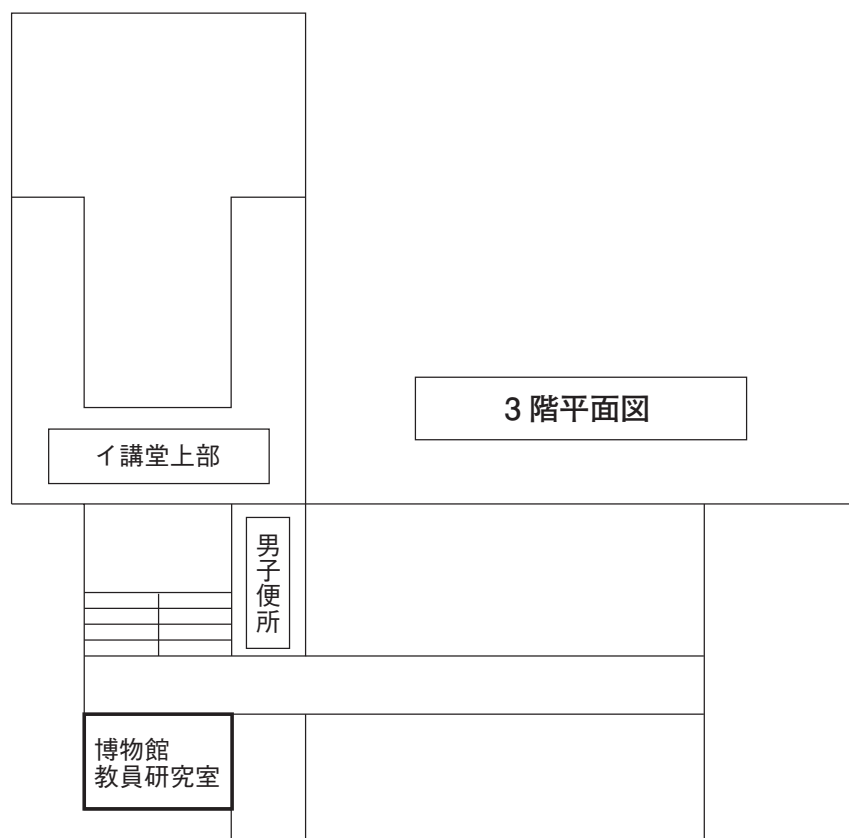
自然教室&ルーフテラス Nature Learning Room

阪大キャンパスは豊中、吹田共に自然がいっぱいです。自然教室内に設置されたPCでは「阪大キャンパスに咲く花」を検索することができます。また、ルーフテラスに出れば背後の待兼山の息吹を感じることができます。

Museum of Osaka University

総合学術博物館案内図（イ号館）





5. 寄贈図書一覧

No.	寄贈者	書名
1	池田市立歴史民俗資料館	賑－交わる街道と池田－
2	大坂城天守閣	特別展 徳川大坂城－西国支配の拠点－
3	香川県歴史博物館	海に開かれた都市
4	香川県歴史博物館	瀬戸内海をクジラが泳いだ
5	関西学院大学博物館開設準備室	本に貼られた版画－蔵書票の美－
6	九州国立博物館	九州国立博物館紀要 東風西声第3号
7	九州国立博物館	釈迦誕生図・受け継がれる朝鮮仏画の名品
8	九州国立博物館	博物館と文化財修理
9	九州国立博物館	第2回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム
10	九州国立博物館	天にささげる器 朝鮮時代の祭器
11	九州国立博物館	「京都五山禅の文化」展
12	九州国立博物館	国宝大絵巻展
13	九州国立博物館	島津の国宝と篤姫の時代
14	九州国立博物館	国宝 天神さま
15	九州国立博物館	天神さま学習帳
16	九州国立博物館	工芸のいま 伝統と創造
17	九州国立博物館	わたしのはなし(きゅーはくの絵本6)
18	九州国立博物館	おおきな博物館(きゅーはくの絵本7)
19	九州大学総合研究博物館	奴国の南－九大築紫地区の埋蔵文化財－
20	京都府立丹後郷土資料館	丹後丹波の薬師信仰
21	国立民族学博物館	世界を集める 研究者の選んだみんぱくコレクション
22	国立民族学博物館	深奥的中国 少数民族の暮らしと工芸
23	鈴木 不二男	私の軟骨代謝研究－生化学者の回想－
24	鈴木 不二男	骨はどのようにしてできるか 軟骨分化の謎を探る
25	財団法人 武田科学振興財団	杏雨書屋所蔵 医家肖像集
26	たばこと塩の博物館	水煙具・東アジアの喫煙具・シガー&シガレットホルダー
27	たばこと塩の博物館	丸山コレクション 西アジア遊牧民の染織
28	たばこと塩の博物館	近世初期風俗画 躍動と快楽
29	たばこと塩の博物館	おらんだの楽しみ方 江戸の舶来文物と『蔦録』
30	長野市松代真田宝物館	川中島の戦いを科学する
31	長野市松代真田宝物館	真田家の菩提寺 長国寺調査報告書
32	長野市松代真田宝物館	真田家伝来 古銭拓本集
33	佛教大学宗教文化ミュージアム	学術調査中間報告 清浄華院の名宝
34	北海道大学総合博物館	洞爺湖・有珠火山地域の環境と資源
35	北海道大学総合博物館	ライマンと北海道の地質－北からの日本地質学の夜明け－
36	北海道大学総合博物館	極東民族史におけるアイヌ文化の形成過程
37	北海道大学総合博物館	カレル・チャペックその生涯と時代
38	北海道大学総合博物館	先人の手あと 北大所蔵アイヌ資料－受けつぐ技－
39	八尾市立歴史民俗資料館	八尾の渡来文化
40	和歌山市立博物館	特別展 岩瀬広隆－知られざる紀州の大和絵師－

編集後記

『大阪大学総合学術博物館 年報 2008』は、2002 年に阪大博物館が発足して以来、7 冊目の実質的な年度報告書です。

昨年までと異なる点は、2008 年度の活動が 2007 年の夏にリニューアルオープンした待兼山修学館展示場を中心に行なわれたことです。博物館設立以来、毎年恒例となった企画展や特別展も、待兼山修学館展示場に場を移したことで、これまで以上にじっくりと腰を落ち着けて観覧できる展示を提供できるようになりました。また昨年好評いただいた「夏の小学生科学体験教室」を引き続き企画し、多くの小学生に本物の科学を伝えることができたと思います。さらに、学内の関係部局の協力のもと、2008 年度の新たな試みとしてサイエンスカフェがスタートいたしました。この年報にもその様子を掲載しましたが、老若男女を問わず大勢の方々に“学問することの面白さ”を伝えることができたのではないかと自負しています。このように、阪大博物館は創設 7 年目にして、文科系、理科系を問わず学問としてのサイエンス（科学）を易しい言葉で一般の方々に伝える、まさに“知のインタープリター（通訳者）”として、充実した年を迎えたと思います。皆様にも、その一端をぜひ体感していただきたいと思います。

（文責 上田 貴洋）

大阪大学総合学術博物館 年報 2008

2009 年 9 月発行

編集・発行 大阪大学総合学術博物館
〒560-0043 豊中市待兼山町 1 - 16
印刷 株式会社 セイエイ印刷
〒536-0016 大阪市城東区蒲生 2 - 10 - 33

表紙デザイン 辻村紀子（アトリエツジムラ）
